

甲府市内遺跡IX

— 平成19～20年度試掘確認調査報告書 —

2013

甲府市教育委員会

序

本市は、甲府盆地を形成する奥秩父連峰に連なる北部山地から曾根丘陵をはじめとする南部山地を縦断するように占地しており、地域によって多様な地質や地勢、歴史背景を有しています。

南部地域には、曾根丘陵一帯を中心に縄文時代から古墳時代の遺跡群が数多く点在し、古来より静岡側から甲府盆地へ入る南の玄関口として栄えてきました。古墳時代には前方後円墳として東日本でも屈指の規模を誇る銚子塚古墳を始めとする多くの古墳群が築造されたことは、その一帯に東海地域を通じて大和政権の影響が及んでいたことを物語るとともに、この地域の大きな特色として評価されています。

一方の北部地域から中心部にかけては、戦国大名武田氏三代の居館であります史跡武田氏館跡やその一帯に展開した城下町や城館群と、武田氏の遺産を引き継ぎ、現在の本市の都市基盤を築いた近世の甲府城とその城下町の遺跡群が広がっています。いずれも県都としての本市の歴史を語る上で欠くことのできない文化財であり、調査成果の活用が期待されるところであります。

さて、本書には、平成19・20年度に埋蔵文化財包蔵地内におきまして、各種の開発行為を行う前に埋蔵文化財の実態を把握することを目的として実施しました試掘確認調査の成果をまとめています。

試掘確認調査は、主に遺跡の有無や保存状況、時代、工事による遺跡への影響を判断するために行っています。それは現代につながるその土地の履歴を一つ一つ紐解く作業であり、東日本大震災以降、遺跡に残された痕跡などが再評価されつつありますが、小規模な調査成果の積み重ねからその地域の歴史が明らかにされ、やがて大きな歴史全体が見えてくることもございます。

そのためにも、地道な作業の連続ではありますが、事業者の方からのご理解をいただく中で、本市としましても作業は丁寧かつ迅速に進めて参りたいと存じますので、今後とも本市文化財保護行政の推進のためにご協力をお願い申し上げます。

平成25年3月

甲府市教育委員会
教育長 長谷川 義高

例　　言

1. 本書は、平成19・20年度に市内遺跡発掘調査事業で各種開発行為等に先立ち実施した甲府市内遺跡の試掘調査報告書である。
2. 本調査は、文化庁・山梨県教育委員会の指導の下、甲府市教育委員会が主体となり実施した。
3. 本調査に係る経費は、国庫補助金ならびに山梨県費補助金の交付を受けている。
4. 各年度の調査件数及び試掘・工事立会の内訳は、一覧表のとおりである。
5. 本書に係る試掘調査は、甲府市教育委員会文化振興課文化財係の文化財主事（望月祐仁、伊藤正幸、志村憲一、伊藤正彦、平塚洋一、佐々木満）が実施した。
6. 本書の執筆は、各調査担当者が行い、本書の編集は、小林正（文化振興課長）を責任者として佐々木満と、佐野香織・三神千佳（嘱託職員）が行った。
7. 遺物の実測・製図・図版作成は、内藤真千子、栗田かず子、上島光子、藤原由香、分部綾子が行い、陶磁器の実測・製図は、有限会社松風に委託した。遺構図の製図及び図版作成は、佐々木満・佐野香織・三神千佳が行った。
8. 出土品の保存処理業務については、公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。
9. 本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは甲府市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、文化財保護行政をご理解いただき、試掘調査等にご協力いただいた事業者ならびに地権者の皆さまに厚くお礼申し上げるとともに、次の機関及び諸氏からご指導・ご教示・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる。

(敬称省略)

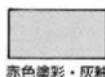
文化庁記念物課・山梨県教育委員会学術文化財課

11. 発掘調査参加者

雨宮 小春	雨宮 英郎	池谷富士子	金井いく代	川崎亜矢子	倉田 勝子
小池 幹子	小宮 通子	坂本しのぶ	佐田 金子	佐藤美喜男	末木 千並
菅沼 芳治	高橋 主税	土橋 拓	長沢 晴雄	早川 理絵	波木井祥和
平沢 則子	横内 麻佑	福澤 正樹	保坂 洋	保坂 哲	松野 達夫
望月 宏美	望月貴美子	渡辺百合子	若狭 宗晴		

凡　　例

1. 本書に掲載した地図は、甲府市都市計画図10000分の1・2500分の1を用いた。
2. 調査区の位置図の縮尺は概ね2500分の1であり、出土遺物の実測図縮尺は1/3である。その他、調査区配置図・遺構図・金属製品など一部出土遺物については、図中に示した各スケールを参照願いたい。
3. 調査区名・遺構名は、各担当者が調査地点毎に付しているため、用語を統一していない。
4. 遺物実測図で反転復元したものについては、実測部分と復元部分の間にスペースを設けており、出土遺物観察表に復元値を()で示している。
5. 本書に使用した記号及びスクリーントーンは、以下のとおりである。



赤色塗装・灰粒



炭化物・黒色



須 黒 器

目 次

序	19 - 31	武田城下町遺跡	44
例 言・凡 例	19 - 32	武田城下町遺跡	45
目 次	19 - 33	武山城下町遺跡	46
挿図・挿表目次	19 - 34	武田城下町遺跡	47
	19 - 35	武田城下町遺跡	48
平成19年度調査報告	19 - 36	武山城下町遺跡	49
19 - 1 朝氣遺跡	19 - 37	武田城下町遺跡・大手下遺跡	50
19 - 2 朝氣遺跡	19 - 38	中坪遺跡	53
19 - 3 朝氣遺跡	19 - 39	西耕地C遺跡	54
19 - 4 朝氣遺跡	19 - 40	平石遺跡	55
19 - 5 居村村上遺跡	19 - 41	万寿森古墳	56
19 - 6 榎田遺跡	19 - 42	緑ヶ丘二丁目遺跡	62
19 - 7 榎田遺跡	19 - 43	蔽ノ内遺跡	63
19 - 8 榎田遺跡	19 - 44	武田氏館跡	64
19 - 9 音羽遺跡			
19 - 10 甲府城下町遺跡			
19 - 11 甲府城下町遺跡	19 - 45	平成20年度調査報告	67
19 - 12 甲府城下町遺跡	20 - 1	朝氣遺跡	73
19 - 13 甲府城下町遺跡	20 - 2	朝氣遺跡	74
19 - 14 甲府城下町遺跡	20 - 3	朝氣遺跡	75
19 - 15 甲府城下町遺跡	20 - 4	朝氣遺跡	76
19 - 16 塩部遺跡	20 - 5	朝氣遺跡	77
19 - 17 塩部遺跡	20 - 6	宇前B遺跡	78
19 - 18 塩部遺跡	20 - 7	榎田遺跡	79
19 - 19 十丁遺跡	20 - 8	大坪遺跡	80
19 - 20 武田城下町遺跡	20 - 9	大坪遺跡	81
19 - 21 武山城下町遺跡	20 - 10	神田遺跡	82
19 - 22 武田城下町遺跡	20 - 11	甲運小学校遺跡	83
19 - 23 武田城下町遺跡	20 - 12	甲府城下町遺跡	84
19 - 24 武田城下町遺跡	20 - 13	甲府城下町遺跡	88
19 - 25 武田城下町遺跡	20 - 14	甲府城下町遺跡	89
19 - 26 武田城下町遺跡	20 - 15	甲府城下町遺跡	90
19 - 27 武田城下町遺跡	20 - 16	甲府城下町遺跡	92
19 - 28 武田城下町遺跡	20 - 17	甲府城下町遺跡	93
19 - 29 武田城下町遺跡	20 - 18	甲府城下町遺跡	94
19 - 30 武山城下町遺跡	20 - 19	甲府城下町遺跡	95

挿図・挿表目次

20 - 20	甲府城下町遺跡	96	平成19年度試掘調査一覧	2
20 - 21	甲府城下町遺跡	97	平成19年度立会・慎重工事一覧	2
20 - 22	塙部遺跡	98	平成19年度調査区位置図	5
20 - 23	塙部遺跡	99		
20 - 24	塙部遺跡	100	平成20年度試掘調査一覧	68
20 - 25	外河原デクヤ遺跡	101	平成20年度立会・慎重工事一覧	68
20 - 26	武田城下町遺跡	102	平成20年度調査区位置図	71
20 - 27	武田城下町遺跡	103	出土遺物観察表	129
20 - 28	武田城下町遺跡	106	出土遺物写真図版	134
20 - 29	武田城下町遺跡	107	調査写真図版	142
20 - 30	武田城下町遺跡	108	報告書抄録	156
20 - 31	武田城下町遺跡	109		
20 - 32	武山城下町遺跡	112		
20 - 33	武田城下町遺跡	113		
20 - 34	武田城下町遺跡	114		
20 - 35	武田城下町遺跡	115		
20 - 36	塙腰遺跡	116		
20 - 37	塙本遺跡	117		
20 - 38	藤塙古墳	118		
20 - 39	藤塙古墳	119		
20 - 40	前田遺跡	120		
20 - 41	緑ヶ丘一丁目遺跡	121		
20 - 42	緑ヶ丘一丁目遺跡	122		
20 - 43	緑ヶ丘一丁目遺跡	123		
20 - 44	緑ヶ丘二丁目遺跡	124		
20 - 45	宮の前遺跡	125		
20 - 46	村内遺跡	126		
20 - 47	武田城下町遺跡・峰元南B遺跡	127		
20 - 48	向山遺跡	128		

平成19年度 調査報告

平成19年度試掘調査一覧

報告番号	遺跡名	場所	事業者	起因	遺構	遺物
19 - 1	青葉町遺跡	青葉町1375 - 3	個人	個人住宅	×	×
19 - 2		朝氣2丁目700 - 1他	個人	集合住宅	×	○
19 - 3	朝氣遺跡	朝氣3丁目45	個人	集合住宅	○	○
19 - 4		朝氣2丁目521 - 7	個人	個人住宅	×	×
19 - 5	居村村上遺跡	池山2丁目250 - 1	法人	その他建物	×	○
19 - 6		千塚5丁目3055	個人	集合住宅	×	○
19 - 7	榎田遺跡	千塚5丁目3448 - 5他	個人	個人住宅	×	×
19 - 8		千塚5丁目3063	個人	集合住宅	○	○
19 - 9	吉羽遺跡	吉羽町337 - 1	個人	個人住宅	×	×
19 - 10		北口3丁目5 - 1他	個人	個人住宅	○	×
19 - 11		武田1丁目16 - 1他	個人	住宅兼店舗	○	○
19 - 12	甲府城下町遺跡	中央5丁目302他	個人	個人住宅	○	○
19 - 13		丸の内1丁目262	個人	個人住宅	○	○
19 - 14		北口2丁目18他	個人	集合住宅	×	×
19 - 15		武田1丁目3他	法人	集合住宅	×	○
19 - 16		塙部3丁目677 - 2	法人	集合住宅	×	×
19 - 17	塙部遺跡	塙部3丁目556 - 3	個人	個人住宅	×	○
19 - 18		塙部1丁目441 - 1他	法人	店舗	×	○
19 - 19	十丁遺跡	里吉3丁目831 - 1他	個人	宅地造成	○	○
19 - 20		屋形3丁目2470 - 1	個人	個人住宅	×	○
19 - 21		大手1丁目4589 - 6他	個人	個人住宅	×	○
19 - 22		屋形2丁目2448 - 1	個人	個人住宅	×	×
19 - 23		屋形1丁目1996 - 3	個人	個人住宅	○	○
19 - 24		古府中町6026 - 8	個人	個人住宅	×	×
19 - 25		武田3丁目234 - 1	法人	個人住宅	×	○
19 - 26		占府中町2813	個人	個人住宅	×	×
19 - 27		武田3丁目309他	個人	個人住宅	×	○
19 - 28	武田城下町遺跡	宮前町203 - 1他	個人	集合住宅	×	×
19 - 29		犬神町241	個人	個人住宅	×	×
19 - 30		天神町241	個人	個人住宅	×	○
19 - 31		天神町241	法人	個人住宅	×	×
19 - 32		犬神町241 - 5	個人	個人住宅	×	○
19 - 33		屋形1丁目1960 - 4他	個人	集合住宅	×	×
19 - 34		武田3丁目141 - 4他	個人	個人住宅	×	○
19 - 35		下積穂寺町897 - 1他	個人	個人住宅	×	×
19 - 36		屋形3丁目1570	個人	個人住宅	×	○
19 - 37	武田城下町遺跡・大手下遺跡	大手下3丁目3767	個人	個人住宅	○	○
19 - 38	中坪遺跡	里吉2丁目284 - 2	法人	宅地造成	×	×
19 - 39	西耕地C遺跡	大里町14459 - 5	個人	個人住宅	×	×
19 - 40	平石遺跡	荒川2丁目1014 - 1他	個人	店舗	×	×
19 - 41	万寿森古墳	鶴洞3丁目462 - 1他	法人	宅地造成	○	○
19 - 42	緑ヶ丘二丁目遺跡	緑が丘2丁目2144 - 3	個人	宅地造成	×	×
19 - 43	蔽ノ内遺跡	白井町198 - 1	個人	個人住宅	×	×
19 - 44	武田氏館跡	大手3丁目3731 - 1他	市町村	範囲確認	○	○

平成19年度立会・慎重工事一覧

報告番号	遺跡名	場所	事業者	起因	遺構	遺物
立会	朝氣遺跡	朝氣1丁目165 - 6	個人	個人住宅	×	×
立会		朝氣1丁目180 - 7他	個人	個人住宅	×	×
立会	油田遺跡	蓮沢1丁目102 - 6他	法人	住宅兼店舗	×	×
立会	銀杏之木遺跡	東光寺2丁目313 - 3	個人	個人住宅	×	×
立会	岩清水遺跡	下曾根町地内	市町村	水道	×	×
立会	榎田遺跡	千塚5丁目3022 - 1	個人	その他建物	×	×
立会		千塚5丁目9 - 20付近	市町村	道路	×	×

立会		大里町5147他	個人	個人住宅	×	×
立会	大北耕地遺跡	大里町5197他	個人	個人住宅	×	×
立会		大里町1333の一部	個人	個人住宅	×	×
立会		桜井町591 - 10	個人	個人住宅	×	×
立会	大坪遺跡	横根町194 - 1他	法人	その他建物	×	×
立会		横根町975	個人	住宅兼店舗	×	×
立会		千家3丁目2134 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会	甲府城跡	丸の内1丁目94	法人	工作物	×	×
立会		北口2丁目162	個人	その他開発	×	×
立会		丸の内1丁目地内	都道府県	道路	×	×
立会		北口2丁目171他	市町村	公園造成	×	×
立会		丸の内1丁目9 - 19他	市町村	水道	×	×
立会	甲府城跡・甲府城下町遺跡	丸の内1丁目542	法人	電気	×	×
立会		丸の内3丁目1 - 1付近	市町村	道路	×	×
立会		朝日2丁目40 - 2	個人	集合住宅	×	×
立会		相生2丁目58他	法人	その他開発	×	×
立会		中央4丁目281他	個人	住宅兼店舗	×	×
立会		北口2丁目地内	都道府県	道路	×	×
立会		美咲1丁目53他	個人	個人住宅	×	×
立会		中央3丁目390他	個人	集合住宅	×	×
立会		北口2丁目50	個人	個人住宅	×	×
立会		中央5丁目139他	個人	個人住宅	×	×
立会		北口3丁目113 - 1他	個人	個人住宅	×	×
立会		相生2丁目330	個人	個人住宅	×	×
立会		朝日2丁目240 - 1	個人	個人住宅	×	×
立会		丸の内3丁目347他	個人	個人住宅	×	×
立会		相生3丁目171	個人	その他建物	×	×
立会		愛宕町186 - 1の一部	個人	個人住宅	×	×
立会		中央5丁目128	個人	個人住宅	×	×
立会		丸の内1丁目7 - 3他	都道府県	工作物	×	×
立会		中央2丁目522	個人	個人住宅	×	×
立会		中央2丁目524 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会		北口2丁目地内	市町村	土地区画整理	×	×
立会		朝日2丁目16 - 20他	市町村	水道	×	×
立会		丸の内2丁目27 - 10他	市町村	水道	×	×
立会		丸の内3丁目277	個人	その他建物	×	×
立会		朝日2丁目381他	個人	個人住宅	×	×
立会		丸の内2丁目140	個人	住宅兼店舗	×	×
立会		中央2丁目5 - 16他	市町村	水道	×	×
立会		北口2丁目112他	個人	その他開発	×	×
立会		北口3丁目133 - 5他	個人	個人住宅	×	×
立会		丸の内3丁目221 - 1他	個人	個人住宅	×	×
立会		丸の内1丁目2 - 1他	市町村	上地区画整理	×	×
立会		北口2丁目112付近	市町村	上地区画整理	×	×
立会		丸の内1丁目1 - 2付近	市町村	上地区画整理	×	×
立会	桜井畠遺跡	和戸町1241 - 1他	法人	その他開発	×	×
立会	塙部遺跡	塙部2丁目2088 - 1	法人	その他開発	×	×
立会		塙部2丁目2093 - 1	法人	その他開発	×	×
立会		塙部3丁目703 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会	地蔵北遺跡	東光寺3丁目1743 - 3	個人	個人住宅	×	×
立会		東光寺2丁目1184 - 1	個人	個人住宅	×	×
立会	十丁遺跡	里吉3丁目地内	市町村	下水道	×	×
立会	武田城下町遺跡	桜井町1982 - 2他	市町村	農業基盤整備	×	×
立会		武田3丁目274 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会		宮前町2丁目12付近	市町村	道路	×	×
立会		大手2丁目3 - 20付近	市町村	道路	×	×
立会		古府中町6011 - 7	個人	個人住宅	×	×

立会	屋形3丁目2529番先	法人	電気	×	×	
立会	元糸屋町60	法人	その他建物	×	×	
立会	武田3丁目403他	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町870-4他	法人	個人住宅	×	×	
立会	鳳形2丁目2427-6他	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町948-2他	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町2946-1	個人	道路	×	×	
立会	天神町79	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町6008-6	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町871-1他	法人	個人住宅	×	×	
立会	宮前町75・76	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町6022-15	個人	個人住宅	×	×	
立会	屋形1丁目1866-3	個人	個人住宅	×	×	
立会	犬神町233-5・7	個人	個人住宅	×	×	
立会	屋形1丁目1855-3他	個人	個人住宅	×	×	
立会	屋形1丁目1855-1	個人	個人住宅	×	×	
立会	大手1丁目4301-1他	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町1482-1	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町3202-1	法人	その他開発	×	×	
立会	古府中町4856-1	法人	その他開発	×	×	
立会	大手1丁目4557-5	個人	個人住宅	×	×	
立会	屋形3丁目1556-3他	個人	個人住宅	×	×	
立会	屋形1丁目2055	個人	個人住宅	×	×	
立会	大手2丁目4076-3	個人	その他建物	×	×	
立会	古府中町870-1他	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町4853-7	個人	個人住宅	×	×	
立会	古府中町6020-3	個人	個人住宅	×	×	
立会	武田城下町遺跡・大手下遺跡	大手3丁目3823-1他	個人	個人住宅	×	×
立会	天神西遺跡	千塚4丁目3380-14他	個人	個人住宅	×	×
立会	鏡子塚古墳	下曾根町地内	法人	その他建物	×	×
立会	中道西遺跡	岩窪町158-8他	個人	個人住宅	×	×
立会		大里町4460の一部	個人	個人住宅	×	×
立会	西耕地C遺跡	大里町4459-1	法人	個人住宅	×	×
立会		大里町4460-1	個人	個人住宅	×	×
立会	般舟院跡	伊勢4丁目2115他	個人	個人住宅	×	×
立会	平石遺跡	荒川2丁目1023-1他	法人	その他建物	×	×
立会		綾が丘2丁目2387-4	個人	個人住宅	×	×
立会	緑ヶ丘二丁目遺跡	和田町2421-6	個人	個人住宅	×	×
立会		和田町2920-10	個人	個人住宅	×	×
立会	見餅遺跡	桜井町字貞持482-7	個人	集合住宅	×	×
横重工业	今井氏館跡	上今井町2319-5	個人	個人住宅	-	-
横重工业	塙部遺跡	塙部2丁目964-3の一部	個人	個人住宅	-	-
横重工业	地蔵北遺跡	東光寺3丁目1743-3	個人	その他建物	-	-
横重工业	新烟遺跡	桜井町5-1	個人	個人住宅	-	-
横重工业	武田城下町遺跡	大手2丁目4084-2	個人	個人住宅	-	-
横重工业	御嶽田遺跡	東光寺2丁目4-756	個人	個人住宅	-	-

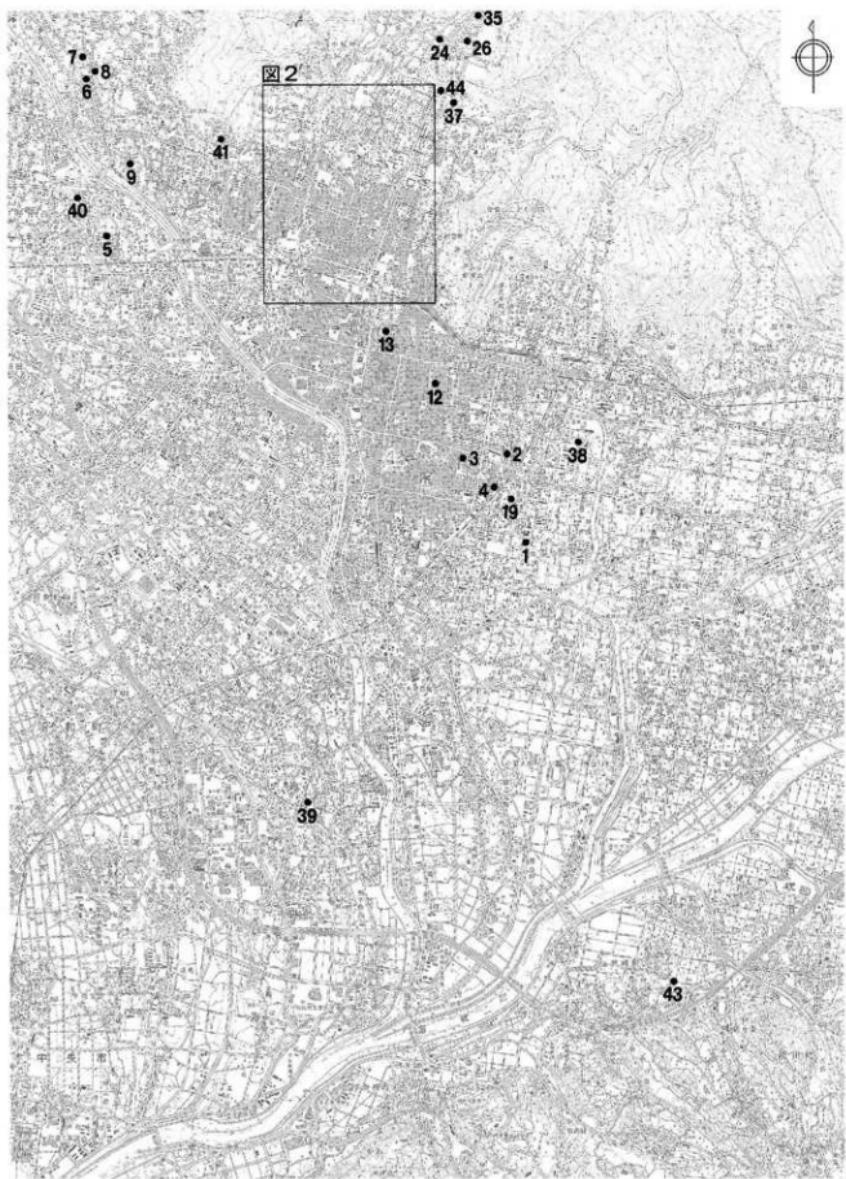


図1 平成19年度 試掘調査位置図（1）

0 3000m



図2 平成19年度 試掘調査位置図（2）

19-1 青葉町遺跡

調査位置 甲府市青葉町1375-3

調査原因 個人住宅建設

対象面積 280.26m²

調査面積 3.0m²

調査期間 平成20年3月8日

調査担当 平塚洋一

遺跡の概要

甲府市青葉町は、昭和41年に成立した町名で、もとは伊勢町の一部に昭和56年、里吉町・蓬沢町の各一部を編入したものである。付近の標高は255.9mで市内でも比較的標高の低い地域にあたる。

調査の結果

計画建物の内側に約3m²の試掘坑を設置し、施行業者の協力により重機で表土を掘削した。

現況の地表面から約55cmで自然堆積層（灰オリーブ色粘質土）となり、65cmより下層は褐色砂質土に変化する。確認された自然堆積土は、本地点から約500m東側を流れる濁川の氾濫土壤と想定できる。

地表から80cm下層まで掘削したが、土器片は1点も出土しなかった。

遺跡の範囲をかすめるだけの位置ということからも今回の工事による埋蔵文化財への影響はないと考えられる。

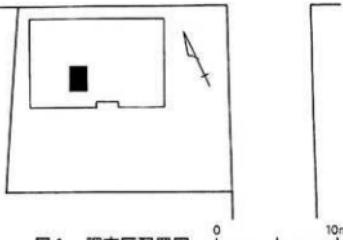
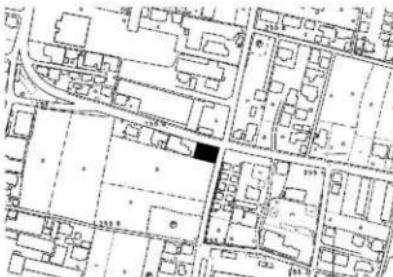


図1 調査区配置図

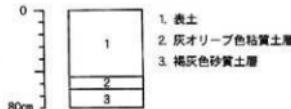


図2 土層柱状図

19-2 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣二丁目700-1他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 506.22m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成19年8月21日
調査担当 平塚洋一



調査の結果

調査地は周辺の地形から判断して、約50cmの盛土が施されていることが予想された。

調査の結果、地表から65cm下層までコンクリート基礎やタイルなど搅乱が及ぶ。それより下層に旧地表と考えられる灰褐色シルト層が堆積し、更に下層の地表下約90cmには黒褐色シルト層が堆積する。黒褐色シルト層には平安時代の土器片が多く含まれ、その下層にはやや赤みを帯びた硬化面が確認できた。土器の出土状況等から判断して、この硬化面は竪穴住居の床面と考えられる。

予定される建物は地盤改良を計画しているため、埋蔵文化財が破壊されることが予想される。そのため、開発行為を継続するためには、事前の発掘調査が必要である。

開発業者と協議した結果、地盤改良は表層改良にとどめるため、埋蔵文化財の包含層と20cmではあるが保護層が確保できることから本格的な発掘調査を回避し、調査を終了した。

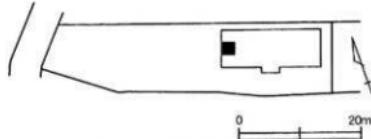


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

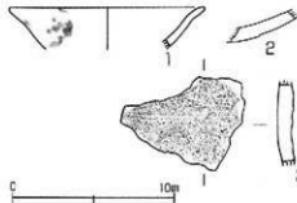
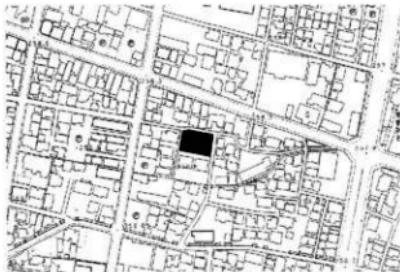


図3 出土遺物

19-3 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目45
調査原因 集合住宅建設
対象面積 778.59m²
調査面積 12.0m²
調査期間 平成19年10月10日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査地は朝氣遺跡の中心と想定されている東小学校から西南西に約200m付近に位置する。東小学校校庭において昭和51年および平成19年に発掘調査を実施し、古墳時代と平安時代の遺構・遺物が大量に確認されている。

隣接地において、平成18年度に試掘調査を実施し、平安時代の土器が出土しているものの明確な遺構は確認されていないという経緯もある。

調査の結果

調査地は隣接地の試掘調査結果から、現況の地表から90cm付近から土器が出土することが予想され、調査の結果、地表から90cm下層から土器が出土し始めた。精査した結果、竪穴住居と思われるプランが確認できた。

現在計画している基礎の掘削は現況の地表から30cmであるが、地盤調査を今後実施して地盤改良工事を行う可能性もあるとの話を受けた。表層のみの改良工事であれば、地表から60cmまであれば許可できることを報告した。

今回の工事では検出した遺構に影響が及ばないため、遺構確認だけにとどめ掘削をせず埋め戻し調査を終了した。

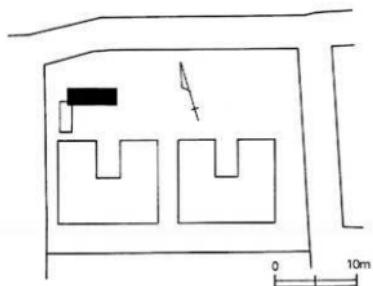


図1 調査区配置図

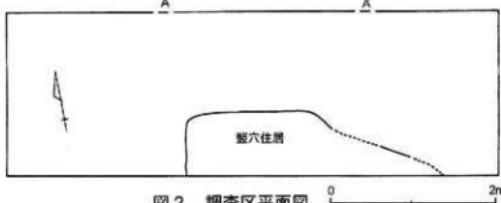


図2 調査区平面図

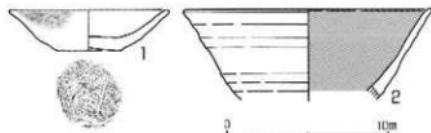


図4 出土遺物

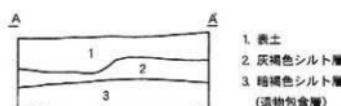


図3 土層断面図

19-4 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣二丁目521-7
調査原因 個人住宅建設
対象面積 115.0m²
調査面積 1.5m²
調査期間 平成19年10月13日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

朝氣遺跡の東端、標高256m地点に位置する。現状周辺は平坦な住宅地であり、調査区北側には幅約1.5m、深さ約1mの東流する水路がある。

調査の概要

旧建物解体時に協力を得て、建物部分に1.5m、幅1m、深さ約1.1mを重機で掘削し、4層の堆積層が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。堆積層は、地表下約0.85m地点の第1・2層は近代の盛土層であり、その下層の第3層（青黒褐色粘質土層）及び第4層（青灰色粘質土層）は軟質粘土層である。現状北側に河川があることから、古代から河川が存在した可能性が考えられる。

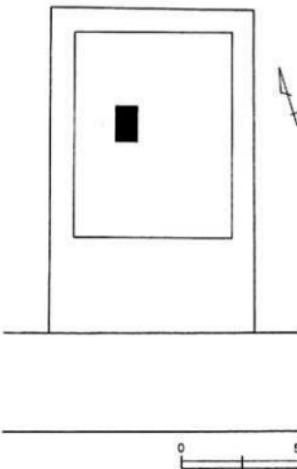


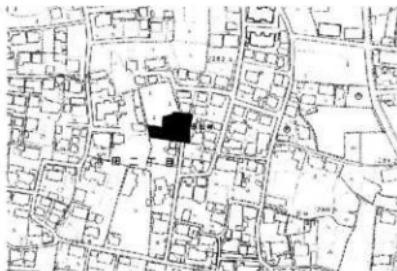
図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

19-5 居村村上遺跡

調査位置 甲府市池田二丁目250-1
調査原因 その他建物（寺院）建設
対象面積 1,819.99m²
調査面積 18.5m²
調査期間 平成19年8月16日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、盆地北縁部に位置し、市内西側を流下する荒川の右岸沖積地に広がる。応永2年(1395)、武田信満が開基と伝わる長松寺の境内である。

調査の概要

対象地に幅2.1m×長8.8mの試掘坑を設定し、地表下約1.1mまで掘削した。地表下70cmまで表土・耕作土が堆積し、それ以下に黒褐色砂質土（厚30cm）、茶褐色砂質土（厚10cm）が堆積する。黒褐色砂質土中から土器片の出土が見られた。

調査により土器片を数点検出し、境内地から近世磁器を表採した。遺構は確認できず、記録写真撮影後、調査を終了している。

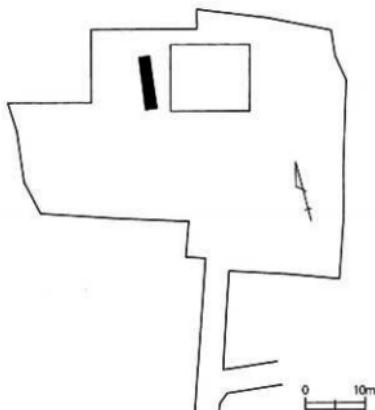


図1 調査区配置図

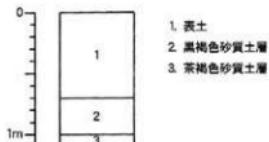


図2 土層柱状図

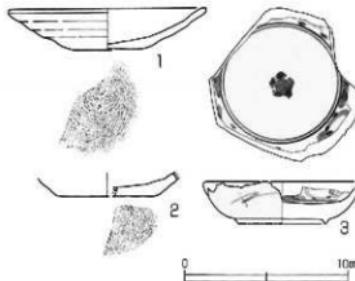


図3 出土遺物

19-6 榎田遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目3055

調査原因 集合住宅建設

対象面積 1,446.87m²

調査面積 14.0m²

調査期間 平成19年11月21・22日、12月3日

調査担当 志村憲一



はじめに

本地点は、遺跡包蔵地範囲の南西辺標高303m地点に位置し、約100m北側では平成4年度に山梨県埋蔵文化財センターが本調査を実施しており、竪穴住居跡や方形周溝墓などが検出されている。

調査区には鉄骨造り2階建ての集合住宅が3棟存在し、既存建物撤去及び新規建物基礎掘削時の2回にわたり試掘調査を実施した。

調査状況

調査は既存建物の解体時に行ったが、南側の1棟の建物位置は解体時の廃材が多かったため、掘削が困難であった。そのため、隣接地である北と南の建物解体部分に5ヵ所のトレンチ（T-1～5）、さらに建物基礎掘削時に2箇所のトレンチ（T-6・7）を設定し、土層の堆積状況と遺構・遺物の有無を確認した。

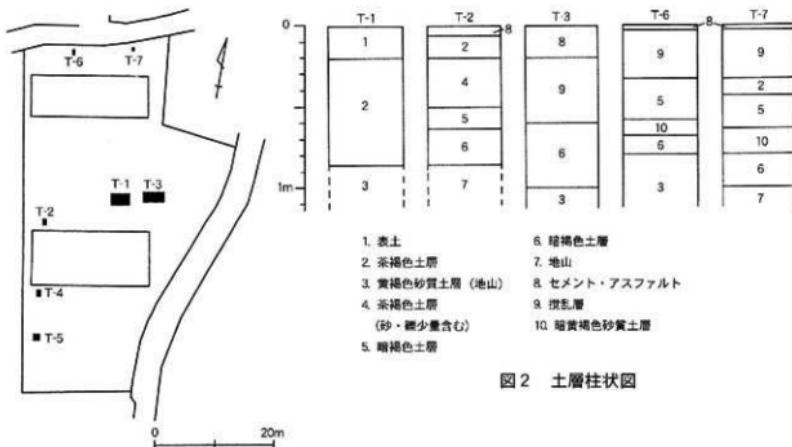


図1 調査区配置図

図2 土層柱状図

調査結果

- T-1 東西3m×幅2m×深さ約1mを掘削した。表層20cmは搅乱を受けていた。厚さ65cmの第2層目の茶褐色土は、この周辺の調査で確認されている遺物包含層であるが、遺構・遺物ともに確認されてはいない。地山層は地表下約85cmに位置する黄褐色砂質土層であった。
- T-2 南北1m×幅0.5m×深さ1mである。地表下50cm部分までは近代の搅乱層である。第4・5層内は遺構・遺物ともに未確認である。地山層は地表下約85cmに位置する。
- T-3 東西3.5m×幅1.5m×深さ1~1.5mである。地表下60~80cm部分まで近代の搅乱層である。地表下60cm以下に位置する第3層目の暗褐色土層には炭化物が微量確認されたが、遺構・遺物は未検出であった。
- T-4 南北1m×幅0.6m×深さ1mである。掘削箇所はすべて搅乱を受け、地山層は確認できなかった。
- T-5 東西1m×幅1m×深さ0.8mを掘削。掘削部分まで搅乱を受け、地山層は確認できなかった。
- T-6 深さ約1m掘削。6層に分層される。上層33cmは搅乱を受けていた。上から第3層目は厚さ25cmの暗褐色土、第4層暗黄褐色砂質土は厚さ10cm、第5層暗褐色土は厚さ10~12cmである。地山層の黄褐色砂質土は、地表下約80cmより下層に位置した。
- T-7 敷地の北西部で、深さ約1mを掘削した。7層に分層される。上層33cmは搅乱を受けていた。第3層目は厚さ10cmの茶褐色土、第4層目は厚さ20cmの暗褐色土、第5層目の暗黄褐色砂質土は厚さ15cm、第6層目の暗褐色土は厚さ20cmである。この6層からは古墳時代の土師器が検出されている。地山層の黄褐色砂質土は、地表下約80cmより下層に位置する。

調査所見

周辺の調査区ではT-1 第2層の茶褐色土、T-3 第3層の暗褐色土、T-7 第6層暗褐色土から遺構等が検出されている。しかし、今回の調査区のトレンチ及び基礎解体部分と既存建物部分は地表下約1mまで搅乱を受けており、遺構・遺物は確認されてはいない。

今回の建設予定の建物基礎は、現地表下40cmまで掘削が及ぶが、隣接地点において遺構・遺物が全く確認されていないこと、さらに北側1棟部分は既存建物位置の工事であるため本調査等は必要ないと判断した。

19-7 榎田遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目3448-5他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 228.0m²
調査面積 3.0m²
調査期間 平成19年11月26日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

榎田遺跡の北西隅標高約306m地点に位置する。現地周辺は住宅地であり、旧建物撤去後、試掘調査を実施した。

調査の概要

建物中央部に東西2m、幅1.5mのトレンチを設定し、深さ約1mを重機で掘削し、7層の堆積層が確認された。セクションの観察状況からは、遺構・遺物は確認されなかったが、周辺調査では地表下0.45m地点の第4層（暗灰黒色砂質土）から、遺構・遺物が検出されている。

建設建物は、約10cmの盛土を行い約40cmの基礎掘削工事が行われた。掘削底面は旧水田面の第2層にとどまるため、遺構・遺物が検出される可能性がある第4層には影響は及ばないため、試掘調査で終了した。

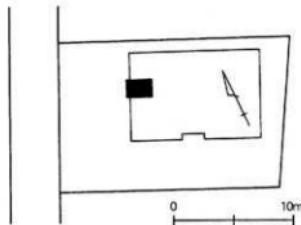


図1 調査区配置図

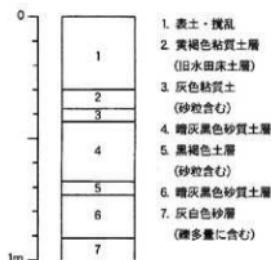
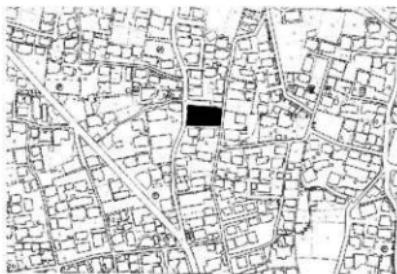


図2 土層柱状図

19-8 榎田遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目3063
調査原因 集合住宅建設
対象面積 192.00m²
調査面積 8.0m²
調査期間 平成20年2月28日
調査担当 望月祐仁



調査の概要

本地点は、荒川の扇状地左岸の扇尖部に形成された帯状の微高地に立地する榎田遺跡の、ほぼ中央に位置している。本遺跡の西北部において県埋蔵文化財センターが行った調査では、弥生～平安時代の住居跡28軒、方形周溝墓4基等が検出されている。

調査対象地は東西に細長い敷地であるため、中央部に東西2箇所の試掘坑を設定した。地盤が軟弱であるため、試掘坑を建物予定地の南側に設けた。解体施工業者に重機の提供を受け、2m四方、深さ120cmまで掘り下げた。重機は爪付で網バケットのパックホウであったため、掘削には不向きであったが、試掘坑を整形しながら土層の堆積状況と底面を精査した。

試掘坑1の層序は、第1層灰褐色砂礫層、第2層灰褐色砂層、第3層暗褐色砂質土層、第4層暗褐色砂質土層（灰褐色ブロック、炭化物が混在し3層より締りがある）、第5層灰褐色砂層である。断面に4層から5層を掘り込んだピット状の掘り込みが3箇所で確認されたが、これに伴う遺物はなかった。径は10～20cmである。

試掘坑2の層序は2層を欠如するが、基本的に試掘坑1と同様である。3層の中ほどから5層まで掘り込んだピットを1基検出した。径30cm×深さ30cmで、底面は弧状を呈する。このピットの直上で中世内耳土器の破片が確認されたため、ピットも中世のものである可能性が高い。

ま と め

基礎工事の掘削は地表下32cmであるため、中世の遺物包含層である3層上面まででとどまり、遺構面には届かないでの試掘調査のみで終了した。

榎田遺跡は範囲が広く、北西側の地点では濃密に遺構が分布するが、中央部から南部では遺物量も少なく遺構の密度が低いことが、これまでの複数の試掘調査でわかってきてている。

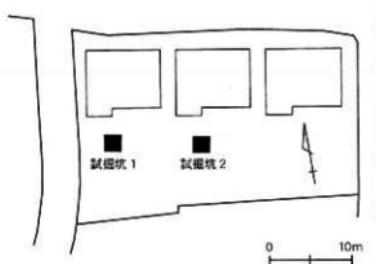


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

19-9 音羽遺跡

調査位置 甲府市音羽町337-1

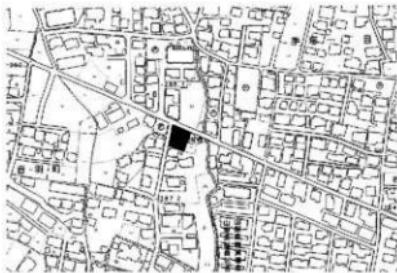
調査原因 個人住宅建設

対象面積 392.45m²

調査面積 25.0m²

調査期間 平成19年5月31日

調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

音羽遺跡は荒川左岸に立地する弥生時代から平安時代に至る遺跡で、県営住宅建設に伴い、山梨県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われている。今回の調査地は、山梨県埋蔵文化財センターの調査とは小河川を挟んだ西側にあたる河岸段丘上の標高287mに位置する。

調査の概要

個人住宅の新築に先立ち、対象地に2.3m×10.5mの試掘坑を設定し重機により掘り下げた。旧建物を撤去した後に仮整地をした現状である。

客土（1層）の厚さは30cm～40cm程度で、部分的に旧建物解体時の瓦礫が埋め込まれている。その下層（2層）は河原疊を多量に含む黄褐色粗砂層で、1.0m～1.5m堆積している。部分的にアスファルトの混入も認められた、この層は昭和末期に千塚地区に下水管を埋設した際に、持ち込まれた砂であることが近隣住民の話から判明した。西から東へ緩やかに傾斜して、東端部分では、地表面から1.7mまで運び込まれていることが確認できた。

この砂疊層の下層が本来の堆積層と思われるが、水田層は認められない。以下に西端部分の堆積状況を示す。

3層 暗黄褐色土砂混合土層（厚さ30cm）

4層 黒色土層 細粒砂及び植物遺体を多量に含む。
(厚さ70cm)

5層 暗褐色粗粒砂層（地表面から-2.3m。緑色を帯びる。拳大～人頭大に疊を多量に含む。地山層）

試掘坑中から遺構・遺物は発見できず、写真を記録した後埋め戻して調査を終了した。

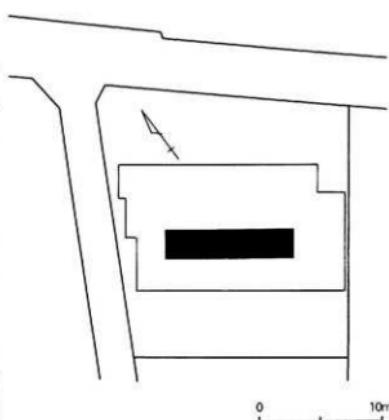


図1 調査区配置図

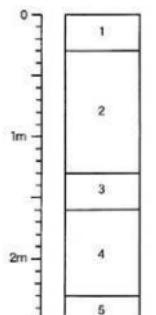


図2 土層柱状図

19-10 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口三丁目5-1他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 240.0m²
調査面積 7.6m²
調査期間 平成19年4月5日
調査担当 伊藤正幸

調査地の概要

甲府城山手門の東側に位置する。ちょうど主郭と御花畠を分ける堀の上にあたり、標高は279mを測る。ここ数年で調査事例が増加し、山手御門周辺における甲府城及び武家屋敷の性格が徐々に明らかにされつつある。

調査の概要

個人住宅の新築に先立ち、対象地に1.4m×5.4mの試掘坑を設定し重機により掘り下げた。旧建物を撤去した後に仮整地をした現状である。

客土の厚さは10cm～20cm程度で、部分的に旧建物の基礎コンクリートが埋め込まれている。基礎コンクリートの厚さは、厚いところで10cmを測る。その下層は堆積順に1層褐色及び黄褐色の混合土(整地に伴う客土で厚さ55cm～80cm)。2層褐色土(粗粒砂及び細粒砂を多量に含む。粘性・しまり共に弱く、厚さ15cm～20cm)。3層暗黃褐色土(拳大から人頭大の礫を多量に含む。地山層)が確認できる。

試掘坑中から井戸跡1基が確認された。掘り込みは1層直下から始まり、地山を掘り込んで続いている。掘り込み面から判断すると、近代以降の可能性が高い。井戸跡の掘り込みの外側10cm～15cmの地山は、礫が混入しない地山で、井戸を掘り抜いた後に充填したものと思われる。

試掘坑北端に黒色の落ち込みが1層直下から確認できたが、この土層中にはガラス片やビニールが混入していた。

なお、井戸の覆土を含めて、試掘坑中から遺物は検出されなかった。

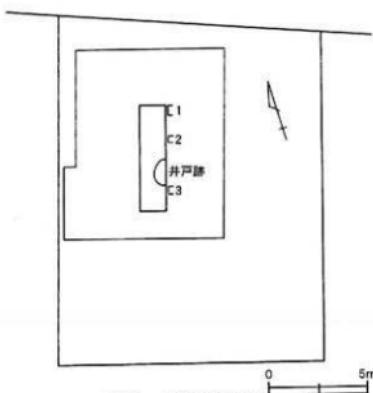
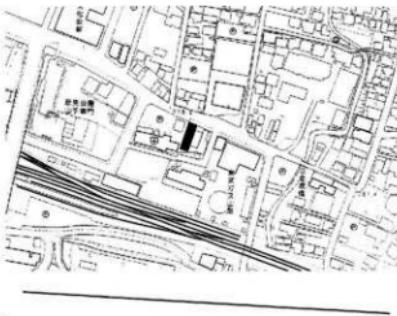


図1 調査区配置図

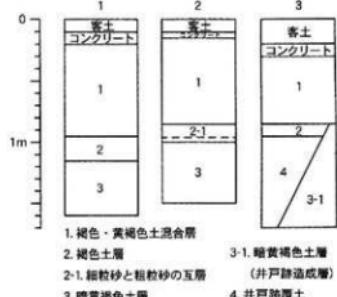


図2 土層柱状図

19-11 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市武田一丁目16-1他
調査原因 住宅兼店舗建設
対象面積 202.28m²
調査面積 5.6m²
調査期間 平成19年6月21・22日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は甲府城下町遺跡二の堀外側であるため、現状の取扱いでは工事立会で対応する場合が多い。しかし、隣接する新紺屋小学校や北口一帯では過去の調査で中世の遺構・遺物が確認されており、地盤改良が予定されていたことから試掘調査とした。

既存建物の基礎解体時に調査を実施したが、重機によって戦災の焼土層を含む0.4m掘削し、やや灰色がかった黒褐色土層以下を人力で掘削した。当初は江戸期の包含層と考えられたが、ガラス片や近代の陶磁器が出土したことから、明治以降の土層と考えられた。

トレーンチ北側では礫などが集中して検出され、遺物等も多数出土した。全体的に黒褐色土層を掘削したところ、トレーンチ中央以南では地山が検出されたが、北側では礫を含む黒褐色土が引き続き帶状に残った。礫下層からは胴木と石積みが検出されたため、石組の溝跡と考えられた。溝跡の東側延長が敷地境にあたることから、ある時期までの敷地境の溝であったと考えられる。

南側に溝跡と併行する浅い溝状の帯が確認されたが、掘削したところ、溝跡の石積みの掘り形であると考えられ、出土遺物は江戸後期の遺物が主体であった。発見されたのは石組の溝跡のみであったため試掘調査で終了とした。

まとめ

検出された溝跡は、後日立会によって延長と断面などの確認作業を行い、幅1.2m、深さ0.9mであることが確認された。試掘調査範囲同様に石積みは崩れており、胴木のみが検出された。戦災後の整地層で覆われていたことから、戦後の復興時に埋没したと考えられる。同溝跡のさらに東側では、過去に新紺屋小学校校庭の調査で類似した溝跡が発見されており、同一の溝跡である可能性が高く、一帯の地割りの変動を考える上で興味深い。

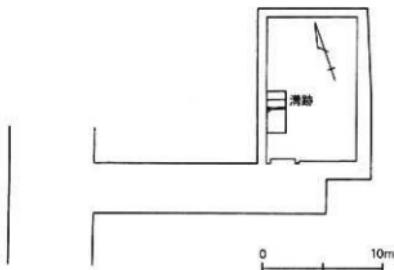


図1 調査区配置図

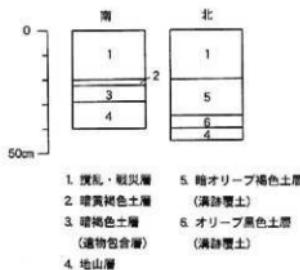
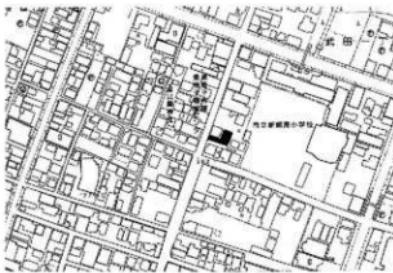


図2 土層柱状図

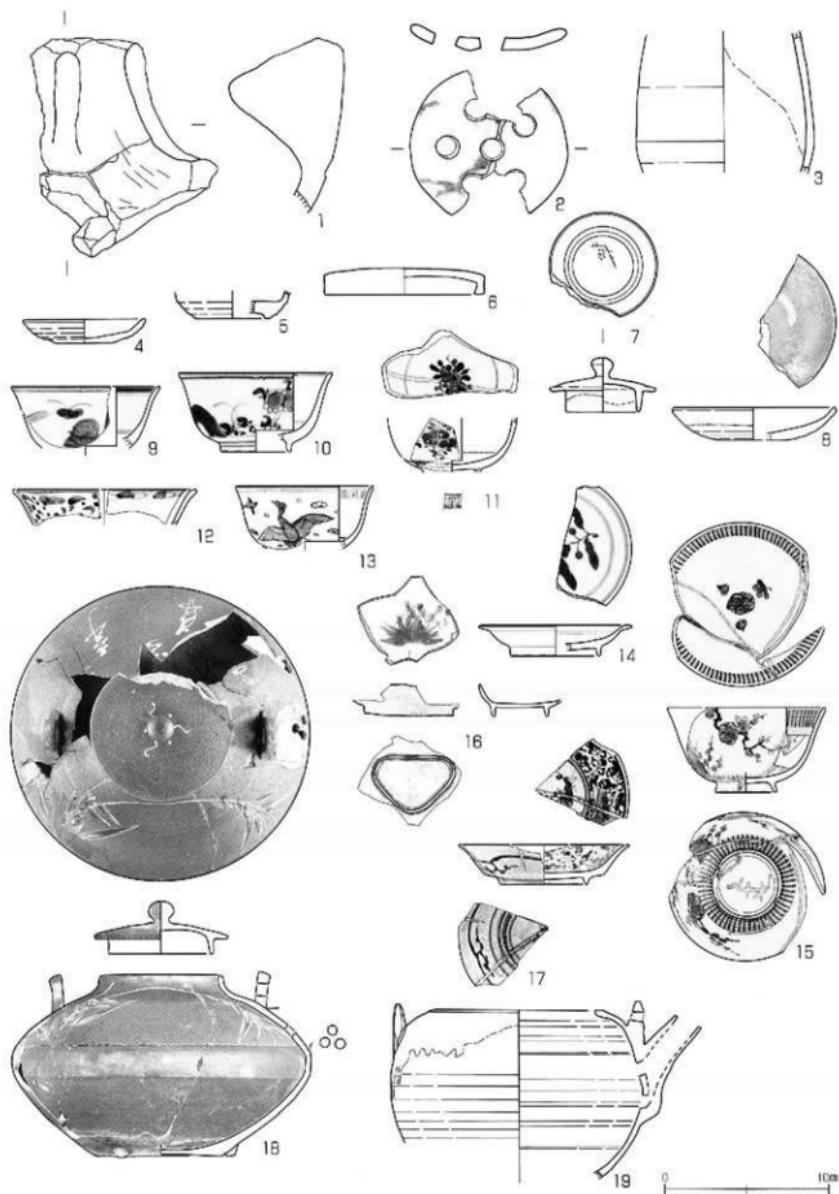


図3 出土遺物(1)

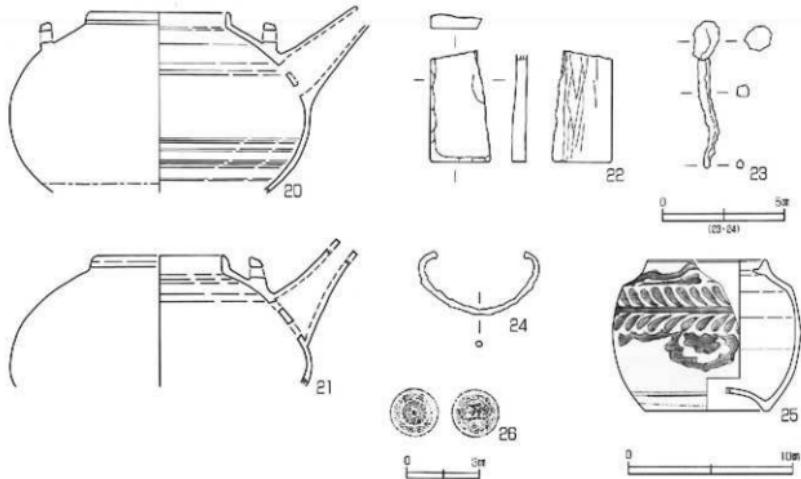


図4 出土遺物(2)

19-12 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市中央五丁目302他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 331.28m²
調査面積 1.0m²
調査期間 平成19年7月5日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は甲府城下町遺跡三の堀に囲まれた新城下町内に位置しており、地下への掘削も比較的浅いものであったことから、工事立会で対応することとしていた。既存建物基礎撤去時に状況を確認したところ、地下は比較的良好な状態で残っていることが確認され、遺物の出土があったため、解体業者の協力を得て、部分的な試掘調査を実施した。

狭い範囲でのトレンド調査であったが、0.15mほど解体に伴う搅乱層を除去したところ、地山の黄褐色土を貼った整地層を確認した。整地層の厚みは0.25mほどあり、その下にやや灰色がかかった黒褐色土を検出した。黒褐色土を除去した地表下約0.45mで地山を確認したが、そのうち、調査区南東隅で多量の炭化物を伴う黒褐色土層を確認し、掘削を行った。

調査の結果、検出された遺構は、土坑の可能性が高く、年代もかわらけなど出土遺物の様相から17世紀後半から18世紀前半と考えられた。

まとめ

現時点では三の堀内を取り扱う場合は、工事立会で対応するものが多いため、この一帯の調査事例は少なく、城下町の様相は不明確なままである。その中で小規模な調査面積ではあったが、18世紀前半代の遺構が確認されたことは、貴重な調査成果であった。

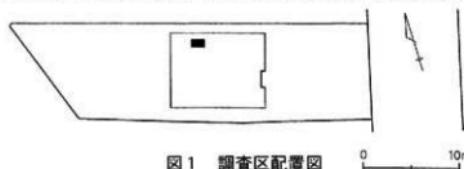


図1 調査区配置図

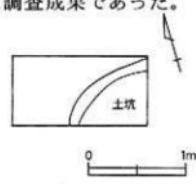


図2 試掘坑平面図

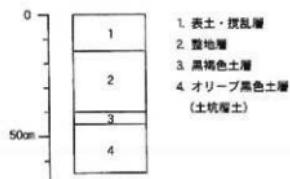


図3 土層柱状図

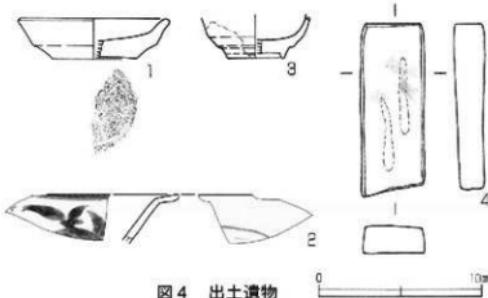


図4 出土遺物

19-13 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内一丁目262
調査原因 個人住宅建設
対象面積 51.93m²
調査面積 10.0m²
調査期間 平成19年8月22日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は、甲府城跡南側の武家屋敷地に位置し、江戸中期には甲斐国を拝領した柳沢氏時代には近藤図書の屋敷地となっており、柳沢氏転封後はしばらく空閑地となっていたことが古絵図から判明している。江戸後期の絵図ではさらに屋敷地の細分化が進んだことが伺えるが、いつ頃現在の区画となったかは定かではない。

個人住宅の建て替えに伴う調査であったが、基礎工事に際して地盤改良が実施される予定であったため、確認状況によっては、そのまま本調査に入る予定で試掘調査を実施した。調査範囲は、南北に細長い敷地の北側において幅2.5m、長さ4.0mの規模で設定し、重機によって、表土から約0.6mまで掘削した。

土層堆積状況は、建物解体時と思われる掘削が予想以上に深くまで及んでおり、全体的に搅乱層で覆われていた。北西隅を部分的に深く掘り下げ、約0.75m下層で灰オーリーブ色土層が地山であることを確認したが、その上面のオーリーブ黒土層で溝跡を1条検出した。溝跡は出土遺物からみて明治期以降の溝跡と考えられ、江戸期までさかのぼる遺構は確認できなかった。

まとめ

本地点は、甲府城跡に程近く、古絵図等をみても近藤図書など重臣クラスの武家屋敷地として利用されてきた経過があるが、後世の搅乱が著しく、その痕跡を確認には至らなかった。

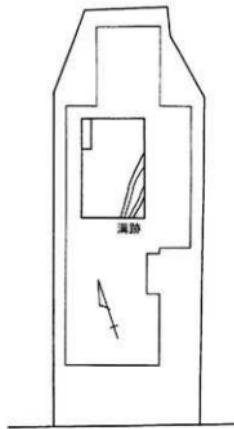
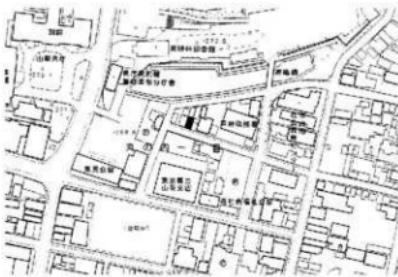


図1 調査区配置図 0 4m



図2 土層柱状図

19-14 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目18他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 670.93m²
調査面積 27.5m²
調査期間 平成19年11月13日
調査担当 志村憲一



はじめに

調査区は、近世甲府城下町北側二の堀内の森下小路と橋小路が接する北東隅の屋敷地である。平成11年度に行われた東側の桜シルク跡の調査では、中世・近世の遺構・遺物が多数検出されている。また平成11年度西側隣接地の試掘調査では、井戸内からかわらけ・漆碗が出土した。

近世の絵図によると、18世紀の柳沢氏が領有した時代は「五百六十坪 千葉七郎右門」と東隣には「秋間」の記載がある。柳沢氏の家臣の記録では、「御徒頭 千葉七郎右衛門」、「式百石 千葉与七郎」の記載がみられる。甲府勤番支配の時代は「五十五」「五十六」番屋敷の南側にあたり、元文三年の絵図には「小倉」・「富田」の記載があり、19世紀後半の懐宝甲府絵図では東側は「サトウ」の名前がみられるが、西側は記載がない。

調査状況

調査対象地では敷地中央部と東側は利用されていたため、2箇所の空閑地に5か所のトレンチを設定し、重機で掘削後人力により遺構・遺物の確認を行った。現地表から地山層まで0.35~1.2mであり、遺構・遺物とともに未検出である。各トレンチの土層堆積状況の確認を行い、土層柱状図作成を行った。

調査結果

- T-1 東西5m×幅1.5m×深さ1.25m掘削した。表土から地山層まで搅乱を受けていた。
- T-2 東西5m×幅1.5m×深さ1.1mである。表土から地山層まで搅乱を受けていた。トレンチは西側にかけて浅くなり深さ1mとなる。
- T-3 1.7m四方×深さ0.35~0.4mである。森下小路沿いであり、東側の桜シルクを調査した際は、近世から近代にかけての側溝が検出されたが、表土から地山層までコーカスの堆積が確認され、近代の搅乱層であった。
- T-4 南北4.5m×幅1.5m×深さ0.6mである。第1層は厚さ約35cmのコーカスの堆積層である。第2層は厚さ25cmの茶褐色粘質土層であり、焼土・炭化物の混入は見られるが、遺物・遺構は未検出である。その下層は地山層となる。
- T-5 東西2m×幅1.5m×深さ0.65mである。第1層は厚さ20cmのコーカスの堆積層である。第2層は厚さ30cmの茶褐色粘質土層であり、焼土・炭化物の混入は見られるが、遺物・遺構は未検出である。第3層は黒褐色粘質土層であり、遺物・炭化物等の混入は見られない。その下層は地山層となる。

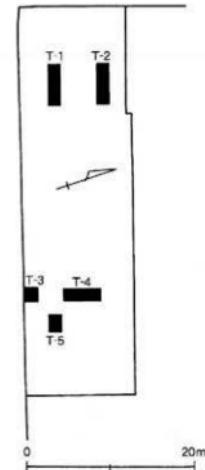


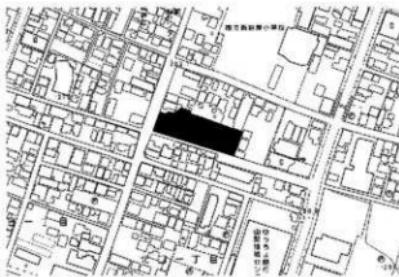
図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

19-15 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市武田一丁目3他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1,418.5m²
調査面積 126.4m²
調査期間 平成20年1月18日～1月25日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

城下町は、標高304m、比高30mの一条小山に築かれた甲府城を中心に形成され、東西1.7km、南北2.5kmの範囲に広がる。現在、JR中央本線により南北に分断されている。

近世期以降の実相は、各種絵図などから土地区画及び屋敷拝領者なども断片的に判明する。対象地は城下北方、先手小路に通じる堅町口の外側、二の堀に接した地点に位置し、商職人地と推定される。現在は、標高280mを測る住宅密集地である。

調査の概要

対象地に2m×10m程の試掘坑を6本設定し、延べ62.4mにわたり掘削した。東側から順次開始し、対象地全体にわたり地表下0.5mまで旧建物解体に伴う整地土が堆積し、部分的に地表下1m以上に及ぶ搅乱が存在した。それ以下は地山層(黄褐色土)となり、遺物包含層など文化層は確認できなかった。

調査結果

最も西側の試掘坑より江戸期～近代にいたる陶磁器が出土するものの、コンクリートガラなども混入する状況であった。文化層・遺構も確認できなかったため、記録写真撮影後、調査を終了した。

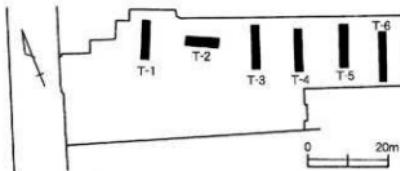


図1 調査区配置図

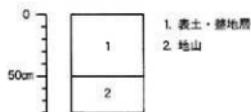


図2 土層柱状図



図3 出土遺物

19-16 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部三丁目677-2
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1.610.30m²
調査面積 140.0m²
調査期間 平成19年4月19日～21日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は、盆地北部、相川扇状地の扇端部に広がる。当遺跡は、これまで幾度となく発掘調査が実施され、縄文時代中期から人々の生活の痕跡が確認されている。特に弥生時代後期～古墳時代にかけて墓域をともない大きな集落が形成され、当地での営みは中世に至るまで続いている。調査地点は標高約280mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を7ヶ所設定し、延べ65mにわたり掘削した。地表下0.5～1.2mまで搅乱・整地されており、それ以下に旧地表が存在する。水田だったらしく、旧耕作土(厚5cm)、水田床土(厚5cm)が部分的に確認できた。水田床土以下は、黒色土(厚40cm)、茶褐色土(厚70cm)、灰色土(厚70cm)が堆積しており、茶褐色土以下が地山層と考えられる。試掘坑1～3地点は地表下1.2m、地山層まで搅乱が及んでいた。比較的残りの良い試掘坑4～7地点からも遺物・遺構は確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了している。

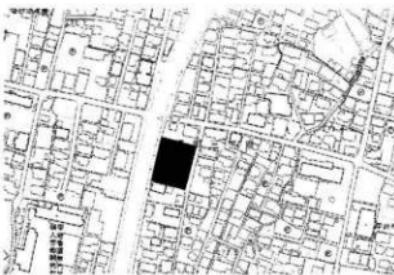


図1 調査区配置図

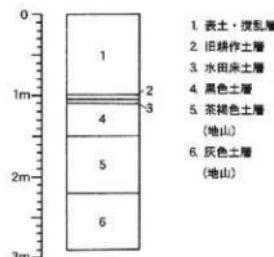
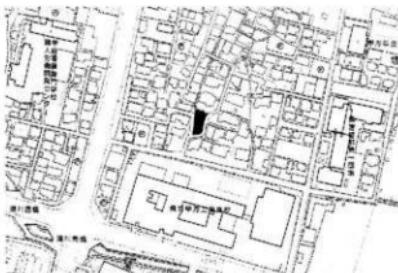


図2 土層柱状図

19-17 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部三丁目556-3
調査原因 個人住宅建設
対象面積 243.08m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成19年6月19日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、山梨県埋蔵文化財センターが県立甲府工業高校の校舎建替えに際して本調査を実施した地点の真北に位置し、距離的にも隣接することから、遺跡が発見される可能性が高いと考えられた。

建物構造は南側半分に地下室が計画されており、遺跡が確認された場合は、その範囲の調査が必要となることもあり、試掘調査は拡張も視野に入れて建物敷地の西端部で掘削を行った。重機により表土及び黒色土層上部を約0.65m掘削し、その後人力で掘削を行った。

黒色土内から僅かに土器の出土はあったものの、この周辺において遺構が発見される安定した地表面が確認される様子はなく、全体に湿地帯のような土層であった。2m×2mのグリッドの北西隅を約0.3m深掘りしたところ、黒色土下は青灰色がかった砂質土で下部からは若干の湧き水があった。よって、甲府工業地点で検出されている旧河道と考えられ、河川の流路変更後は湿地帯となったと考えられた。

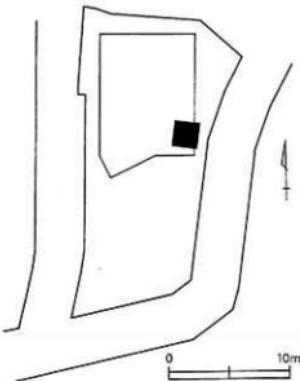


図1 調査区配置図

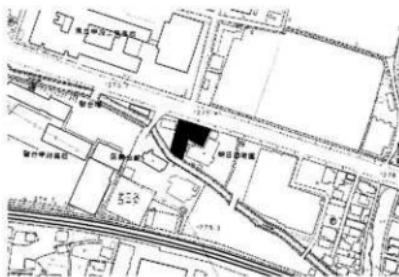
まとめ

県立甲府工業高校地点でも西側は遺構密度が低い地域であり、その北側に位置する本地点についても、立地条件なども踏まえた上で、遺構が検出される可能性は低いと判断し、試掘調査は終了とした。

なお、本地点を北側から水路が取り巻くように開削されていたが、水路の状況からみて、平成8年度の愛宕町下条線調査地点及び県立甲府工業高校地点で検出されていた水路と同一と考えられる。

19-18 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部一丁目441-1他
調査原因 店舗建設
対象面積 845.11m²
調査面積 21.0m²
調査期間 平成19年12月4日
調査担当 志村憲一



はじめに

調査区は湯川左岸標高275mの平坦地であり、塩部遺跡包蔵地範囲の中央部に位置する。過去県埋蔵文化財センターが行った県立甲府工業高校、さらには市教委が行った県道部分の調査では、弥生～中世までの遺構・遺物が検出されている。

しかし、調査区東側で実施した店舗建設に伴う試掘調査では、時期不明の溝跡と土器がわずかに確認されたのみであり、遺構・遺物の密度は極めて散漫であった。

調査状況

既存の鉄筋造り建物撤去後、4ヶ所（新規建物中央部分2ヶ所、建物外2ヶ所）にトレーニチを設定し重機で深さ1.2～1.7m掘削を行った。既存建物撤去時に地表下深さ0.6～0.8mまで搅乱を受けている。調査ではAトレーニチ第6層から遺物が2点出土した。Bトレーニチでは暗渠が確認されたのみである。各トレーニチの土層堆積状況の確認を行い、土層柱状図作成を行った。

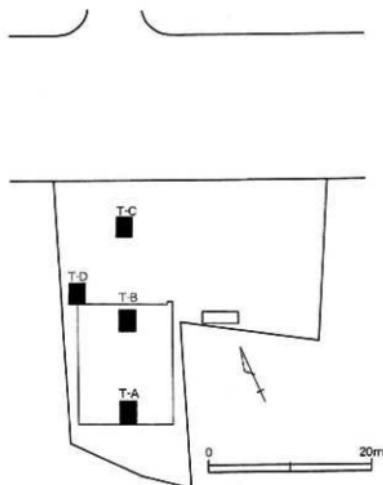
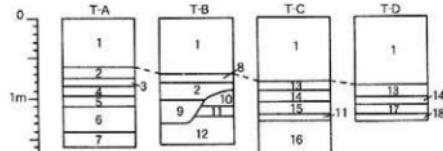


図1 調査区配置図



- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 表土・擾乱層 | 7. 灰黃褐色粘質土層 | 13. 黒灰褐色粘土層 |
| 2. 灰褐色粘土層 | 8. 暗灰褐色粘土層 | 14. 灰青灰褐色粘質土層 |
| 3. 黃褐色粘土層 | 9. 溝渠 | 15. 緑青褐色粘質土層 |
| 4. 墓褐色粘土層 | 10. 緑黃灰褐色粘土層 | 16. 黑色粘土層 |
| 5. 灰黃褐色粘質土層 | 11. 黑黃褐色粘質土層 | 17. 青黒褐色土層 |
| 6. 墓褐色粘土層 | 12. 灰黃黑褐色粘土層 | 18. 黃褐色土層 |

図2 土層柱状図

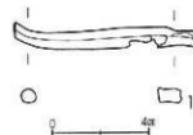


図3 出土遺物

調査結果

- A レンチ 南北2.8m×幅2m×深さ1.6m掘削し、土層は7層に分層される。2～5層は旧水田及び床土層であり、2時期あることが確認された。6層暗褐色粘質土は厚さ約30cmを測り、上面からは不明銅製品、下部からは陶器が出土した。第7層の灰黄褐色粘質土は地山層である。
- B レンチ 南北2.6m×幅2m×深さ1.6mを掘削した。土層は7層に分層される。9層は径10～20cmの自然礫が充填された南北方向を通る暗渠である。時期を特定する遺物等は確認されなかったが、近世～近代にかけて設けられたものと考えられる。10～12層は地山層と考えられる。
- C レンチ 南北2.6m×幅2m×深さ1.7mを掘削した。土層は6層に分層される。いずれの層からも遺構・遺物は確認されてはいない。
- D レンチ 南北2.5m×幅2m×深さ1.2mを掘削した。5層に分層される。いずれの層からも遺構・遺物は確認されてはいない。17・18層は地山層と考えられる。

調査所見

隣接する北側の県立甲府工業高校地点からは、主に古墳時代から平安時代にかけての遺構・遺物が多く確認されたが、今回の調査区ではA レンチから2点の近世の遺物が確認されたのみである。現状は平坦地であるが、旧地形は南東側へかけて傾斜していたものと考えられる。特に南側のA レンチでは最も深い位置から近世の遺物が確認された。

また、上層からは近代の水田層が検出され、近年まで稻作が行われていたものと考えられる。B レンチで確認された暗渠に関しては、水田の水抜の施設であった可能性を考えられる。

19-19 十丁遺跡

調査位置 甲府市里吉三丁目831-1他
調査原因 宅地造成
対象面積 3.738m²
調査面積 200.0m²
調査期間 平成19年10月19日～11月9日
調査担当 伊藤正幸

遺跡の概要

本遺跡は、標高258mの濁川氾濫原上に位置する。この地位は埋蔵文化財の包含層までが比較的深く、これまでにも保存状態の比較的良好な、古墳時代から平安時代に至る遺跡が複数確認されている。

本地点は、十丁遺跡包蔵地の中央部から東側一帯にあたり、また表面採集により古墳時代の土器が大量に採取されていた。

調査の概要

宅地造成工事に先立ち、対象地内に8本の試掘坑延べ45mを設定して重機により掘り下げた。全体的には西側1/3が柿畠であったが、調査地の表面は30～50cmの厚さに碎石が敷かれ、資材置き場として使用されていた。

西側に設定した3本の試掘坑(T-1～T-3)からは過去に天地返し及び客土をおこなった痕跡が確認できた。その際にはコンクリート瓦礫やゴミなども投棄された様子が観察できた。外の5本の試掘坑については、T-4及びT-8の2本の試掘坑からは少量の古墳時代の遺物とともに小規模な溝状の掘り込みが確認されたのみで、他の試掘坑からは埋蔵文化財に関わるものは確認されなかったため、調査を終了した。

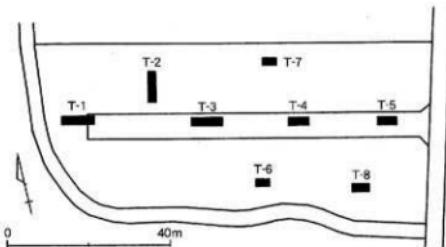


図1 調査区配置図

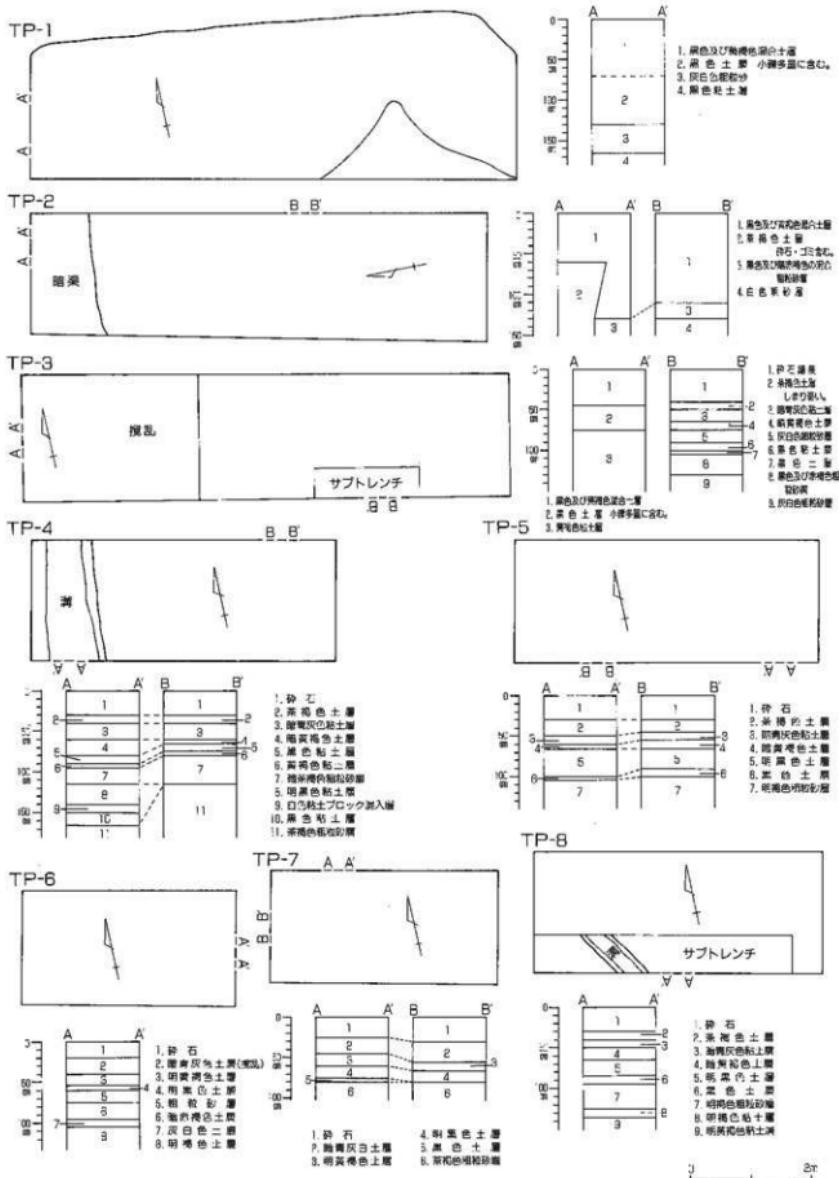


図2 平面図・土層柱状図

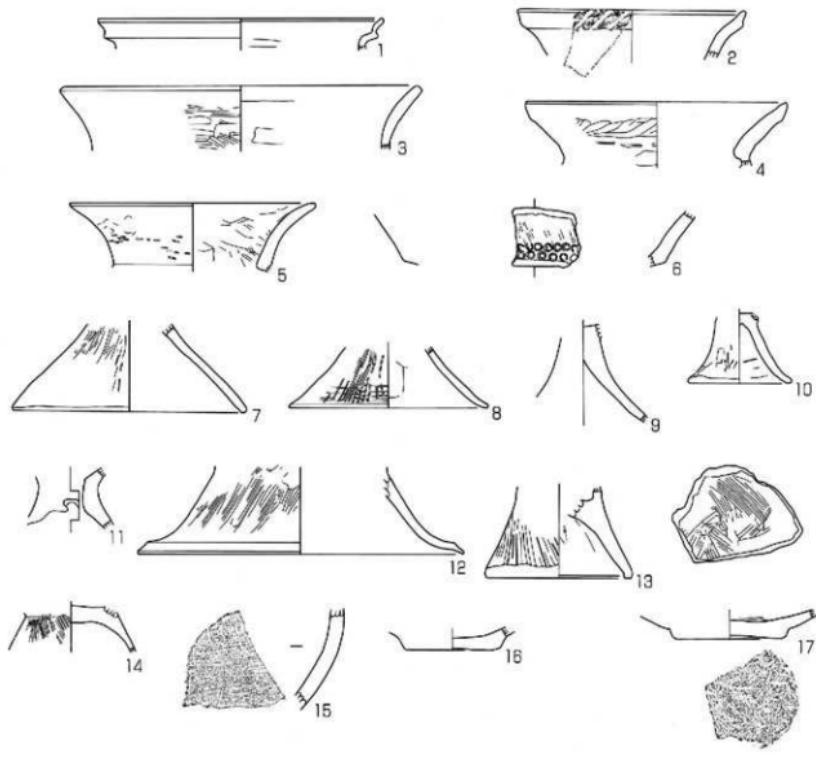


図3 出土遺物

0 10mm

19-20 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目2470-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 755.1m²
調査面積 45.0m²
調査期間 平成19年5月15・16日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

調査区は、史跡武田氏館跡梅翁曲輪の南側、相川扇状地標高322m地点に位置する。『甲府略志』の絵図によると、武田家重臣である板垣信方の屋敷跡の伝承地である。調査区に接する東側の通りは、中世以来の街路である。

調査の概要

建物建設予定地2箇所に、トレンチ1（東西9.5m×幅3m、深さ0.3～0.4m）、トレンチ2（南北8m×幅2m、深さ0.4～0.6m）を設定した。両トレンチとも遺構は確認されなかつたが、地山層直上の暗褐色土層は多くの小礫と焼土粒子及び炭化物の混入がみられ、トレンチ2では部分的に焼土層が確認された。両トレンチとも16世紀代のかわらけ、陶器、磁器が合計10点出土した。

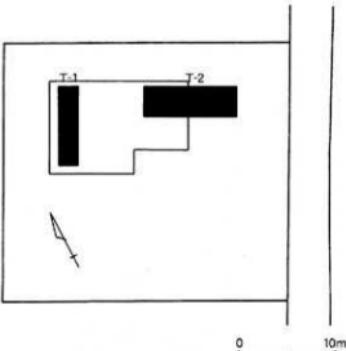


図1 調査区配置図

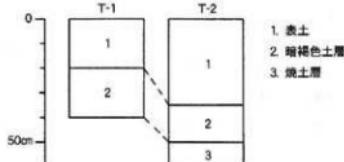


図2 土層柱状図

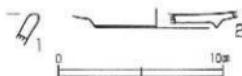


図3 出土遺物

19-21 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目4589-6他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 317.09m²
調査面積 18.5m²
調査期間 平成19年5月29日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は字小山田に位置し、武田期の家臣団屋敷地内と推定されており、周辺では平成13年度に本地点南側の宅地造成に際して本調査が実施されている。よって、本地点についても遺跡が確認される可能性があると考えられた。

基礎工事はベタ基礎工法であったが、建物外周部の掘削が地表下0.5mと掘削深度が深かったこともあり、試掘調査とした。ただし、ベタ基礎工法であり、建物中央には掘削は及ばないため、まず事前に小規模なグリッドによって建物隣接地を調査し、その状況で建物内の調査を判断することとした。掘削したところ、前建物解体時の搅乱層下には水田層が確認され、床土層直下で地山あるいは部分的に暗褐色の包含層を検出した。包含層は極めて薄く検出されたのみであったが、戦国期の遺物が若干出土した。計画されている基礎工法で建物予定地の基礎外周以外は保護されることがあきらかであることから、細長く掘削される床掘り部分について開発時に確認することとした。

まとめ

状況については、事前に設計会社側とも協議し、施工業者側に概要を伝達して協力をいただいた。掘削深度は届出段階より0.1m浅く計画変更され、結果的にちょうど包含層直上で整えられた。幅約0.4mの溝状の基礎掘削坑を全体的に掘削、精査し、遺構の確認を行った。若干遺物の出土はあったが、遺構などは確認されなかつたため、問題はないとの判断して調査を終了した。

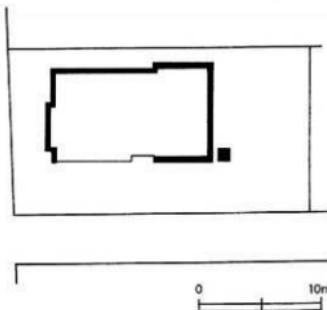
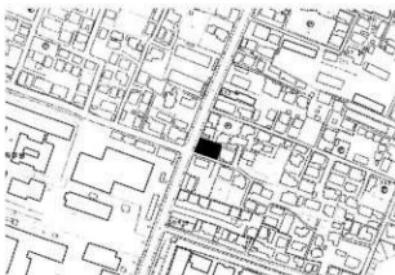


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図



図3 出土遺物

19-22 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2448-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 312.67m²
調査面積 6.0m²
調査期間 平成19年11月8日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地点は、武田城下町遺跡の中でも『甲府略志』所収の「古府之図」によると、三枝勘解由の屋敷の一角にあたることが想定できる。

調査地は、南北で最大86cmの比高差があり、整地により約60cm程度北側の土砂がすきとられた状況が覗えた。また、既存の建築物の基礎がかなり深く入っていて、解体作業の際に確認したときも場所によっては現地表から1m以上深いところから基礎を撤去する状況を確認した。

建築予定地のほぼ中央に2m×3mの試掘調査トレンチを設定し、試掘調査を実施した。

調査の結果

地表から約60cmまで撤去した建物の基礎により搅乱を受け、場所によっては前述したとおり1m以上搅乱を受けているところも確認できた。搅乱より下層には暗褐色の岩盤層が堆積し、埋蔵文化財は全く確認できなかった。

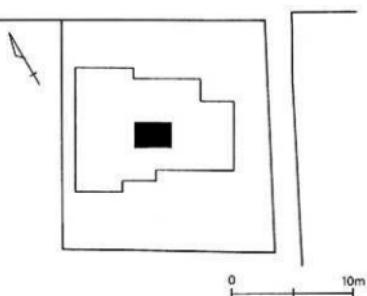
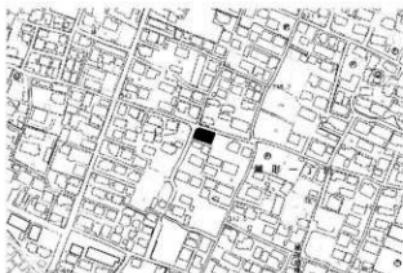


図1 調査区配置図

19-23 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目1996-3
調査原因 個人住宅建設
対象面積 227.61m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成19年7月17日
調査担当 平塙洋一



調査の概要

調査地点は『甲府略志』所収の「古府之図」によると一条右衛門家臣屋敷の一角にあたるものと想定できる。

調査地点は南北で最大110cmの比高差があり、南側が大きく盛土された状況が窺えた。建築予定地の中央に2m×2mの試掘調査トレンチを設定し、試掘調査を実施した。

調査の結果

調査の結果、地表から約80cmまでが盛土が施されており、それより下層は搅乱を受けていないことが確認できた。その面で精査した結果、溝跡1条と柱穴2基が確認できた。

さらに掘り進めた結果、最終的に大規模な溝跡（堀の可能性もある）であることが判明した。その規模は上面で幅約120cm、自然地形を活かして北側が約30cm高いものであった。断面の形状は薬研彫りを呈し、上面に比べ底面は狭小であった。

出土した遺物に中世のかわらけ片と、漆が付着した木片がある。

設計上の基礎掘削の深さと遺構確認面まで十分な保護層が確保できるため、埋蔵文化財への影響はないものと判断し、調査を終了した。

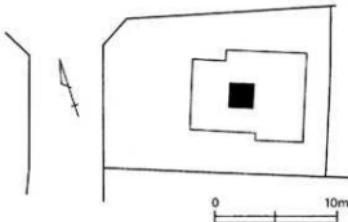


図1 調査区配置図

19-24 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町6026-8
調査原因 個人住宅建設
対象面積 176.0m²
調査面積 10.5m²
調査期間 平成19年8月1日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

調査区は、史跡武田氏館跡北西方向、相川扇状地標高363m地点に位置する。『甲府略志』の絵図によると武田家重臣である小山田信茂と土屋右衛門尉の屋敷跡の伝承地であり、「土屋敷」の字名が残る。過去宅地造成工事の際の調査では、16世紀段階の遺構・遺物が確認されている。

調査の概要

建物基礎掘削時に幅約1m、長さ10.5m、深さ0.7mの掘削が行われた。地表下0.3~0.6mは宅地造成による盛土層である。その下層は部分的に相川扇状地上で遺物の混入がみられる。厚さ10cmの暗褐色土の堆積層が部分的にみられたが、遺構・遺物は確認されなかった。その下層は、拳大の礫を多く含む黄褐色土の地山層となる。

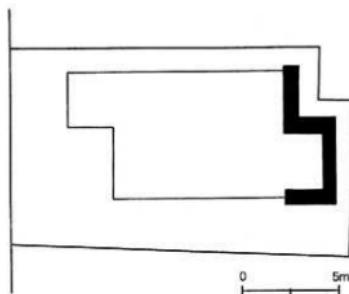


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

19-25 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目234-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 377.45m²
調査面積 16.0m²
調査期間 平成19年9月3・4日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田城下町遺跡南部に位置しており、北側の区画は尊勝寺の故地に推定されている。また、本地点南側隣接地に大きな水路が存在したことから、昔の堀跡の可能性も含めて調査を実施した。

本地点は、キリスト教会より一段低い南側の広場に個人住宅を建設する計画であった。住宅基礎は、地質調査の結果、地盤改良が必要と判断されていたため、建設予定地を南北方向にトレンチを設定し、南側から重機により掘削を行った。

基本土層は、碎石を含む強固な盛土層が0.4mほど確認された。さらに掘り下げたところ0.4~0.5m近く粘質土が盛土されており、全体的に現地表下約0.8~0.9mの盛土がなされていることが判明した。

盛土層を除去すると、下層には堀や溜池など水の淀みに堆積する青灰色がかかった黒褐色の粘質土が堆積していた。厚さは約0.4mまで全体的に掘削したところでも大きな変化は見られなかったため、全体の掘削を中止し、部分的にサブトレンチを設定し掘削した。0.4mほど掘削したところでも土層堆積に変化はなかったため、調査はこの時点で終了とした。よって、隣接する水路との関係から堀跡ではないかと考えたが、トレンチ北側を掘削したところ、南側と同様の土層堆積状況であった。粘質土の範囲から考え、堀としては規模が大きすぎることから溜池ではないかと考えられた。

まとめ

土層中からは近現代の陶磁器やガラスなどが多数検出されたことから、堆積土自体も新しいものであると考えられた。よって、古い時期の遺構はないと考えられたため、地盤改良を伴う本地区の工事は着手して問題ないと判断し、調査を終了した。

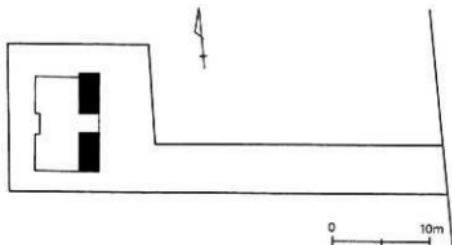


図1 調査区配置図

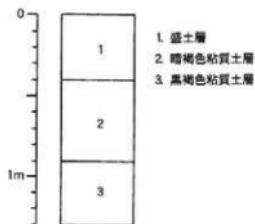


図2 土層柱状図

19-26 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町字日影2813
調査原因 個人住宅建設
対象面積 570.9m²
調査面積 1.5m²
調査期間 平成19年10月3日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地区は、史跡武田氏館跡の北側に位置し、地形的には西側の道路より高い場所に立地する。敷地の周囲はさらに高く石垣等で囲まれており、屋敷地を形成するために削平を行っていることが予想された。

本件は既存の宅地内に別棟を新築するものであり、基礎は布基礎が計画されていた。試掘坑は住宅基礎部ではなく、浄化槽が予定されている場所を $1\text{m} \times 1.5\text{m}$ 掘削した。搅乱などを含む現地表を 0.25m ほど掘削すると、すぐに黄褐色の地山層が検出された。地面上では搅乱以外は確認されず、遺構・遺物も発見されなかった。

まとめ

住宅建設に伴い周囲の水路も改修していたため、掘削面を確認したが、やはり浅い地盤から地山層が検出されており、遺跡はない判断された。よって、この段階で埋め戻しを行い、試掘調査を終了した。

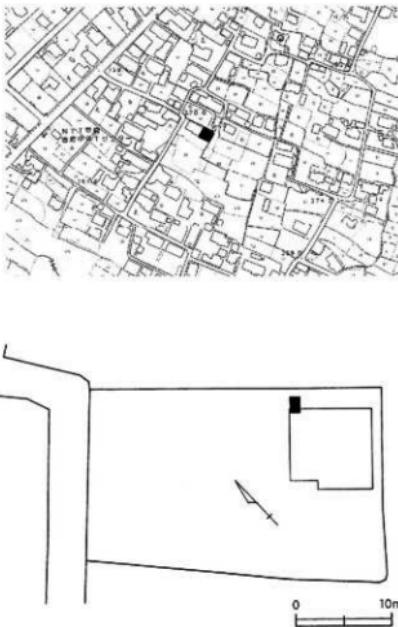


図1 調査区配置図

19-27 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目309他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 604.98m²
調査面積 20.0m²
調査期間 平成19年10月9日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館であった躑躅ヶ崎館より現在のJR甲府駅付近まで及ぶものと推量される。調査地点は館跡より約1.5km南下した標高約290mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に2m×10mの試掘坑を設定し、地表下約80cmまで掘削した。地表下60cmまで盛土が、それ以下に旧耕作土(厚20cm)、黄色土(地山)が堆積していた。調査により、盛土中より江戸期～明治期の陶磁器片を数点検出した以外、遺構は確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了している。

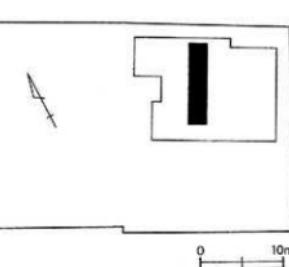


図1 調査区配置図

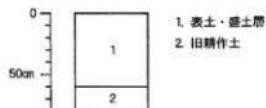


図2 土層柱状図

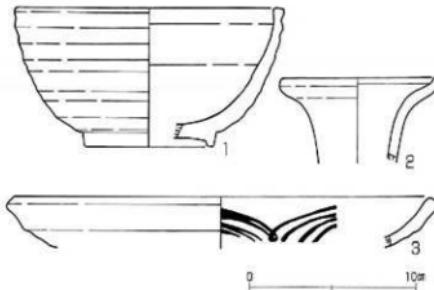


図3 出土遺物

19-28 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町203 - 1他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 812.27m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成19年10月25日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は、武田城下町遺跡南東側大泉寺小路と鍛冶小路の中間地点に位置し、相川扇状地標高約302mを測る。調査区南側には八幡神社が位置し、『甲府略志』の絵図には家臣等の記載はみられず中世段階の土地の利用状況は不明である。江戸時代18世紀初頭の柳沢氏が領有していた時代は、調査区北側は武家屋敷地であったが、甲府勤番支配の時代は絵図に「田」と記載したものもみられる。

調査の概要

建物位置に長さ2m、幅1mのトレンチを2か所設定し、重機及び人力で掘削したが遺構・遺物とともに確認されなかった。なお西側のトレンチ1では約0.6m掘削し、表層25cmは搅乱層であり、第2層は地山層である。東側のトレンチ2では、約0.35m掘削が行われ旧水田の堆積層が確認されている。



図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

19-29 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町241

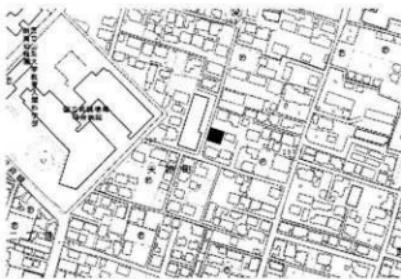
調査原因 個人住宅建設

対象面積 239.32m²

調査面積 26.0m²

調査期間 平成19年10月30日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」から現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は城下西側の基幹街路に近接し、標高約300mを測る分譲地である。

調査の概要

対象地に延べ2m×13mの試掘坑を設定し、地表下約65cmまで掘削した。すでに建物を解体・整地したあとらしく部分的に地表下1mまでコンクリートガラ等が含まれる状況であった。地表下50cmまで整地層が堆積し、それより下層に旧水田耕作土(厚10cm)、水田底土(厚5cm)が堆積し、以下、地山(黄色土層)となる。調査により、遺構・遺物は確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。

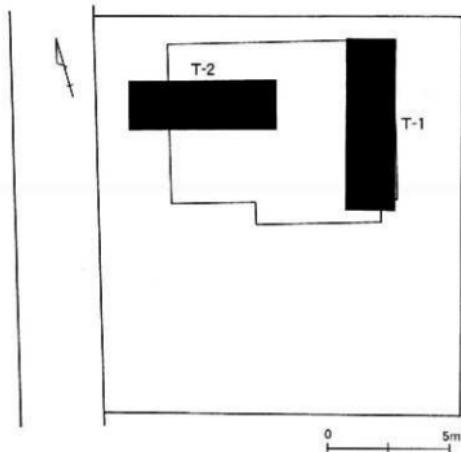


図1 調査区配置図

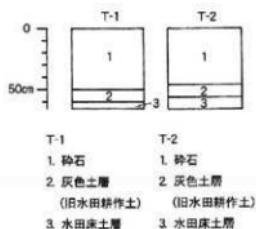


図2 土層柱状図

19-30 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町241

調査原因 個人住宅建設

対象面積 233.57m²

調査面積 20.6m²

調査期間 平成19年11月15・16日

調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国初期開削の城下町遺跡である。武田氏居館を中心に南北五条の基幹街路が配され、城下は現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は城下の西隅に位置し、標高約300mを測る分譲地である。

調査の概要

対象地に2m×10.3mの試掘坑を設定し、地表下約1.2mまで掘削した。試掘坑北半はコンクリートガラが著しく混入し、地山も確認できない状況であった。南側は安定した土層堆積が確認でき、地表下40cmまで整地層が、それ以下に旧水田耕作土(厚10cm)、水田床土(厚5cm)、褐色土(厚35cm)、黒色土(厚30cm)が堆積していた。

調査により、黒色土中から遺物を確認した。土層堆積状況から褐色土が水田造成にともなう盛土であり、黒色土が遺物包含層であろうか。すでに建設予定地は擾乱を受け、遺構の残存も期待できないため記録写真撮影後、調査を終了した。

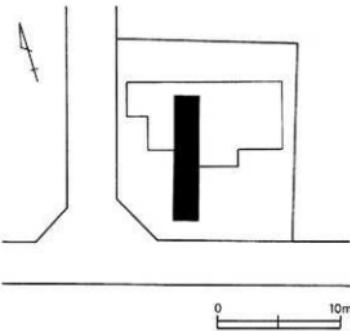
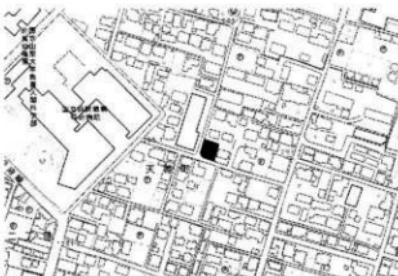


図1 調査区配置図

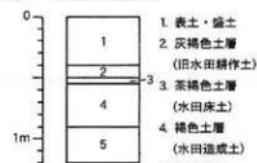


図2 土層柱状図

19-31 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町241

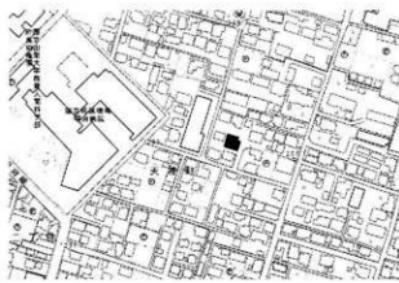
調査原因 個人住宅建設

対象面積 239.32m²

調査面積 19.2m²

調査期間 平成19年11月15・16日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は館跡より約1.2km南下した城下西側の基幹街路に近接し、標高約300mを測る分譲地である。

調査の概要

対象地に延べ2m×9.6mの試掘坑を設定し、地表下約80cmまで掘削した。旧建物を解体・整地したあとらしく部分的に地表下1.2mまでコンクリートガラが含まれる状況であった。地表下70cmまで解体・整地層が堆積し、それ以下に茶褐色土(厚10cm)、地山層(黄色土)が堆積する。すでに旧建物建設により調査地点の大部分が搅乱されており、調査により遺構・遺物は確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了した。

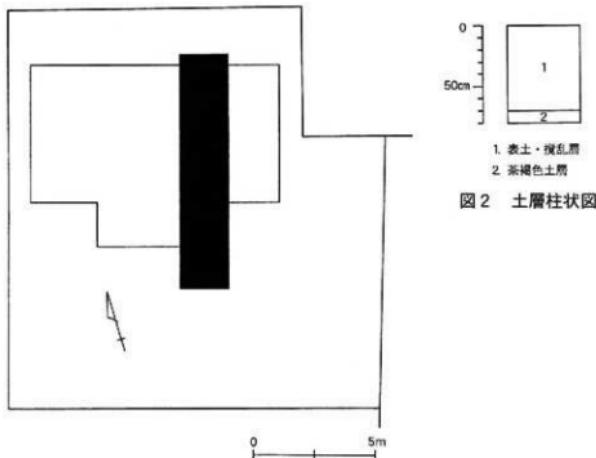


図1 調査区配置図

19-32 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町241-5

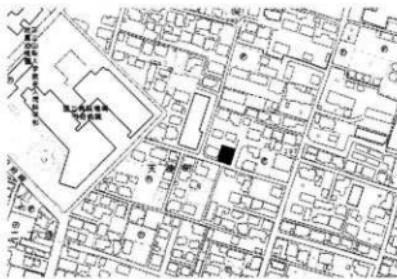
調査原因 個人住宅建設

対象面積 234.39m²

調査面積 18.6m²

調査期間 平成19年11月15・16日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は標高約300mを測る分譲地である。

調査の概要

対象地に2m×9.3mの試掘坑を設定し、地表下約1.4mまで掘削した。旧建物の解体・整地後で、部分的にコンクリートガラが含まれる状況であった。地表下35cmまで整地・碎石層が堆積し、それ以下に旧水田耕作土（厚10cm）、水田床土（厚5cm）、黒色粘質土（厚35cm）、褐色土（厚20cm）、黒色土（厚35cm）が堆積していた。

調査により黒色土中から遺物を確認した。土層堆積から黒色粘質土・褐色土が水田造成とともになう盛土であり、黒色土が遺物包含層であろうか。すでに建設予定地は搅乱を受け、遺構の残存も期待できないため記録写真撮影後、調査を終了した。

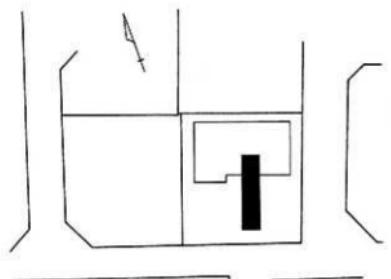


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

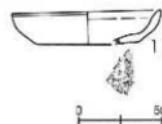


図3 出土遺物

19-33 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目1960-4他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 840.9m²
調査面積 16.0m²
調査期間 平成19年12月7日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査対象地は、武田城下町遺跡の中でも、『甲府略志』所収の「古府之図」によると、一条右衛門家臣屋敷の一角にあたることが想定できる。

調査地は南北で1m近い比高差があり、南側に盛土された状況が窺えた。

建築予定地の中央に2m×6mの試掘調査トレンチを設定し、試掘調査を実施した。

調査の結果

当初計画していた部分のほとんどが搅乱を受けていたため、そのまま西側に2m延長し調査を行った。

その結果、地表から25cmが盛土、それより下層60cmまでが暗褐色の粘土層それ以下が自然堆積層となることが確認できた。

しかし、埋蔵文化財については全く確認できなかった。

今回予定されている工事による埋蔵文化財への影響は少ないと判断し、調査を終了した。

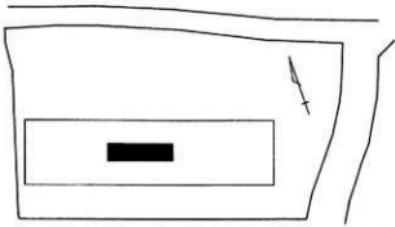


図1 調査区配置図

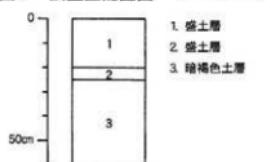


図2 土層柱状図

19-34 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目141-4他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 86.14m²
調査面積 30.0m²
調査期間 平成19年12月7日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。武田氏居館を中心南北五条の基幹街路が配され、城下は南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は館跡の南方約1.2km、基幹街路に接する標高約300mの宅地である。

調査の概要

対象地に2m×15mの試掘坑を設定し、地表下約0.5～0.8mまで掘削した。地表下0.3mまで表土・耕作土が堆積し、それ以下は地山層となる。土層堆積状況から部分的に段差が生じ、江戸時代の磁器が出土したことから、もと2筆あった土地を盛土して1筆にしたものであろう。記録写真撮影後、調査を終了した。

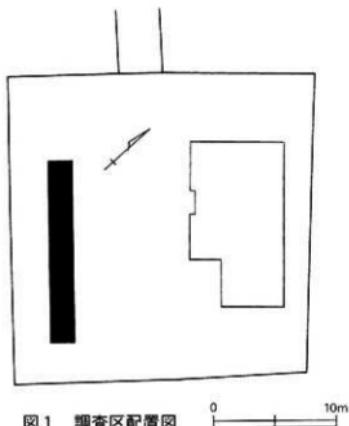


図1 調査区配置図

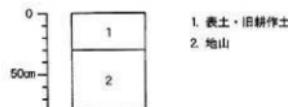


図2 土層柱状図



図3 出土遺物

19-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市下積翠寺町897-1他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 315.97m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成19年12月10日
調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

本地点は相川扇状地の扇央部にあり、標高385mを測る。調査地の西側は相川に向かって急激な段丘を形成している。段造成により住宅地と耕作地とが混在する傾斜地に位置する。

調査の概要

個人住宅建設に先立ち、対象地に2m四方の試掘坑1ヵ所を設定して人力により掘り下げた。現状は畠地だが、過去に住宅が建てられていたという。

層序としては、1層：茶褐色土層(耕作土)を除去すると2層：黄褐色土層(地山)に至り、そこまでの間層は存在しない。北側隣接地との比高差が2.5mほど認められ、周辺宅地が農地も含めてヒナ段状に造成されていることから考えて、切り土による造成と思われる。

2層への掘り込みはなく、遺物も皆無だったため、埋蔵文化財に対する影響はないと考えられ、埋め戻して調査を終了した。

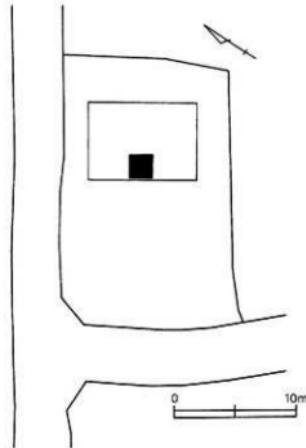


図1 調査区配置図

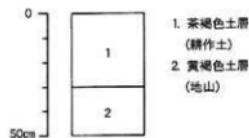


図2 土層柱状図

19-36 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1570
調査原因 個人住宅建設
対象面積 473.05m²
調査面積 10.0m²
調査期間 平成20年3月19日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推測され、南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は、館の南方に設けられた梅翁曲輪の西方200mに位置し、城下西側の基幹街路に近接する。標高約330mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に2m×5mの試掘坑を設定し、地表下約0.6mまで掘削した。地表下20cmまで解体・整地層が堆積し、それ以下は黄褐色土(地山)となる。遺物が出土するものの遺構は確認できなかつた。記録写真撮影後、調査を終了した。

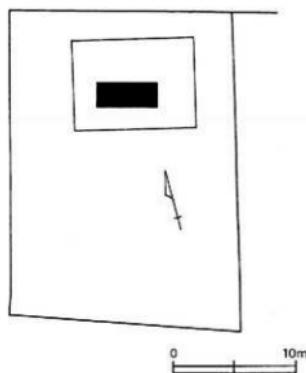


図1 調査区配置図

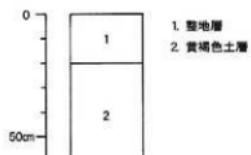


図2 土層柱状図

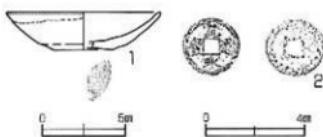
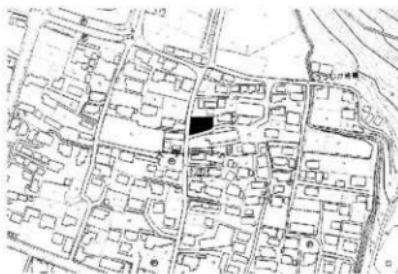


図3 出土遺物

19-37 武田城下町遺跡 大手下遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3767
調査原因 個人住宅建設
対象面積 242.71m²
調査面積 36.0m²
調査期間 平成19年4月9日～27日
調査担当者 平塚洋一



調査の概要

調査地は武田城下町を形成する5条ある南北道路の一つ鍛冶小路に面する。

周辺の試掘調査では縄文時代と中世の遺構・遺物が検出されている。

調査の結果

当初、2m×2mの試掘調査グリッドを設定し調査を始めた。地表から30cm掘削したところ縄文土器が出土し始め、精査した結果縄文時代の土坑（以下「ピット」とする）が3基重複して確認できた。なかからは縄文土器とともに、黒曜石や水晶が検出された。

基礎の掘削深度が地表から45cmを計画しているため、遺跡が破壊されることが予想された。そのため、設計変更を依頼し一旦埋め戻した。しかし、建築の規制から設計変更是不可能との回答を受け、3m×12mのトレンチを設定し、当初の試掘調査グリッドを拡張する形で調査を行った。

調査の結果、縄文時代のピットが13基、中世の溝跡が1条検出できた。今回の調査で特筆すべき遺構はピット9とピット12である。ピット9からは縄文土器とともに大量の黒曜石の剥片が出土している。山梨県内では黒曜石は産出せず、近いところでは長野県下諏訪町の和田峠や八ヶ岳北麓の麦草峠がある。しかも出土したものの多くが細片であることから、粗削した黒曜石を持ち込み、ここで加工したことが考えられる。その加工したカスをピット9にまとめて廃棄したのであろう。

ピット12からは焼土が検出されている。最終的には4基のピットの重複で、うち2基から焼土が確認できた。周辺の土も完全に変質していたことから、長期間にわたり火を焚いたものと思われる。焼土にともない平たい石が出土していることから、石皿として使用したことが考えられる。上記のことから、ピット12は縄文時代の竪穴住居の炉の可能性も考えられる。

甲府市街地で縄文時代の遺跡の検出は非常に珍しく、しかも黒曜石を加工した痕跡がうかがえることは学術的にも非常に貴重な事例である。

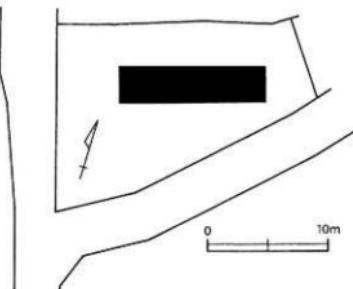
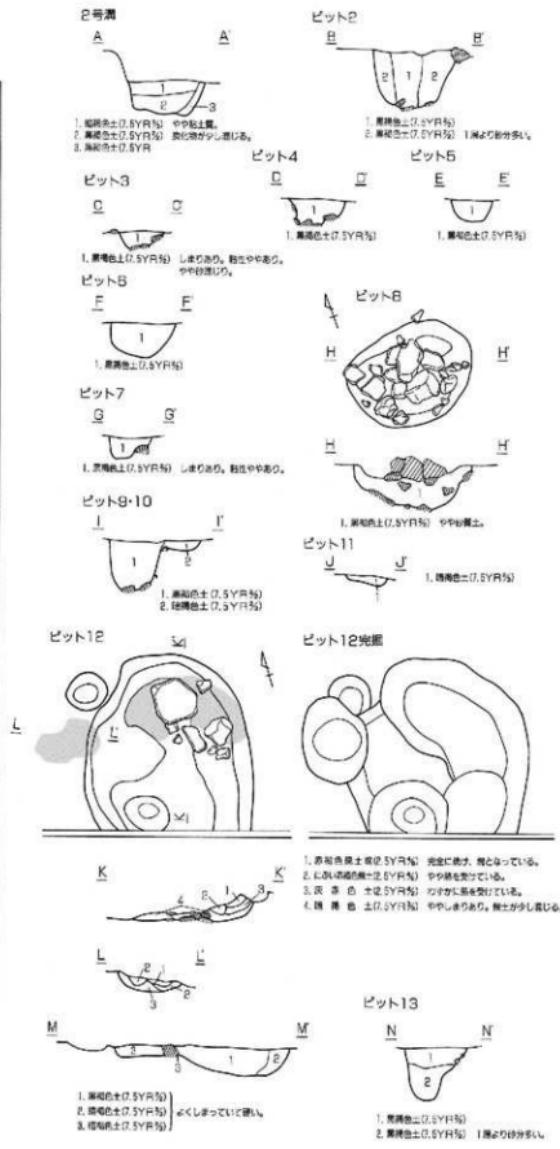
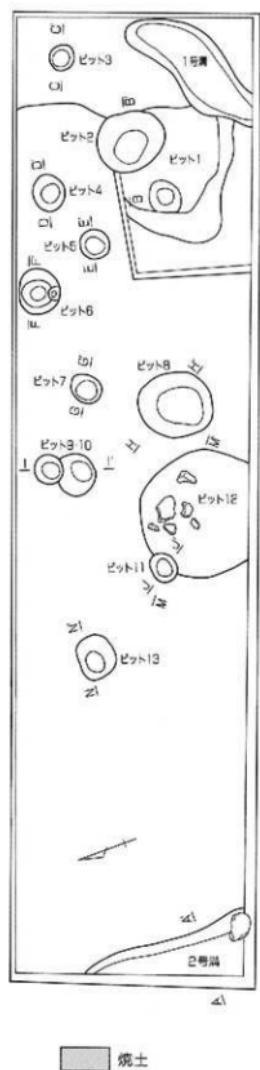


図1 調査区配置図



0 2m
全体平面図
0 1m

図2 平面図・土層堆積図

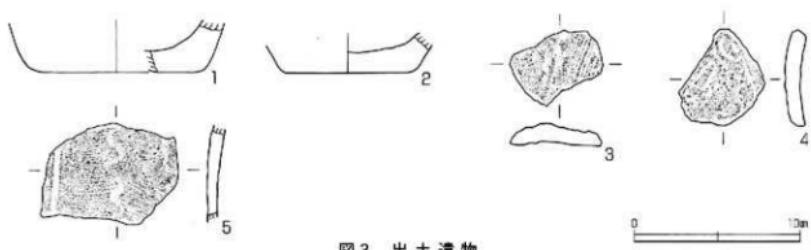
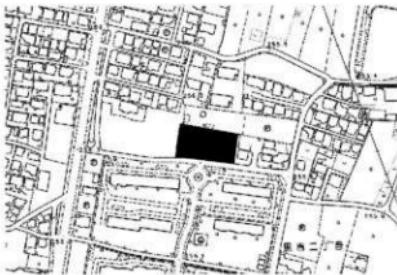


図3 出土遺物

19-38 中坪遺跡

調査位置 甲府市里吉二丁目284-2
調査原因 宅地造成
対象面積 1,073.0m²
調査面積 92.0m²
調査期間 平成19年10月11日～10月19日
調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

調査地は濁川右岸の沖積地上に位置し、標高は255mを測る。調査地のおよそ200m東側を濁川が流れおり古くから氾濫の常習地帯であった。本遺跡の南方は古墳時代から平安時代に至る遺跡の分布が濃厚であるが、これまでに試掘確認調査を含めて発掘調査された遺跡は少なく、地域の特徴は把握されていない。

調査の概要

宅地造成工事に先立ち、対象地に3つの試掘坑で延べ46m設定して重機により掘り下がた。試掘坑は3本で、西から第1トレンチ（TR 1：長さ20m）第2トレンチ（TR 2：長さ13m）第3トレンチ（TR 3：長さ13m）とした。現状は畑地で、部分的に耕作をしているが、全体的には放置された状態である。

基本層序としては、1層：明茶褐色土層（耕作土）、2層：粗粒砂が混入する黄褐色土層、3層：黒色土層、4層：赤褐色土層、5層：黄褐色粗粒砂層と続き、この5層中からは水が湧く。TR 3では3層がかなり不明確になる。擾乱は浅いものでは3層上部までだが、深いものでは5層を掘り込む深さまで続いている。5層上面までの深さは、50～65cmである。

全体的には安定した層序を示すが、TR 1及びTR 2では南端部分に角礫を投げ込んだ5層に至る擾乱及び東西方向の暗渠排水路（土管使用）が確認できる等、耕作に伴う擾乱も部分的には随所に認められた。

遺構・遺物は皆無で土層の亂れも認められなかった。

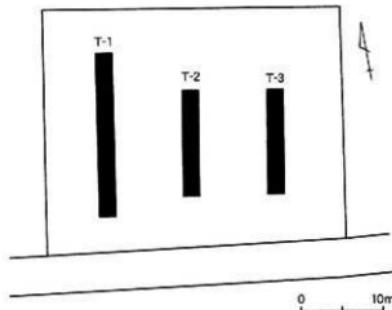


図1 調査区配置図

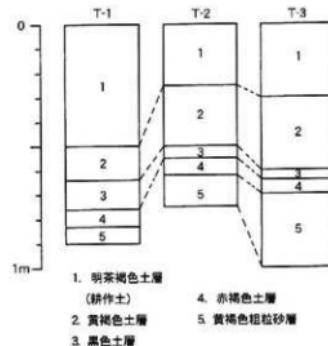


図2 土層柱状図

19-39 西耕地C遺跡

調査位置 甲府市大里町4459-5

調査原因 個人住宅建設

対象面積 215.14m²

調査面積 16.6m²

調査期間 平成19年8月21日

調査担当 伊藤正幸

調査地の概要

本調査地周辺には『古市場』『二日市場』の小字が残されており、富士川船運による物資の集積所として江戸時代以降発展した地域であることが知られている。調査地は鎌田川の左岸に位置し標高253mを測る。対象地はすでに宅地造成段階で試掘確認調査を実施した場所であるが、今回地盤改良を伴う個人住宅建設のため、改めて試掘確認調査を行った。

調査の概要

調査は建物建設部分に2m×8.3mの試掘坑を設定し重機により掘り下げた。

造成に伴う客土の厚さは50cm～70cmで、茶褐色土及び砕石・黒色土で構成されている。その下層は砂を若干含む明茶褐色土の1層のみで、70cm前後確認でき、それを掘り抜くと青灰色の粘土層に至る。

試掘坑中からは遺構・遺物等は検出されなかった。

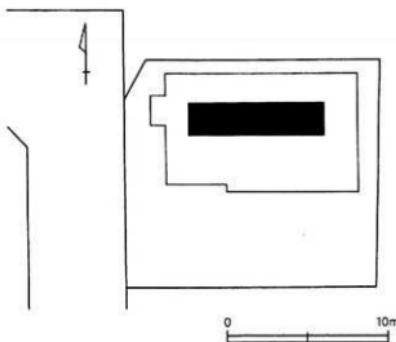


図1 調査区配置図

19-40 平石遺跡

調査位置 甲府市荒川二丁目1014-1他
調査原因 店舗建設
対象面積 1,832m²
調査面積 75.0m²
調査期間 平成19年6月18日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

平石遺跡は、荒川右岸標高約288mに位置する古墳時代を中心とする遺跡である。調査区は遺跡範囲の北端に位置し、北西側200m地点には古墳時代後期の横穴式石室をもつ穴塚古墳が位置する。平成13年度には北側道路部分の本調査が実施され、調査区東側約100m地点から古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が検出されている。

調査の概要

調査範囲内でトレーンチ1（南北3.7m×幅2m、深さ1.8m）、トレーンチ2（南北3.8m×幅2m、深さ約1.1m）、トレーンチ3（東西30m×幅2m、深さ0.85～2.1m）を設定し、重機及び人力で掘削を行った。トレーンチ2・3においては、近代と考えられる水田面を確認したが、その下層は河川の氾濫に伴う砂礫層であり、遺構・遺物とともに確認されなかった。

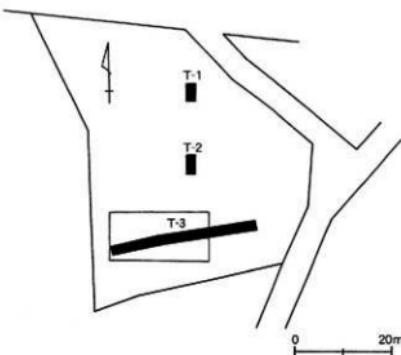
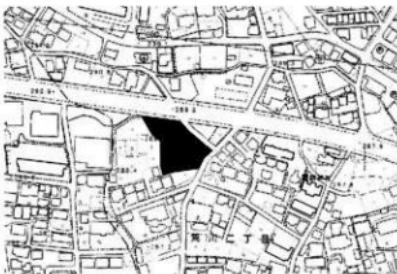
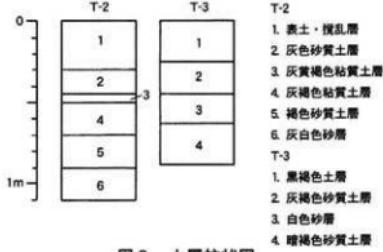


図1 調査区配置図



19-41 万寿森古墳

調査位置 甲府市湯村三丁目462-1他
調査原因 宅地造成
対象面積 2,998.3m²
調査面積 64.0m²
調査期間 平成19年11月5日～12月3日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

平成18年度に引き続き2度目の試掘調査である。今回の調査の目的は、周溝の範囲を特定することと、昨年度調査で確認された柱穴列の範囲・時代を確認することであった。

北東に設定したトレーニチをトレーニチ5、南東に設定したトレーニチをトレーニチ6、柱穴列を確認するため南北に設定したトレーニチをトレーニチ7として調査を進めた。

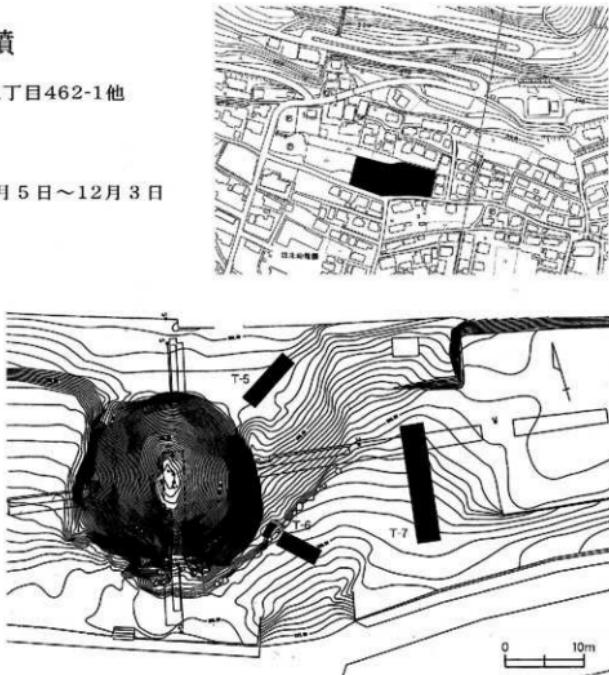


図1 調査区配置図

調査の結果

トレーニチ5

墳丘の中央から石室中央のラインから45°の角度で設定した。周溝の予想範囲である墳丘中央から13m～20mの位置に幅2mで設定した。現地表から約50cmの深さで円形の掘り込みが確認できた。半裁して掘り下げたが円形の掘り込みの性格を把握することはできなかった。

また、地表から1m付近まで掘り下げたが、平面プランで周溝の範囲が特定できなかつたため、検出できた地山（自然堆積層）から周溝の範囲を特定することとした。その結果、周溝の範囲は当初想定したとおりであり、周溝に隣り合って溝が掘り込まれていたため、平面での確認ができなかつたことがわかった。

出土遺物は周溝から古墳時代後期（TK10型式）の須恵器片などがあり、隣接する溝からは滑石製の垂飾がある。

トレーニチ6

墳丘の中央から石室中央のラインから120°の角度で設定した。周溝の予想範囲である墳丘中央から15～20mの位置に幅2mで設定した。現地表から約30cmの深さで周溝と思われる黒色の土が幅1mの帯状に堆積することが確認できた。当初予想していた範囲よりもかなり狭くなるが、周溝の埋まった土だと判断できた。今回の調査では周溝を掘り込みず、確認するだけにとどめ調査を終了した。

出土遺物は、土師器小片および近世以降の掘り込みから、古銭（文久永宝）がある。

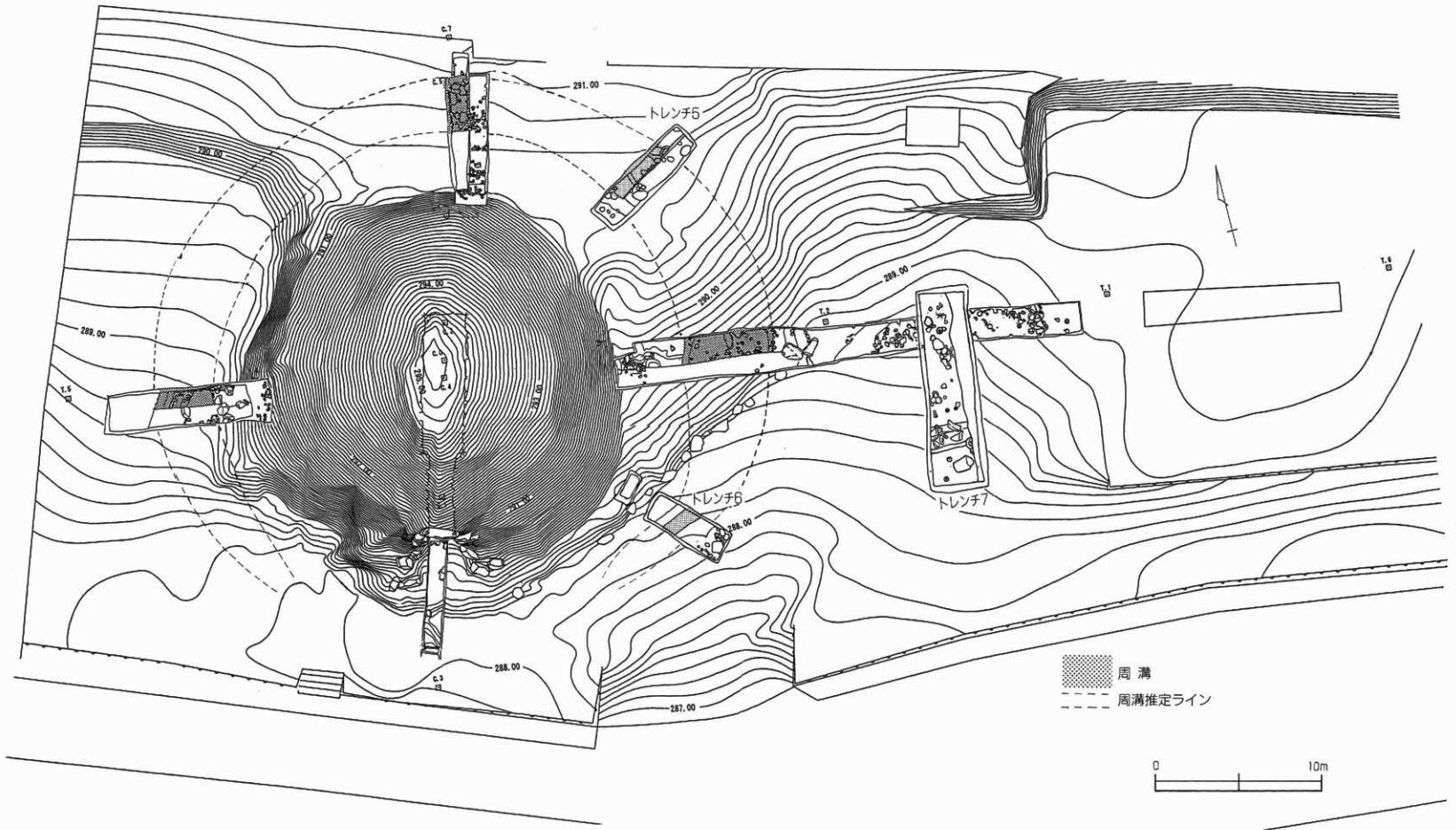


図2 周溝推定位置図

7トレンチ

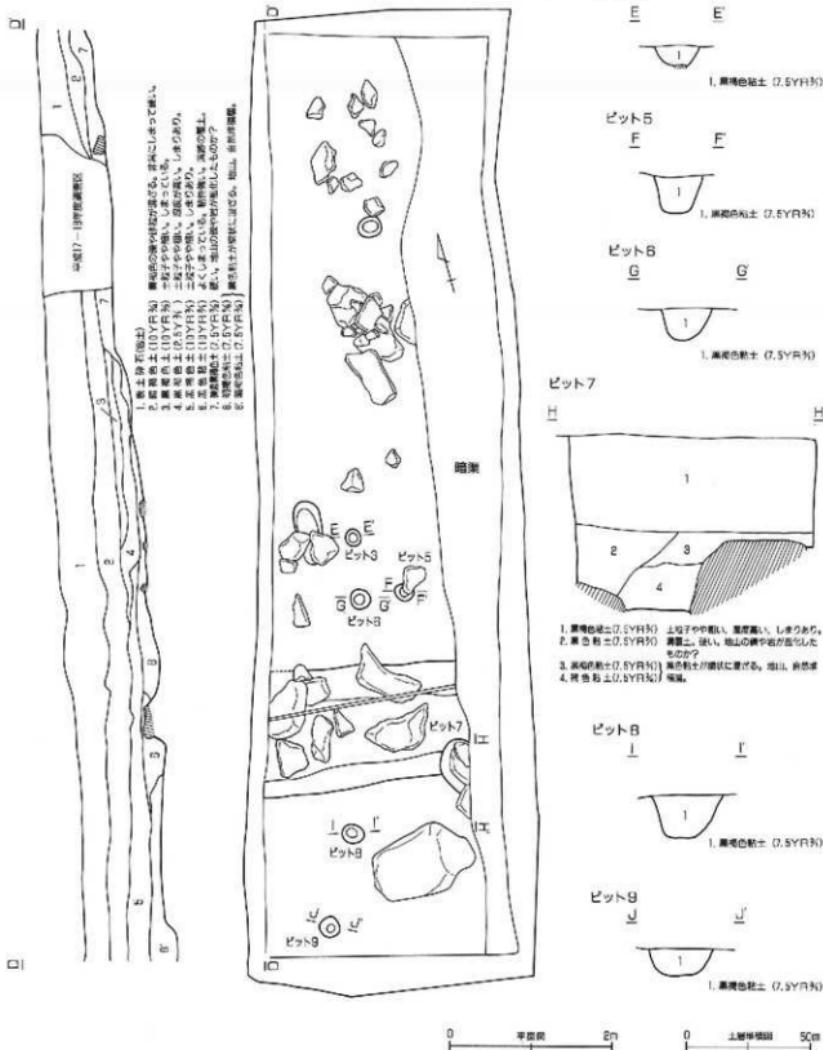


図4 平面・土層堆積図

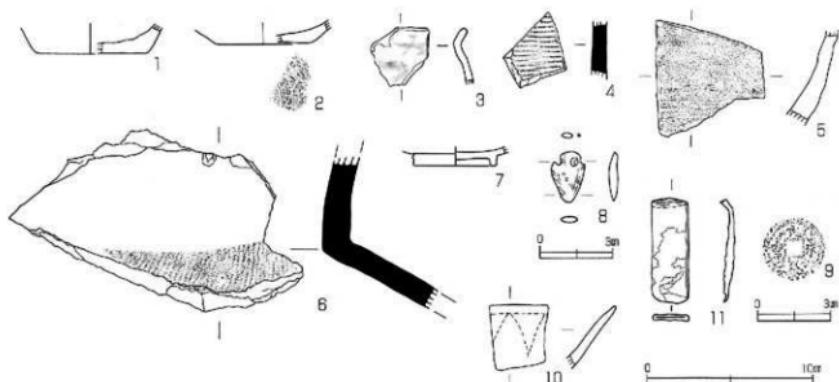


図5 出土遺物

トレンチ7

平成18年度調査により、東西方向に柱穴列が7基確認されている。今回の調査では、前回確認された柱穴列の南北方向への広がりを確認するとともに、その年代を確認することが目的であった。

調査の結果、平成18年度調査によって確認された柱穴列と直交する柱穴が4基確認できた。柱穴の覆土はやや軟弱な暗褐色土であり、出土した遺物に龍泉窯産と見られる青磁碗片がある。編年から青磁は13~15世紀のものと考えられるが、遺構確認面までの覆土に昭和期の陶磁器片がまざり柱穴の覆土もやや軟弱だったことからあわせて考えると、青磁片は柱穴に伴うものとは判断できない。結論として、柱穴列は近代以降に掘られたものと判断した。

結論

万寿森古墳の周溝は、南側ではやや範囲が狭くなるものの、周溝の広がりはほぼ当初予想したとおりであった。

11月29日に土地所有者と県教育委員会立会のもと、調査の現地説明を行った。そこで県教育委員会から土地所有者に提案されたものが、周溝の1m外縁までを緩衝地帯として保存に協力していただきたい、というものであった。この提案について土地所有者は理解を示された。

墳丘の東側では、北東部分で古墳時代の溝跡が確認されており、その延長については本調査が必要である。しかし、それ以外の広範囲については開発が可能であると判断できた。

19-42 緑ヶ丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目2144-3

調査原因 宅地造成

対象面積 175.67m²

調査面積 6.5m²

調査期間 平成19年11月16日

調査担当者 平塚洋一



調査の概要

調査地は緑が丘総合グラウンドの北側に位置する。現地と南側の道路とは160cmの比高差がある。

平成6年に道路を挟んで北側の宅地造成の再試掘調査を実施している。その試掘調査では地表下100cmで安定した地層が確認できたが、土器等はほとんど出土していない。

調査の結果

調査地は3区画の宅地分譲とする計画のため、当初調査トレンチを3箇所設定する計画であった。しかし、2箇所のトレンチで埋蔵文化財の有無を確認したところ、地表から約100cmまでが客土による盛土であり土器等はまったく出土しないと判断できた。

調査の結果から、宅地造成工事において埋蔵文化財への影響はほとんどないと判断でき、住宅建設工事の際にあらためて立会調査を実施させていただくよう依頼し、調査を終了した。

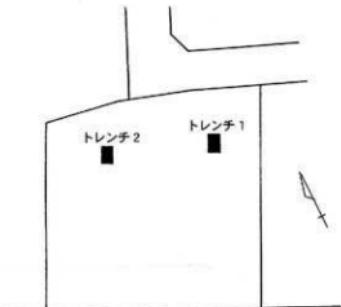


図1 調査区配置図

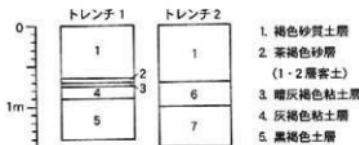


図2 土層柱状図

19-43 蔽ノ内遺跡

調査位置 甲府市白井町字白井宮腰198-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 255.34m²
調査面積 18.0m²
調査期間 平成20年2月29日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は盆地の南東縁、曾根丘陵から続く台地の頂部に位置し、笛吹川の左岸氾濫原との比高約16mを測る。

調査の概要

対象地に延べ2.2m×8.2mの試掘坑を設定し、地表下約0.9mまで掘削した。地表下0.3mまで盛土が、それ以下に旧耕作土(厚10cm)が堆積し、それ以下は地山層となる。もと桃畠だったらしく、部分的に抜根跡が存在した。遺構・遺物は確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。

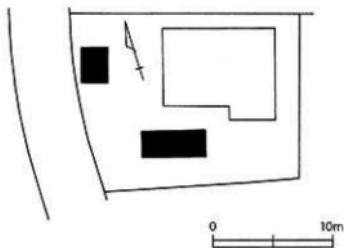


図1 調査区配置図

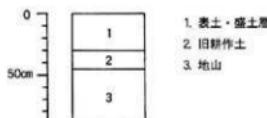
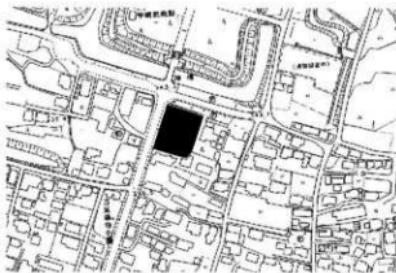


図2 土層柱状図

19-44 武田氏館跡

調査位置 甲府市大手3丁目3731-1他
調査原因 範囲確認調査
対象面積 1,768m²
調査面積 109.0m²
調査期間 平成20年3月14日～4月4日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田氏館跡主郭堀の南側に位置し、江戸期の古絵図や伝承では、穴山氏あるいは馬場氏など武田氏の重臣屋敷地に推定されている。付近の調査事例では、西に隣接する県道武田通り改修工事に際しては、土坑墓などが検出されている。

土地所有者から公有地化への協力意思が示されたことを受け、公有地化する方向で検討に入ったが、この地点の取り扱いは、『史跡武田氏館跡保存管理基準』では、道路から12mまでが公有地化による整備対象となるB地区で、残りは遺構保護を前提とした専用住宅等の建設が可能なC地区であった。しかし、立地条件が良いこともあり、C地区扱いの部分が後日開発される可能性も高いと考えられたため、史跡保護の

観点から保存状況や内容を確認の上、遺跡が確認された場合は合わせて公有地化することとなつた。そのため、所有者の承諾を得て、学術的な確認調査を実施することとなつた。

調査区は大きく上下二段の水田として使用していたが、全体の状況を把握するため、上段に南北トレンチを1条、下段に十字となるトレンチを各1条設定した。調査区の番号は、上段をトレンチ1、下段南北をトレンチ2、東西をトレンチ3として調査した。

上段のトレンチ1は、長さ14m、幅2mの規模で設定し、人力で掘削した。水田耕作土とともに黄褐色の床土層があり、水田層下には暗褐色土層が検出された。一部にサブトレンチを設定して土層観察を行ったが、暗褐色土層は薄く、すぐに地表面が確認された。遺構は、暗褐色土上で溝跡とPitが確認されたが、全体に遺構密度は薄く、水田造成時に削平を受けたと考えられた。

下段のトレンチ2は、長さ9.6m、幅2m、トレンチ3は、長さ30m、幅2mで調査した。基本層序はトレンチ1と変化はなかったが、水田床土下層には僅かに焼土や炭化物を含む暗褐色土が確認された。暗褐色土からは出土遺物もあり、中世の包含層と考えられた。遺構確認は、この暗褐色土を掘り下げながら行い、溝跡やPit群を確認した。限られた期間内に暗褐色土上での確認であったため、遺構確認自体が不完全であったことは否めないものの、その中で形状が明確な遺構だけを記録したが、密度は比較的高いと考えられた。

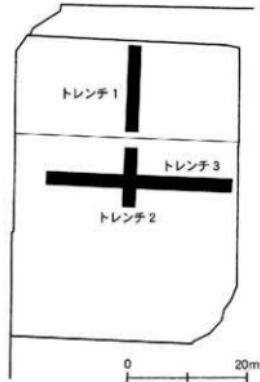


図1 調査区配置図

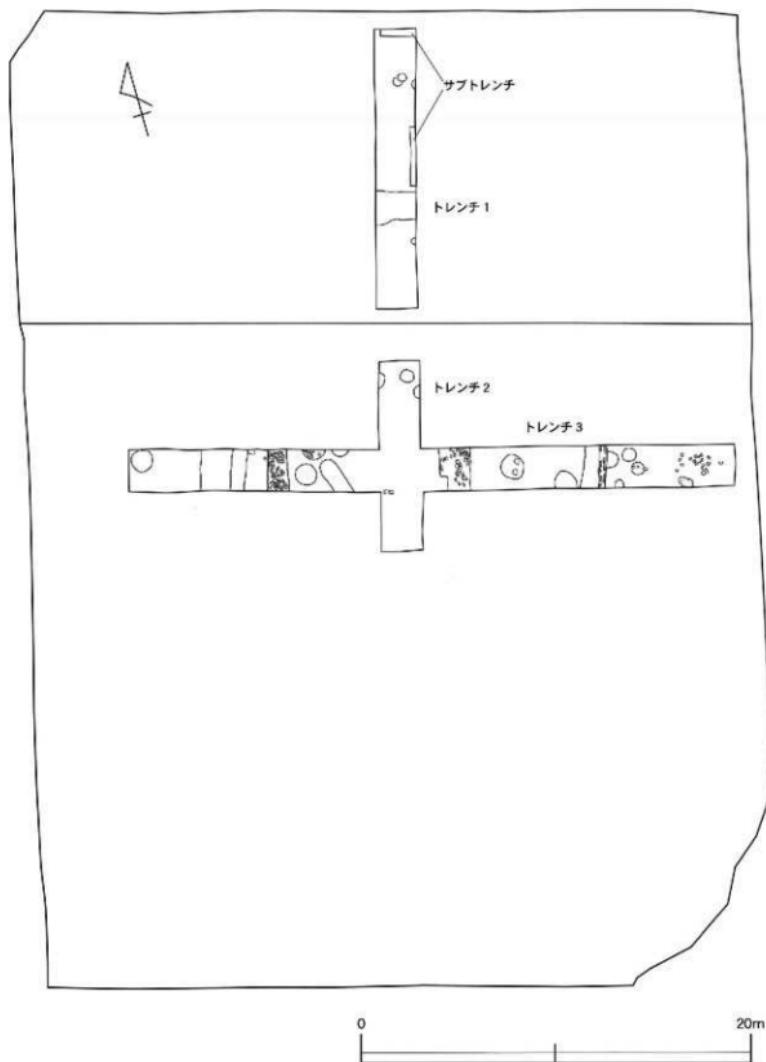


図2 調査区平面図

今回の調査目的は、保存を前提とした遺構確認であったため、遺構の掘削はせず、あくまで平面確認に止めたため、個々の遺構の性格は判断することができなかった。下段でPitとしたものの中には、土坑規模のものも確認されたが、きれいな円形の平面形であったことや配列に規則性がある可能性があったことから、建物の柱穴である可能性が高いとみられた。

ま と め

下段を中心に中世段階の遺構・遺物が存在し、上段では5の鎧・兜の部品とみられる金具も出土していることから、武士の屋敷である可能性も考えられた。この調査成果を受けて、C地区ではあるが、B地区とした帶状の整備予定地からの連続性も考慮し、遺跡の保護・保存のために公有地化する必要性があると判断した。

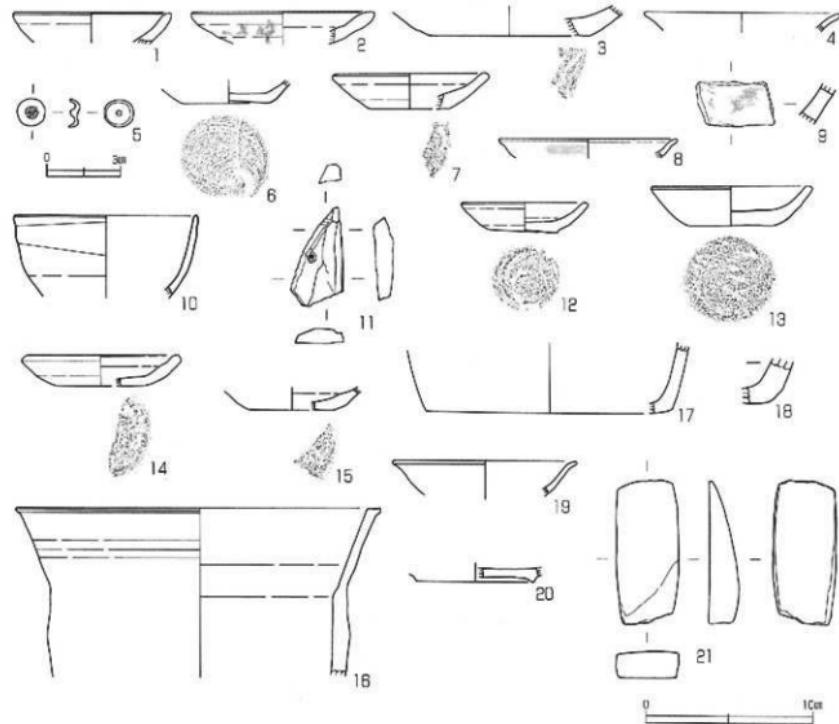


図3 出土遺物

平成20年度 調査報告

平成20年度試掘調査一覧

報告番号	遺跡名	場所	事業者	起因	遺構	遺物
20・1		朝氣2丁目706-1他	個人	住宅兼店舗	×	○
20・2		朝氣2丁目642-7他	個人	個人住宅	×	×
20・3	朝氣遺跡	朝氣3丁目280-4	個人	個人住宅	×	×
20・4		朝氣3丁目280-1	個人	個人住宅	×	×
20・5		朝氣2丁目699-1の一部他	法人	集合住宅	○	○
20・6	宇前B遺跡	栗吉4丁目1207-1	法人	宅地造成	×	○
20・7	栗田遺跡	千塚5丁目3457-5	個人	個人住宅	×	×
20・8		和戸町861-2	法人	その他建物	×	×
20・9	大坪遺跡	横根町287-6他	個人	個人住宅	×	○
20・10	神田遺跡	千塚3丁目1740-2	個人	個人住宅	×	○
20・11	甲連小学校遺跡	川田町125-1他	市町村	学校建設	×	○
20・12		城東2丁目82他	法人	その他建物	○	○
20・13		朝日1丁目116-2	個人	個人住宅	○	×
20・14		中央5丁目511の一部他	法人	個人住宅	×	×
20・15		北口2丁目17他	法人	学校建設	○	○
20・16	甲府城下町遺跡	丸の内2丁目382	法人	店舗	×	×
20・17		丸の内1丁目2-1他	市町村	土地面積測定	○	○
20・18		愛宕町97-1	個人	個人住宅	×	×
20・19		丸の内2丁目90-1	個人	個人住宅	○	○
20・20		朝日2丁目258	個人	個人住宅	×	×
20・21		北口1丁目6-4	個人	個人住宅	×	×
20・22		塙部1丁目360-2	個人	個人住宅	×	○
20・23	塙部遺跡	塙部3丁目1487-5	個人	個人住宅	×	○
20・24		塙部1丁目375-1他	個人	集合住宅	×	×
20・25	外河原デクヤ遺跡	佐吉本町1107他	法人	その他開発	×	×
20・26		武田3丁目461	個人	個人住宅	○	○
20・27		古府中町894-1他	個人	集合住宅	○	○
20・28		下積翠寺町3940-1	個人	その他開発	×	×
20・29		屋形1丁目2083他	個人	宅地造成	×	○
20・30		大手1丁目4431-1他	個人	集合住宅	×	×
20・31		武州3丁目261	個人	個人住宅	○	○
20・32		大手2丁目4207他	個人	集合住宅	○	×
20・33		屋形1丁目2073-1の一部他	個人	個人住宅	×	×
20・34		武州3丁目375	個人	個人住宅	×	○
20・35		吉前町244	法人	宅地造成	×	○
20・36	家腰遺跡	国玉町907-1	法人	その他開発	×	×
20・37	城本遺跡	千家1丁目47-1	法人	その他建物	×	○
20・38	藤塚古墳	上阿原町733-10他	個人	個人住宅	○	○
20・39		上阿原町732-1他	個人	個人住宅	○	○
20・40	前田遺跡	池州1丁目1553-5他	法人	その他建物	×	×
20・41		緑が丘2丁目1152-5	個人	個人住宅	×	×
20・42	緑ヶ丘一丁目遺跡	緑が丘2丁目1152-6	個人	個人住宅	×	○
20・43		緑が丘2丁目138-8	個人	個人住宅	×	○
20・44	緑ヶ丘二丁目遺跡	緑が丘2丁目1107-5他	個人	個人住宅	×	×
20・45	宮の前遺跡	道光2丁目2191-7他	個人	個人住宅	×	×
20・46	村内遺跡	横根町830-2他	個人	集合住宅	×	○
本報告済	武田城下町遺跡	大手1丁目4314	法人	集合住宅	○	○

平成20年度立会・慎重工事一覧

報告番号	遺跡名	場所	事業者	起因	遺構	遺物
20・47	武田城下町遺跡・峰木南B遺跡	坂形3丁目2499-1他	個人	農業基盤整備	○	○
20・48	向山遺跡	中畠町792付近他	市町村	水道	○	○
立会	朝氣遺跡	朝氣1丁目42-1	法人	その他建物	×	×
立会		栗吉4丁目1227-7	個人	個人住宅	×	×
立会	宇前B遺跡	栗吉4丁目1227-1他	法人	宅地造成	×	×
立会		栗吉4丁目1228他	個人	個人住宅	×	×
立会		栗吉4丁目1227-7	個人	個人住宅	×	×

立会	宇前B遺跡	黒崎4丁目1227 - 8	個人	個人住宅	×	×
立会	黒崎4丁目1227 - 1の一部	個人	個人住宅	×	×	
立会	伊勢町遺跡	太田町181他	市町村	水道	×	×
立会	千原5丁目2918 - 17	個人	その他建物	×	×	
立会	千原5丁目3017	個人	個人住宅	×	×	
立会	大坪遺跡	桜井町591 - 3	個人	個人住宅	×	×
立会	上曾根町2214 - 1他	個人	農業基盤整備	×	×	
立会	上石川3丁目1301	個人	住宅兼店舗	×	×	
立会	北12丁目170 - 7	市町村	その他開発	×	×	
立会	北口2丁目170 - 7	市町村	その他開発	×	×	
立会	北口2丁目170 - 1他	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	丸の内1丁目12 - 12	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	丸の内1丁目地内	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	北口2丁目171他	市町村	その他開発	×	×	
立会	丸の内1丁目4 - 7	法人	ガス	×	×	
立会	元細川町70 - 3	法人	その他開発	×	×	
立会	朝日2丁目282 - 2	個人	個人住宅	×	×	
立会	丸の内1丁目・北口2丁目地内	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	中央3丁目293 - 1	法人	住宅兼店舗	×	×	
立会	丸の内2丁目182	個人	個人住宅	×	×	
立会	丸の内1丁目地内	法人	電気	×	×	
立会	丸の内3丁目277	個人	その他建物	×	×	
立会	北口2丁目地内	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	朝日2丁目381他	個人	個人住宅	×	×	
立会	中央4丁目186	個人	個人住宅	×	×	
立会	愛宕町117 - 4	個人	個人住宅	×	×	
立会	丸の内3丁目4 - 13他	市町村	道路	×	×	
立会	中央5丁目295他	個人	個人住宅	×	×	
立会	相生2丁目82 - 2	個人	個人住宅	×	×	
立会	中央5丁目240の一部	個人	住宅兼店舗	×	×	
立会	北口1丁目15	法人	その他建物	×	×	
立会	丸の内1丁目271他	市町村	水道	×	×	
立会	北口2丁目12 - 1他	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	丸の内2丁目83他	個人	店舗	×	×	
立会	相生2丁目147 - 2他	個人	個人住宅	×	×	
立会	北口2丁目170 - 1	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	武田1丁目126の一部	法人	その他建物	×	×	
立会	丸の内3丁目844	個人	個人住宅	×	×	
立会	中央2丁目 - 22～愛宕宗53	市町村	水道	×	×	
立会	中央3丁目22他	個人	個人住宅	×	×	
立会	丸の内3丁目315 - 1他	法人	その他建物	×	×	
立会	北13丁目97	個人	個人住宅	×	×	
立会	丸の内2丁目5～6	市町村	水道	×	×	
立会	朝日1丁目55 - 13	個人	その他建物	×	×	
立会	室1丁目134 - 135	個人	集合住宅	×	×	
立会	城東2丁目221他	個人	個人住宅	×	×	
立会	丸の内1丁目452他	法人	その他開発	×	×	
立会	武田1丁目143 - 1	法人	集合住宅	×	×	
立会	武田1丁目176 - 2	法人	集合住宅	×	×	
立会	武田1丁目32 - 1	個人	集合住宅	×	×	
立会	朝日2 - 6 - 6 - 19 - 16の道路	市町村	水道	×	×	
立会	中央3 - 12 - 25～城東1 - 15	市町村	水道	×	×	
立会	北口2丁目地内	市町村	土地区画整理	×	×	
立会	北口2丁目1～10	法人	ガス	×	×	
立会	武田1丁目90	個人	個人住宅	×	×	
立会	和戸町1230の一部	法人	その他建物	×	×	
立会	塙部3丁目1452 - 14	個人	個人住宅	×	×	
立会	塙部3丁目567 - 1	個人	個人住宅	×	×	
立会	大北禁地遺跡	大里町1393 - 7	個人	個人住宅	×	×

立会	武田氏館跡・大手下・武田城下町遺跡	大手3丁目・古府中町地内	市町村	水道	×	×
立会		大手3丁目3685 - 3	市町村	水道	×	×
立会		大手1丁目4431 - 1他	個人	集合住宅	×	×
立会		屋形2丁目2422 - 2他	個人	個人住宅	×	×
立会		下池裏寺町878 - 926	市町村	道路	×	×
立会		古府中町6005 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会		武田3丁目154 - 3他	個人	個人住宅	×	×
立会		武田3丁目274 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会		屋形1丁目1960 - 1他	個人	集合住宅	×	×
立会		武田3丁目422 - 11	個人	個人住宅	×	×
立会		火神町337	法人	その他建物	×	×
立会		古府中町894 - 1の一部他	個人	集合住宅	×	×
立会		西町105 - 6	個人	個人住宅	×	×
立会		古府中町6014 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会		古府中町6007 - 8	個人	個人住宅	×	×
立会		古府中町6022 - 11	個人	個人住宅	×	×
立会		武田3丁目140 - 2	個人	個人住宅	×	×
立会		屋形2丁目2317 - 1	個人	個人住宅	×	×
立会		古府中町6009 - 17	個人	個人住宅	×	×
立会		宮前町105 - 1	個人	個人住宅	×	×
立会		元綿船町76、75 - 3	個人	個人住宅	×	×
立会		西田町105 - 1他	個人	個人住宅	×	×
立会		天神町70	個人	個人住宅	×	×
立会		大手3丁目3668 - 8	個人	個人住宅	×	×
立会		古府中町6007 - 7	個人	個人住宅	×	×
立会		古府中町6013-3	個人	個人住宅	×	×
立会		武田2丁目161 - 4他	個人	個人住宅	×	×
立会		屋形2丁目2387 - 1他	個人	個人住宅	×	×
立会	塚腰遺跡	国玉町643 - 2付近	市町村	水道	×	×
立会	中坪遺跡	里吉2丁目284 - 6	個人	個人住宅	×	×
立会	西耕地C遺跡	大星町4460 - 6	個人	個人住宅	×	×
立会	本郷遺跡	善光寺3丁目2445 - 142	個人	個人住宅	×	×
立会		緑が丘1丁目74 - 4	個人	個人住宅	×	×
立会	緑ヶ丘一丁目遺跡	緑が丘1丁目119の一部	個人	個人住宅	×	×
立会		緑が丘1丁目119の一部他	個人	個人住宅	×	×
立会		緑が丘2丁目1107 - 7	個人	個人住宅	×	×
立会	緑ヶ丘二丁目遺跡	緑が丘2丁目1107 - 2他	個人	宅地造成	×	×
立会		緑が丘2丁目1098 - 3の一部	個人	住宅兼店舗	×	×
慎重工事	朝氣遺跡	朝氣3丁目706 - 1 - 707	法人	店舗	-	-
慎重工事		朝氣3丁目156 - 1の一部	個人	その他建物	-	-
慎重工事	字前B遺跡	里吉4丁目1227 - 5	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	岩清水遺跡・東山南遺跡	下曾根町889他	都道府県	公園造成	-	-
慎重工事	北原遺跡	東光寺町1513 - 4	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	甲斐城下町遺跡	丸の内1丁目454他	法人	その他施設	-	-
慎重工事		里吉3丁目831 - 7	個人	個人住宅	-	-
慎重工事		里吉3丁目831 - 5	個人	個人住宅	-	-
慎重工事		里吉3丁目831 - 6	個人	個人住宅	-	-
慎重工事		里吉3丁目831 - 14	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	新畠遺跡	桜井町991 - 1他	市町村	農業基盤整備	-	-
慎重工事		武田3丁目421	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	天神町241 - 4	個人	個人住宅	-	-	
慎重工事		東吉2丁目284 - 7	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	中坪遺跡	里吉2丁目284-5	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	平石遺跡	荒川2丁目1005 - 1	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	二又遺跡	住吉4丁目3077	個人	住宅兼店舗	-	-
慎重工事	前田遺跡	池田3丁目132 - 14	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	緑ヶ丘二丁目遺跡	緑が丘2丁目2143 - 2他	個人	個人住宅	-	-
慎重工事	横井遺跡	桜井町438 - 5	個人	個人住宅	-	-
慎重工事		桜井町438 - 4	個人	個人住宅	-	-

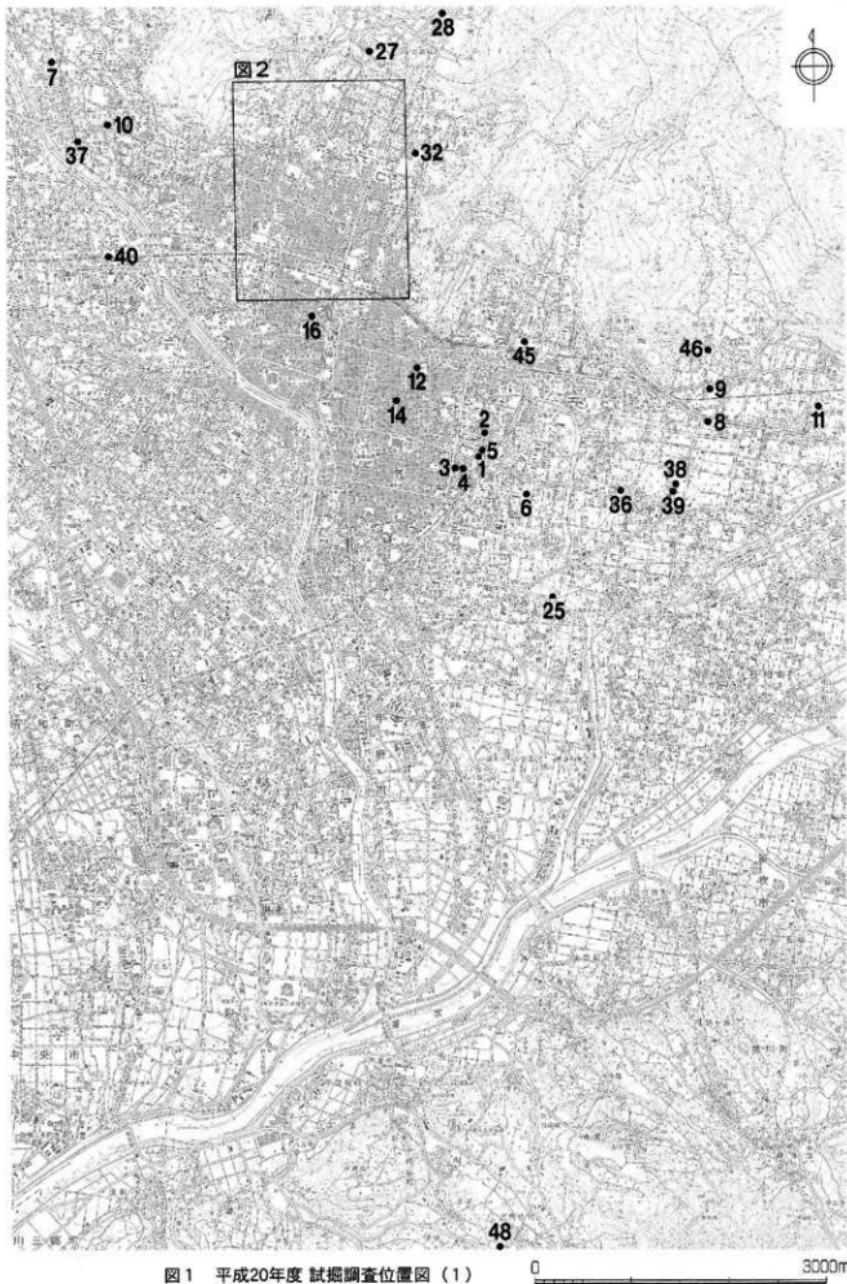


図1 平成20年度 試掘調査位置図（1）

0 3000m



図2 平成20年度 試掘調査位置図（2）

500m

20-1 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣二丁目706-1他
調査原因 店舗兼住宅建設
対象面積 964.09m²
調査面積 20.0m²
調査期間 平成20年4月18日～25日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は盆地中央部、濁川右岸の沖積地に立地する。古墳時代から平安時代までを中心とした集落跡であり、これまでにも校舎建設や市道建設工事などに先立つ調査により、土器ばかりでなく木製品や石製品・ガラス玉など多種多様な遺物が多く出土している。一帯は急速に開発が進み市街地化しており、調査地は標高約259mを測る宅地である。

調査の概要

対象地北側に2m×10mの試掘坑を設定し、地表下約1m、部分的に1.5mまで掘削し、遺構・遺物の有無及び土層堆積状況を確認した。地表下90cm、灰黒色土中から土器片が出土し、それ以下に旧水田床土(厚5cm)が確認できた。調査により、古墳～平安期の土器片が出土するとともに水田跡を検出した。湧水がはげしくそれ以上の調査は断念した。記録写真撮影後、調査を終了している。

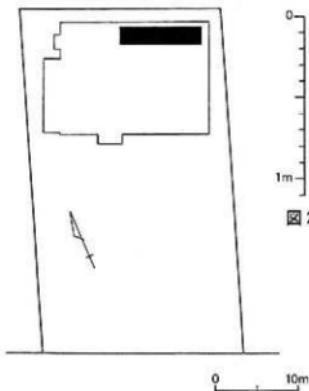


図1 調査区配置図

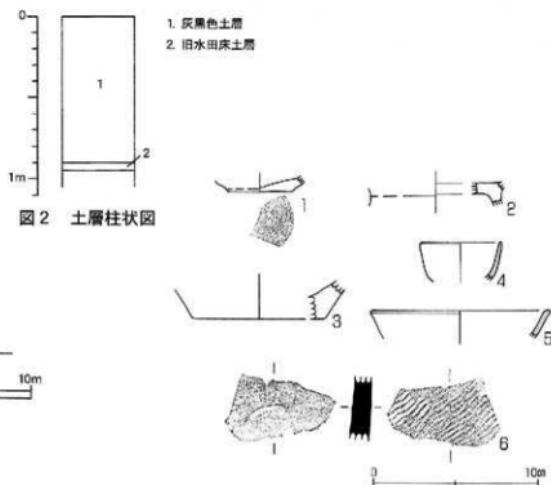


図3 出土遺物

20-2 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣二丁目642 - 7他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 407.42m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年6月12日～17日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は盆地中央部に位置し、瀬川右岸の沖積地に広がる。調査地点は標高約257mを測る宅地で、近年開発が進み急速に市街地化している。

調査の概要

対象地南側に2m四方の試掘坑を設定し、地表下約0.7m、部分的に1.0mまで掘削し、遺構・遺物の有無及び土層堆積状況を確認した。地表下0.9mまで解体ガラ・アスファルト片等を含む盛土が堆積し、それ以下に旧水田耕作土(厚10cm)が確認できた。調査により遺構・遺物も確認できず、記録写真撮影後、埋め戻し調査を終了している。

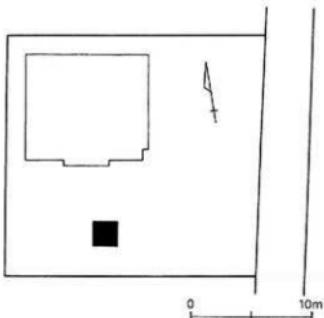


図1 調査区配置図

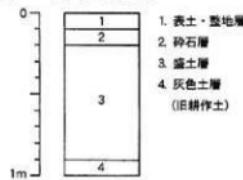


図2 土層柱状図

20-3 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目280-4
調査原因 個人住宅建設
対象面積 188.96m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年6月18日～23日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は盆地中央部、濁川右岸の沖積地に立地する。これまで各種開発に伴い調査が実施され古墳時代から平安時代にいたる遺構・遺物を多く検出している。調査地は標高約257mを測る宅地である。

調査の概要

対象地北側に2m四方の試掘坑を設定し、地表下約0.85m、部分的に1.30mまで掘削し、遺構・遺物の有無及び土層堆積状況を確認した。地表下0.85mまで盛土及び灰色砂層が堆積し、それ以下に粘質土(厚30cm)が確認できた。遺構・遺物も検出されず、記録写真撮影後、埋め戻し調査を終了した。

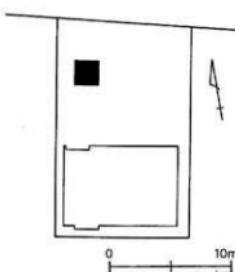


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

20-4 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目280-1

調査原因 個人住宅建設

対象面積 194.40m²

調査面積 4.0m²

調査期間 平成20年6月23日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は盆地中央部、濁川右岸の沖積地に立地する。これまでの調査により古墳時代から平安時代にいたる遺構・遺物を多く検出している。調査地は標高約257mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、地表下約1m、部分的に1.5mまで掘削した。地表下0.8mまで盛土、それ以下に粘性の強い灰色土及び黒色土が堆積していた。

調査により遺構・遺物も確認できず、記録写真撮影後、埋め戻し調査を終了している。

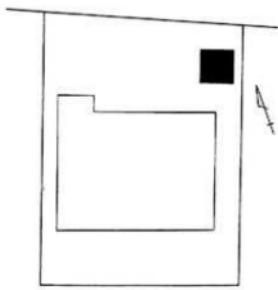


図1 調査区配置図

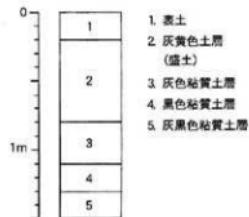


図2 土層柱状図

20-5 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣二丁目699-1の一部他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 240.00m²
調査面積 10.0m²
調査期間 平成20年7月3日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査地点は朝氣遺跡の中心と想定される東小学校のすぐ東に位置する地点の調査である。また南に隣接する地点を平成19年に試掘調査を実施し、現況の地盤から50cm低い地盤で堅穴住居が確認されている。そのことから今回の調査地点でも堅穴住居が検出されることが想定できた。

調査の結果

調査は東西方向に、2m×5mのトレンチを設定し行った。調査の結果、現地表から約45cmの深さにおいて水田の床土とみられる褐色のシルト質土が確認され、土師器片が出土し始める状況が確認できた。

トレンチ北側を約70cmの幅でサブトレンチを設定し掘り下げたところ、黒色～極暗褐色の土となり、地表から約70cmの深さで暗褐色の硬化面が確認でき土師器片がややまとまって出土する状況が確認できた。周辺の状況もあわせて判断するに堅穴住居だと判断した。

当初の設計では地盤の表層改良を現況の地盤から50cm下層まで実施する予定であったが、積水ハウスと施工主の協力により表層改良の設計深度を現況の地盤から30cmまでとなる見込である。そのため、遺構面との間層が40cm確保できることから、埋蔵文化財への影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

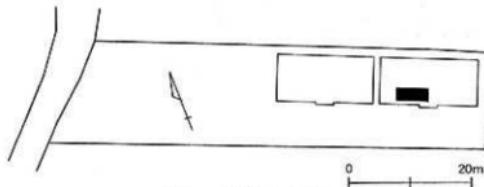


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

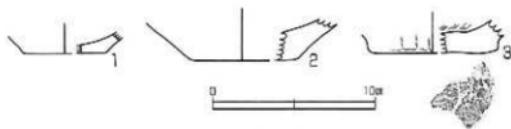


図3 出土遺物

20-6 字前B遺跡

調査位置 甲府市里吉四丁目1207-1

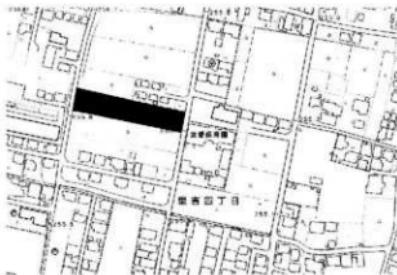
調査原因 宅地造成

対象面積 2,478m²

調査面積 35.0m²

調査期間 平成21年3月18日

調査担当 志村憲一



はじめに

当遺跡は盆地中央部標高256mの平坦地に位置し、周辺には字前A遺跡など古墳時代の遺跡が集中してみられる。調査区は遺跡範囲の中央部に位置し、過去同遺跡の南側で調査が行われたが、遺構・遺物ともに未検出である。

調査状況

調査対象地道路部分に8箇所、宅地部分に3箇所、合計11箇所のトレンチを設定し重機で1.1~1.3m掘削した。調査区中央部の3・10トレンチの2箇所から古墳時代と推定される土師器が2点出土した。また表面採取遺物として時期不明の土師器小片が1点確認されている。基本土層として1・8・10トレンチの3箇所の土層柱状図を示したが、遺物は第1層の表土内から検出され、遺物包含層及び遺構に関しては未確認である。

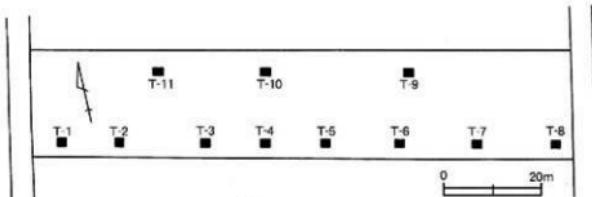


図1 調査区配置図

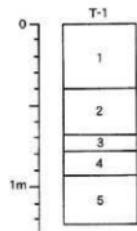
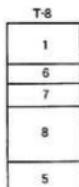


図2 土層柱状図



- | | |
|------------|-------------|
| 1. 黄褐色土層 | 6. 黄灰褐色粘質土層 |
| 2. 灰褐色土層 | 7. 灰黑褐色粘質土層 |
| 3. 黄灰褐色土層 | 8. 灰綠褐色粘質土層 |
| 4. 黑褐色粘質土層 | 9. 細色土層 |
| 5. 黄褐色粘質土層 | 10. 黑褐色土層 |

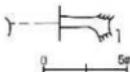


図3 出土遺物

20-7 榎田遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目3457-5

調査原因 個人住宅建設

対象面積 260.56m²

調査面積 20.0m²

調査期間 平成20年11月21日

調査担当 志村憲一



遺跡の概要

荒川左岸に位置する榎田遺跡には、弥生時代から平安時代にかけての集落跡が展開する。調査区は、遺跡包蔵地範囲の北辺に位置し、標高約306m地点を測り、周辺は宅地化が進んでいる。

調査の概要

建設予定の建物北側に東西4m、幅5mのトレンチを設定し、深さ約0.7mの地点まで重機で掘削を行った。3層の堆積層が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

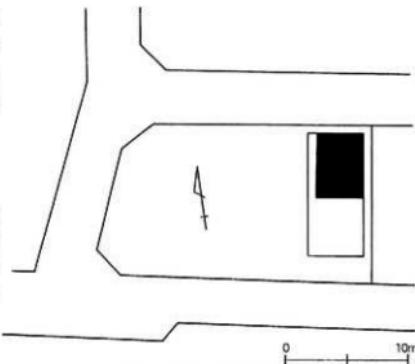
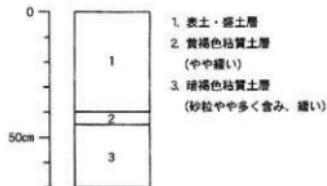


図1 調査区配置図



20-8 大坪遺跡

調査位置 甲府市和戸町字奈良原861-2

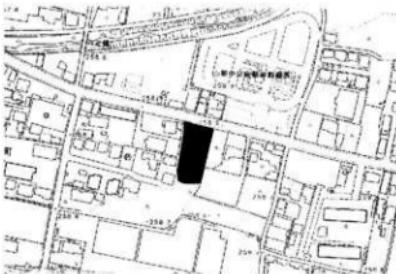
調査原因 その他建物建設

対象面積 1,634.83m²

調査面積 10.0m²

調査期間 平成20年5月21日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

当遺跡は盆地北部、市域の東方郊外に広がる。本遺跡は、これまで幾度となく調査が実施され、古墳～平安時代にいたる集落・土器生産遺跡として該期の拠点的集落の一つに数えられている。調査地点は、十郎川右岸の標高約260mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に2m×5mの試掘坑を設定し、地表下約1.6mまで掘削し遺構・遺物の有無及び土層堆積状況を確認している。地表下0.6mまで黄色砂礫土が盛土され、それ以下に灰色粘質土(厚70cm)、灰色砂層(厚30cm)が確認できた。調査により、遺構・遺物とも確認できず、記録写真撮影後、埋め戻し調査を終了している。

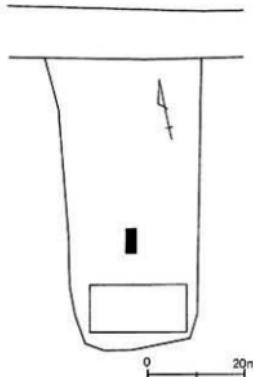


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

20-9 大坪遺跡

調査位置 甲府市横根町287-6他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 490.03m²
調査面積 2.3m²
調査期間 平成20年5月22日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

当遺跡は盆地北部、市域の東方に広がり、これまで幾度となく発掘調査が実施され、古墳～平安時代にいたる拠点的集落の一つに数えられている。調査地点は十郎川左岸の標高約260mを測る宅地で、遺跡範囲の北東隅に位置する。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、地表下約0.85mまで掘削し、遺構の有無・土層堆積状況などを確認した。地表下0.3mまで表土・整地層が、それ以下に灰褐色土(厚40cm)・黄色土層(厚15cm)が堆積していた。調査により、灰褐色土中より土器が数点確認できたのみで、遺構は確認できなかった。記録写真撮影後、埋め戻し調査を終了している。

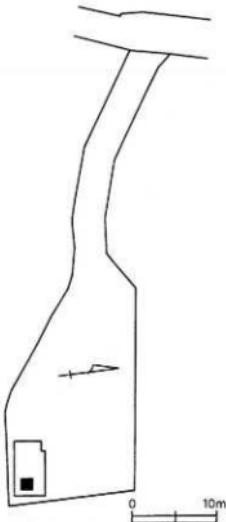


図1 調査区配置図

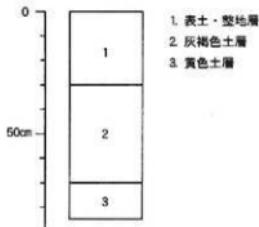


図2 土層柱状図

20-10 神田遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目1740-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 83.00m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年4月23日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地は神田遺跡として括られた範囲の中で東端に位置する。

調査の結果、地表から約50cmで既存建物解体の際にうけた擾乱（掘り込み）があった。擾乱を受けた部分を掘り下げたところ、地表から70cmで自然堆積層の疊混灰黄褐色砂層が確認できた。

試掘調査グリッドの壁面を調査した結果、部分的に遺物包含層の黒色土が確認できた。黒色土の中からは土器細片が出土したもののは時代は不明である。

設計上の基礎は、地表から40cmほどの掘削のため埋蔵文化財への影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

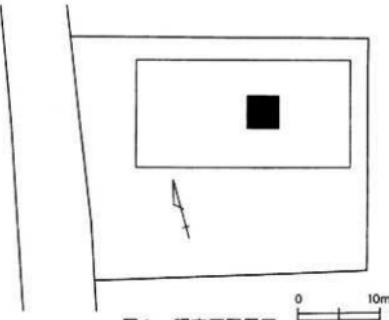


図1 調査区配置図

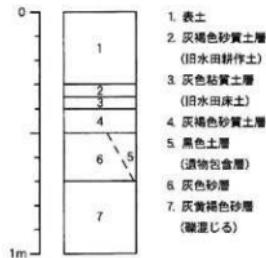
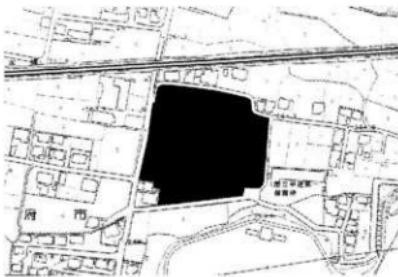


図2 土層柱状図

20-11 甲運小学校遺跡

調査位置 甲府市川田町125 - 1他
調査原因 学校建設
対象面積 432.11m²
調査面積 24.0m²
調査期間 平成20年8月4・19日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

今回の試掘調査は、甲運小学校の校舎改築に先立って実施した試掘確認調査である。

調査地点の南側には亀田遺跡が展開し、山梨学院川田運動場の造成に先立って実施した調査では、古墳時代、平安時代を核としながら中世まで住居跡、溝跡、土坑墓などが展開し、長期間にわたって集落が営まれた状況が確認できた。

今回は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないものの、前述した密度の濃い遺跡に隣接することから試掘確認調査を実施した。

調査の結果

地表から16cmまでが表土、20cmまでが黄褐色土、20~30cmが暗褐色粘土、30~50cmが暗灰褐色粘土、50~65cmが暗灰褐色粘土であった。

隣接地では遺構確認面として捉えられた地層を検出したものの、土器等はほとんど出土しなかった。

周辺の立地から考察すると、微高地から微凹地に変化する地点となることが想定でき、集落が展開しなかった地域だと思われる。

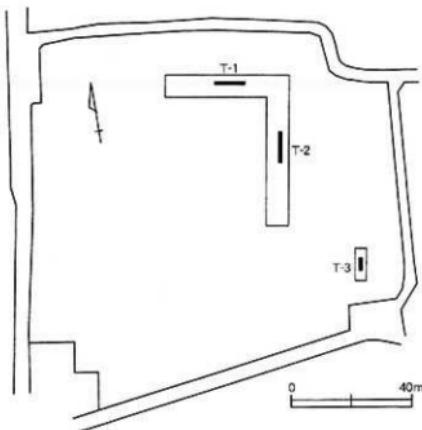


図1 調査区配置図

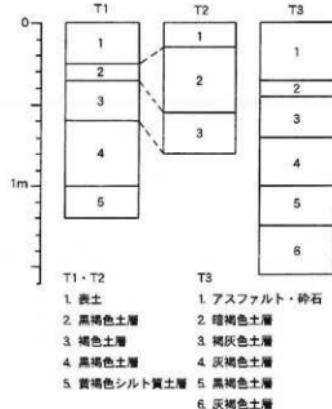


図2 土層柱状図

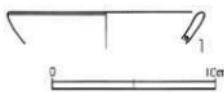


図3 出土遺物

20-12 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市城東二丁目82他
調査原因 その他建物建設
対象面積 513.28m²
調査面積 31.0m²
調査期間 平成20年6月25日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は、甲府城三の堀内の旧工町地内に位置し、敷地東側は甲府城三の堀土塁が存在した場所である。既存建物解体に際して立会をした結果、遺跡が残されている可能性があることが明らかとなり、新築建物基礎で地盤改良が計画されていたため、試掘調査を実施することとした。

西側の道路に面して奥行きのある長方形の地割りであり、建物は敷地奥に建設予定であった。試掘調査は、建物の長軸に合わせて設定し、幅2.0m、長さ約15.5mを掘削した。重機により現地表下約0.4mで地山土を用いた整地層とみられる黄褐色土層を検出した。

整地表面を精査したところ、調査区中央から西側では全体的に炭化物、焼土を含む土層堆積が確認されたが、中央付近は、出土品から部分的に近代の焼土層と考えられた。溝跡と考えられる遺構や土坑、または井戸跡と思われる円形の遺構が確認され、覆土中から多数の遺物が出土した。遺構内からは一部近代に入る遺物も出土したことから、江戸後期から近代まで使用されたと考えられる。

整地層下の土層状況を確認するため、調査区西側を部分的に深く掘削し、確認作業を実施した。最下層には、水が溜まっていたような土層が堆積しており、木製品を含む木材片が多数出土した。規模や性格は不明であるが、水溜めや地下室、溝跡など大型の遺構の可能性もあり、底面の様子から判断して仮に溝跡として取り扱った。

まとめ

最終的に確実な遺構としては、溝跡3条、土坑1基を確認したが、深掘りした下層で出土した木製品の様子からみて、本調査地点の居住者は、旧工町内で木製品の加工に関わる職人と考えられた。

調査結果を受け、本調査の必要性が発生したが、道路から東へ向かって下る地形であることから、全体を西側の道路面に合わせて盛土することとし、地盤改良も施工しないことで遺跡の保護を図ることとした。

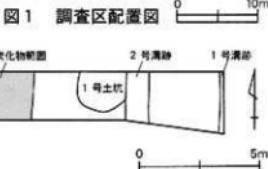
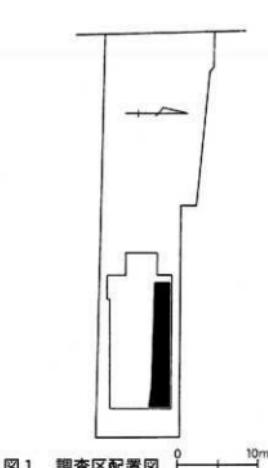
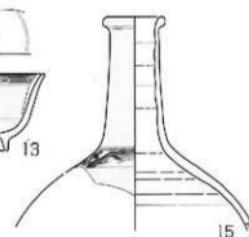
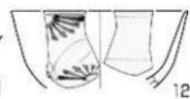
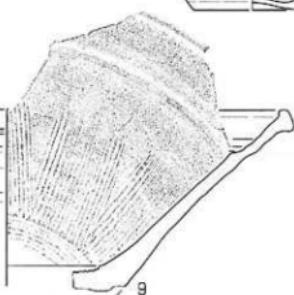
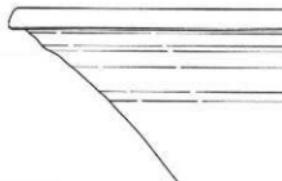
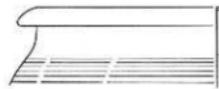
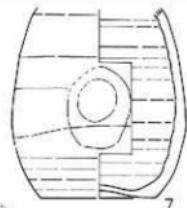
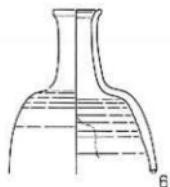
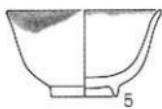
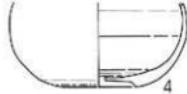


図2 調査区平面図

1号溝跡

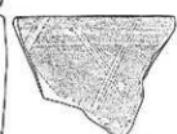
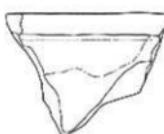


2号溝跡



14

15



19

0 10cm

図3 出土遺物 (1)

1号土坑

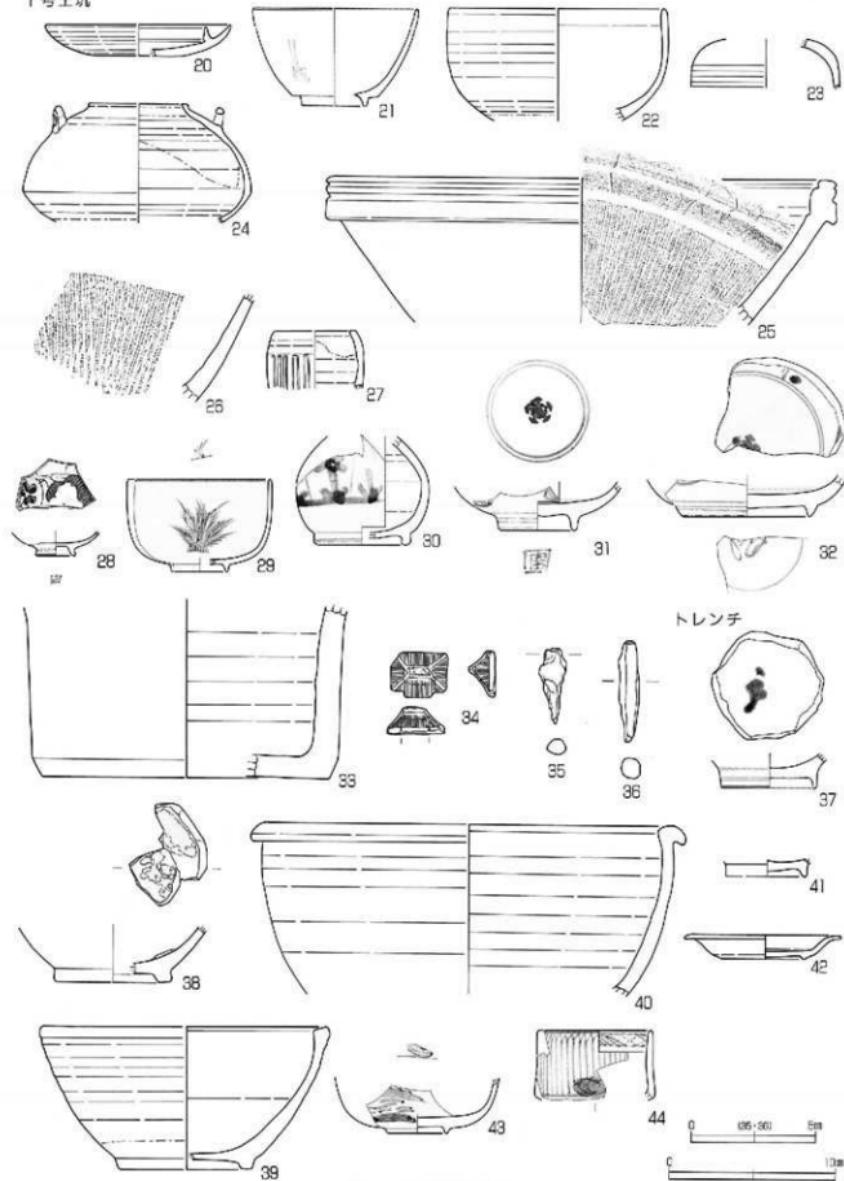


図4 出土遺物 (2)

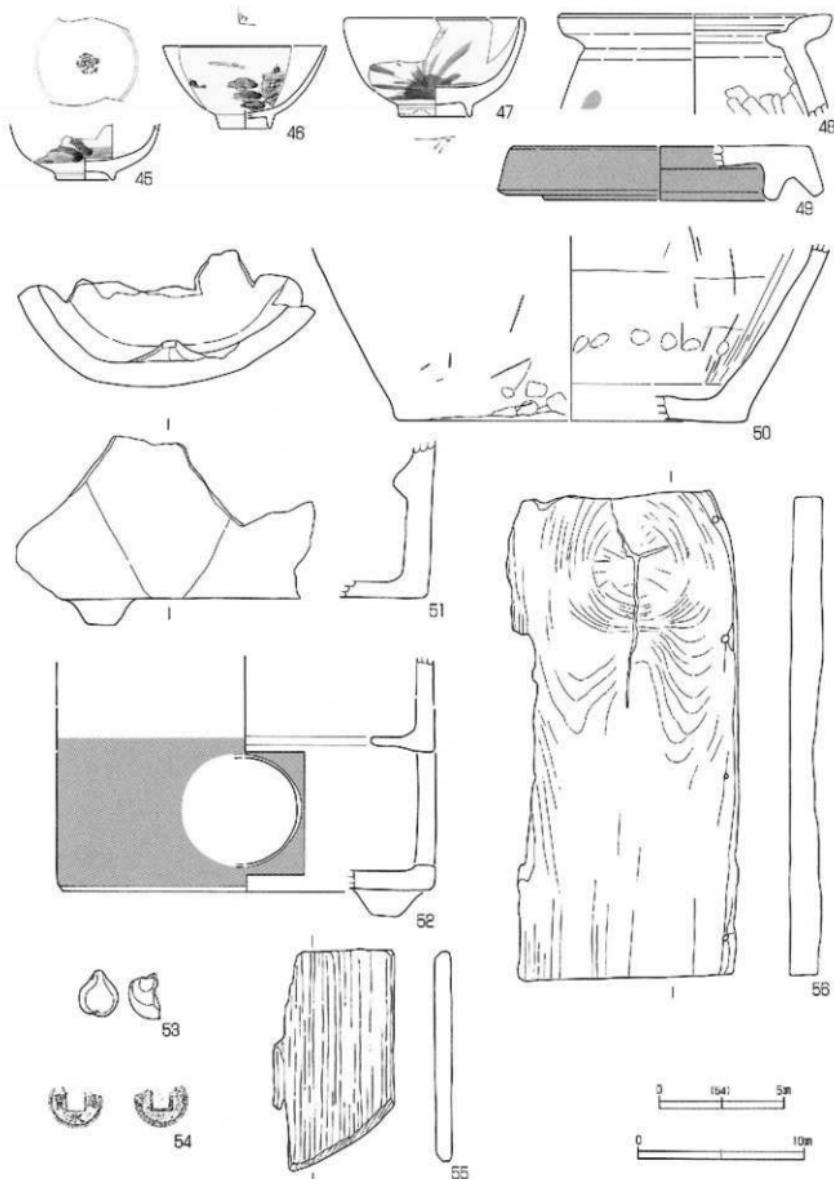


図5 出土遺物（3）

20-13 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市朝日一丁目116-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 208.42m²
調査面積 35.0m²
調査期間 平成20年7月2日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点敷地に北接する水路は、甲府城跡二の堀の痕跡であり、調査区内には二の堀土壠、あるいは二の堀そのものの直上に位置すると考えられた。そのため、予定されている個人住宅は、ベタ基礎工法であったが、調査対象区が甲府城の堀と土壠であることを考慮し、掘削時に試掘確認作業を行うこととした。

掘削は、建物外周部のみ現地表下約0.35mとやや深い掘削が行われ、基礎内側については0.2m程度の掘削であった。掘削面を確認すると、地表下約0.3mで黄褐色の地山面が検出されたため、土壠の痕跡などを示す土層は、削平されてすべて失われたと考えられた。

統いて北側の堀跡と接する部分は、全体的に約0.4m掘削することから、この部分を中心に掘削後簡単な確認作業を行った。確認した結果、敷地北側で暗褐色土が帯状に検出され、二の堀が敷地内に入り込んでいる様子が明確になった。概ね現況の水路から南へ約3mほど入り込んでいることが確認されたが、ベタ基礎工法であるため、それ以上の掘削ではなく、不用意な掘削によって地盤を損なうと判断し、上面での確認及び記録で調査を終了とした。

まとめ

これまで本地点周辺では二の堀跡の範囲を明確に捉えた地点はなかったため、堀の南限を確認したことは大きな成果であった。二の堀の規模を知る上で、今後、本地点の対岸での調査事例が待たれる。

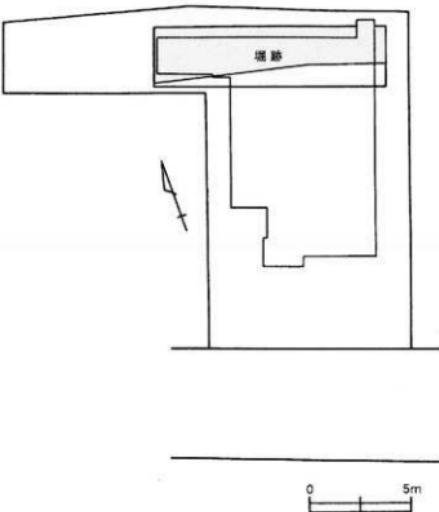


図1 調査区配置図

20-14 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市中央五丁目511の一部他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 142.11m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年7月3日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地は甲府城下町遺跡の範囲の中でも二の堀と三の堀に開繞された区画のなかでも三の堀に隣接した場所に位置する。

本来、この地域は遺跡のなかでも遺構や遺物の出土が少ないことから、基礎工事の際に立会調査を実施する地域にある。しかし、建築確認の折に発掘届が未提出だったため、発掘届を提出する様に促す文書を発行したにもかかわらず、設計事務所が発掘届を提出しないまま建築着工してしまった。基礎工事の際に埋蔵文化財の確認ができなかったため、試掘調査を実施した。

調査の結果

試掘調査は2m×2mの試掘グリッドを設定し、重機で掘削しおこなった。現況の地表面から約60cm下層で甲府空襲のものと思われる火災層が確認できた。それより下層は地表から140cmまで掘削したが搅乱を受け、さらに湧水し始め調査困難となったため、調査を終了した。

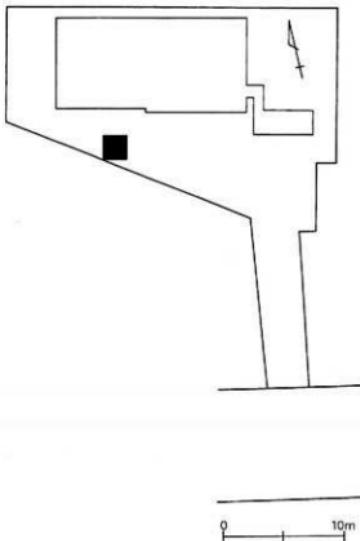
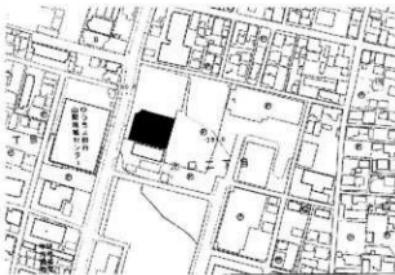


図1 調査区配置図

20-15 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目17他
調査原因 学校建設
対象面積 1,342m²
調査面積 44.0m²
調査期間 平成20年8月11日～8月18日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

甲府駅北口周辺の土地区画整理事業に伴い、対象地内に学校建設が計画されたため、試掘調査を実施することとなった。

本地点は、甲府城下町遺跡二の堀内の武家屋敷に位置し、江戸期の古絵図などによると、一帯の区画は現武田通りに面して概ね2区画の武家屋敷であったと考えられ、本地点周辺がその境界にあたると思われた。

掘削によって遺跡破壊が及ぶ範囲は建設予定の校舎部分が主体であり、そのうち西側は解体前に存在した鉄筋コンクリート建物基礎が大規模であったことから、実際には遺跡が残されているのは東側に絞られた。よって、試掘調査は敷地東側で南北方向にトレーンチで調査することとした。

調査区は、幅2.2m×長さ20mを設定したが、調査区北側では現地表下約0.35mで炭化物や焼土粒子を含む暗褐色土層を検出した。土中からは江戸期の土器や陶磁器などが出土したため、江戸期の包含層と判断し、さらに暗褐色土を掘り下げ、約0.4mで黄褐色土の地山層を検出した。地表面上では柱穴や溝状の造構が確認され、敷地境界の可能性がある南北方向の溝跡の一部を掘り下げたが、浅いU字断面の溝跡であることを確認した。

調査区中央から南側は、以前に木造の建物が存在していたこともあり、建物基礎など搅乱層が多く、北側で検出された暗褐色土層も削平されていた。地山面で造構を確認したが、北側で検出した溝跡は、調査区南端まで延びていることを確認した。

まとめ

造構は、溝跡1条、土坑1基、柱穴8基を確認し、出土遺物は、土器や陶磁器、古鏡、釘といった金属製品が確認された。時代は中世から近世まで幅広い時期の遺物がみられたが、中世の遺物が出土したことは、付近に中世城下町関連の造構が存在することを示唆する考えられた。

本地点では少なくとも敷地東側全体に遺跡が残存している可能性が高いことが判明したため、試掘調査結果から開発に先立ち、敷地東側全域の埋蔵文化財発掘調査が必要と判断した。

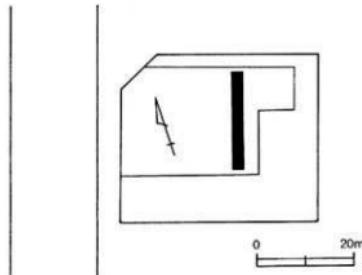
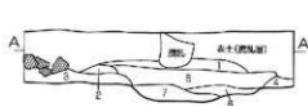
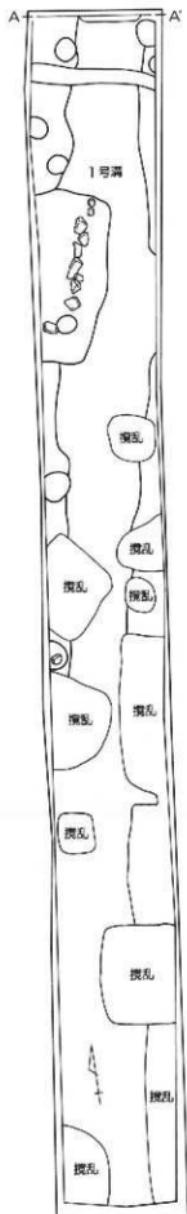


図1 調査区配置図



1. 暗褐色土 硬化成・粘土塊多量・粘性・しまりあり。
2. 棕褐色土 硬化成・粘土微量・砂粒少量・粘性・しまりあり。
3. 黑褐色土 硬化成・粘土微量・粘性・しまりやや強し。
4. 黄褐色土 黏土

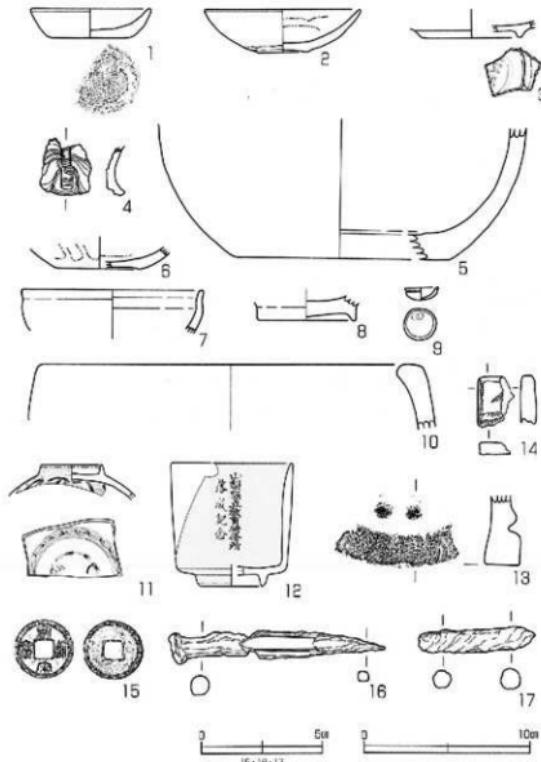


図3 出土遺物

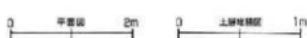


図2 平面・土層堆積図

20-16 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内二丁目382
調査原因 店舗建設
対象面積 165.9m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年9月3日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

甲府城下町遺跡の西側に位置し、甲府城二の堀外の百石町に位置する。19世紀中葉に成立した「懐宝甲府絵図」には「水野」の名前が見られる。また、周辺の調査では古墳時代の遺物が検出されている地点もある。

調査の概要

旧建物解体時に協力を得て、増築部分に約2m四方のグリッドを設定し、深さ約1.2m地点まで掘削を行い、5層の堆積層が確認された。遺構・遺物は確認されなかったが、地表下約0.85m地点の第4層（灰褐色砂質土層）内から微量の炭化物が確認されている。

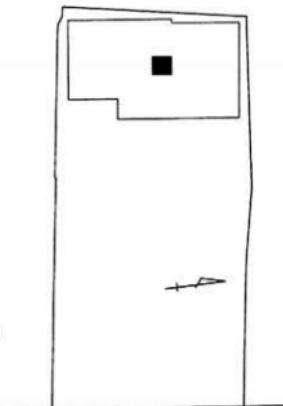


図1 調査区配置図 0 10m

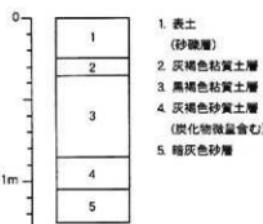


図2 土層柱状図

20-17 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内一丁目2-1他
調査原因 土地区画整理事業
対象面積 930.00m²
調査面積 150.0m²
調査期間 平成20年9月8・9日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

甲府駅周辺における区画整理のため、市有地を民地へと換地するに先立って試掘調査を実施した。調査地は甲府城下町遺跡の範囲の中でも二の堀に囲繞された区画のなかでも、新先手小路から裏先手小路にかけての区画に相当する。

周辺の調査状況としては、東側のマンション、およびさらにその東にある労働局、及びマンションと労働局にはさまれた道路がそれぞれ試掘調査の結果本調査が必要と判断され、本調査が実施されてきた。調査の結果、江戸時代から明治時代頃までの武家屋敷の跡や溝状の遺構が検出されている。

調査の結果

井戸跡や東西方向の大溝、大溝に直交する溝跡などが検出された。出土遺物としては、溝跡を中心に陶磁器や銭貨が出土している。

換地の造成計画として、現在の地盤から1m近く漉き取って換地する計画のため、そのままの計画では埋蔵文化財を破壊してしまうため、平成21年1月から3月かけて本発掘調査を実施している。

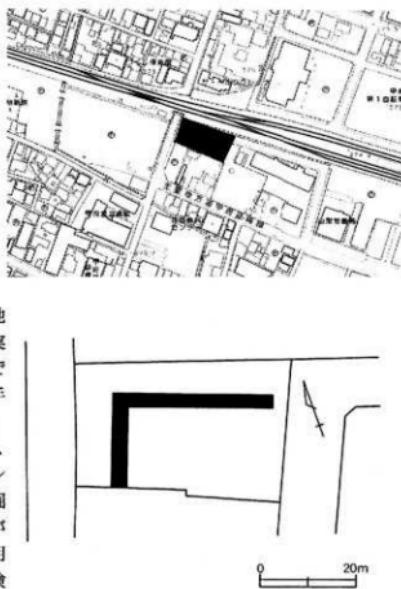


図1 調査区配置図

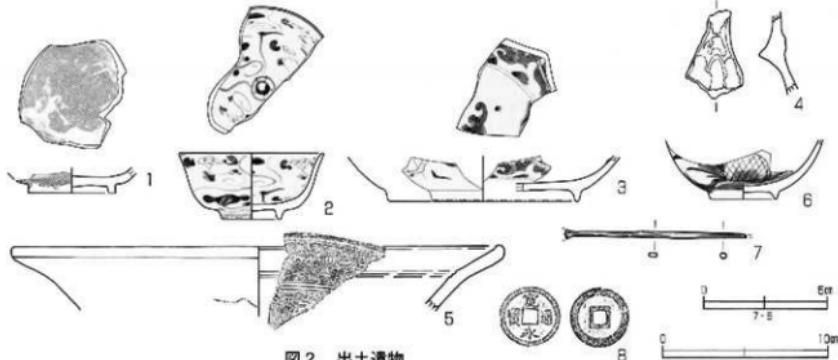


図2 出土遺物

20-18 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市愛宕町97-1

調査原因 個人住宅建設

対象面積 148.35m²

調査面積 4.0m²

調査期間 平成20年10月3日

調査担当 幸塚洋一

調査の概要

調査地は甲府城下町遺跡の範囲の中でも二の堀のさらに東側、愛宕山と藤川に挟まれた緩傾斜地に位置する。今回の調査地点から南に約120mの位置からは甲府城の石垣を築くために岩を切り出した痕跡が残っている。

調査地点は東から西へむかって傾斜しており、約70cmの比高差がある。設計上のGLは東側の高い地点でとてある。調査の設計GL-20cmの地点に約2m×2mの調査グリッドを設定し、重機で掘削をした後に人力で精査した。

調査の結果

当初地表から約40cm掘削したところで搅乱層が除去できたため、精査したが遺物の出土、遺構の確認ともになかった。さらに地表から80cm掘削したところ部分的に白色の粘土が混ざる粘土層となった。この面出においても精査したが遺物も遺構も出土していない。ここで確認できた粘土層が自然堆積層であり、これ以上掘削しても人為的なものが出土する見込みがほとんどないため、調査を終了した。

調査の結果、この地点において埋蔵文化財はほとんどないと判断でき、工事による影響はほとんどないと判断した。

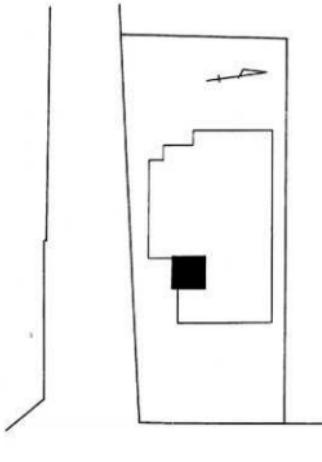


図1 調査区配置図

20-19 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内二丁目90-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 51.81m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年10月7日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地は甲府城下町遺跡の範囲の中でも二の堀の東側約20mの地点である。

調査地に2m×2mの試掘調査グリッドを設定し、重機で徐々に掘り下げ調査をおこなった。設計GLから約80cmの深さからはタールもしくはアスファルトと思われる黒色の砂が堆積し、旧国鉄時代に搅乱をうけたものと思われる。GLから130cm掘削したところで暗灰褐色の砂質土が出土し始め、中から染付碗や陶器皿片などが出土し始めた。GLから180cm(部分的には200cm)まで掘削したが、前述した暗灰褐色砂質土が堆積し、さらに深くまで堆積していることが想定された。予定される建築物の基礎がGLから80cm程度までしか及ばないこと、これ以上掘削することも困難であることから、これ以上掘削をせず調査を終了した。

今回の調査で確認した暗灰褐色砂質土は堀(もしくは大溝)の堆積土と考えられる。現在二の堀の名残が幅約3~4mで残るが、調査結果から今回の調査地点まで二の堀まで広がっていたことも考えられる。

調査の結果、予定される基礎の深さに対し、確認された埋蔵文化財まで30cm以上の深さがあることから、工事による埋蔵文化財への影響はほとんどないと判断した。

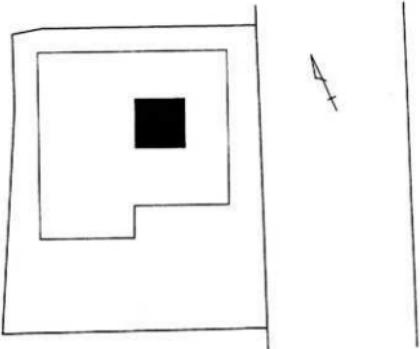


図1 調査区配置図

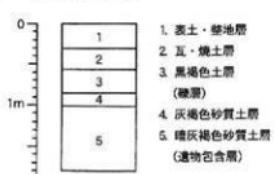


図2 土層柱状図

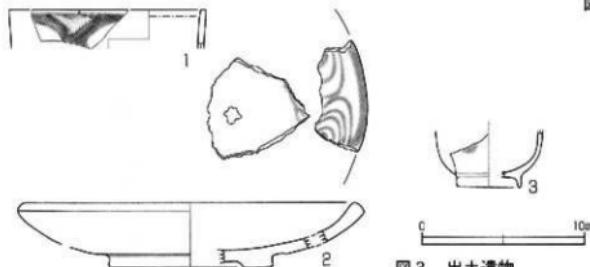


図3 出土遺物

20-20 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市朝日二丁目258
調査原因 個人住宅建設
対象面積 138.5m²
調査面積 4.8m²
調査期間 平成20年12月18日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

甲府城下町遺跡の北西側標高277m地点に位置する二の堀内の武家屋敷地である。19世紀中葉の「懐宝甲府絵図」には「イナバ」の苗字がみられるが、周辺は記名ないことから空き屋敷が多かったものと考えられる。また調査区西方には、16世紀武田時代の三日町の推定地や、古墳時代の塙部遺跡など、近世以前の遺跡が存在する。

調査の概要

建物位置に南北4m、幅1.2mのトレンチを設定し、深さ約1m地点まで掘削を行い、6層の堆積層が確認された。地表下0.25mの第3層は昭和20年の甲府空襲に伴う火災層である。その下層に位置する第4層（暗褐色粘質土層）及び第5層（褐色粘土層）は遺構・遺物は確認されなかったが、炭化物等の混入が微量確認され、近代以前の堆積層と考えられる。なお建物基礎は、地表下0.4mが基底部となるため、この層に影響は及ばない。

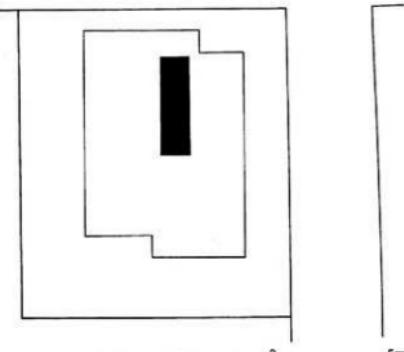


図1 調査区配置図 0 5m



図2 土層柱状図

20-21 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口一丁目6-4
調査原因 個人住宅建設
対象面積 761.24m²
調査面積 7.8m²
調査期間 平成21年3月23日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

城下町は、標高304m、比高30mの一条小山に築かれた甲府城を中心に形成され、東西1.7km、南北2.5kmの範囲に広がる。現在、JR中央本線により南北に分断される。

近世期以降の実相は、各種絵図などから土地区画及び屋敷拝領者なども断片的に判明でき、対象地は城下北方、先手小路に接した武家屋敷地に相当する。現在、市街地化し標高280mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に1.3m×6.0mの試掘坑を設定し、地表下約0.5mまで掘削し、遺構の有無・土層堆積状況などを確認した。地表下0.3mまで表土(整地層)が、それ以下に黄色土が堆積していた。表土以下は地山と判断し、遺構・遺物とも検出できず、遺跡の存在は確認できなかった。記録写真撮影後埋め戻し、調査を終了している。

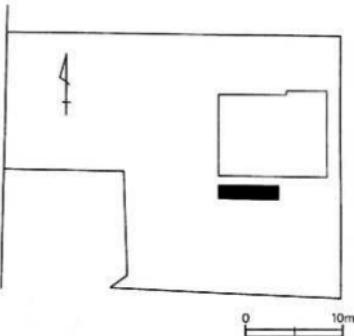
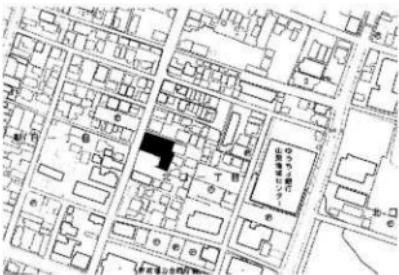


図1 調査区配置図

20-22 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部一丁目360-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 179.29m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年4月9日～11日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、盆地北部、相川扇状地の扇端部に広がる。当遺跡は、これまで幾度となく発掘調査が実施され、縄文時代中期から人々の生活の痕跡が確認されている。特に弥生時代後期～古墳時代にかけて墓域をともない大きな集落が形成され、当地での生活の営みは中世に至るまで続いている。調査地点は湯川と相川の合流点付近、標高約277mを測る宅地である。

調査の成果

対象地に2m四方の試掘坑を設定し、地表下約0.7mまで掘削した。地表下0.4mまで盛土され、それ以下に旧水田床土、褐色土が堆積する。調査により、盛土中から近代の磁器片が2点、褐色土中より近世陶器が1点出土した。遺構は確認できず、記録写真撮影後、調査を終了している。

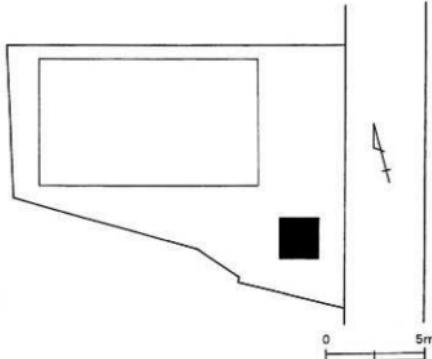


図1 調査区配置図

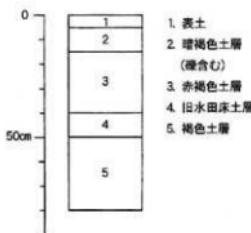


図2 土層柱状図



図3 出土遺物

20-23 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部三丁目1487-5
調査原因 個人住宅建設
対象面積 111.24m²
調査面積 10.0m²
調査期間 平成20年4月23日
調査担当 志村憲一

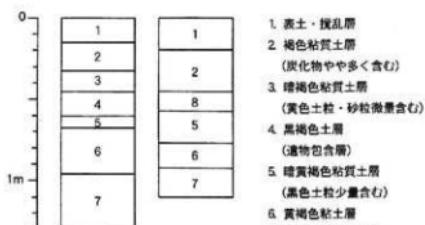
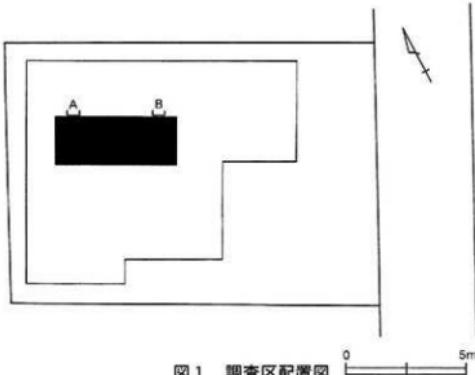


遺跡の概要

塩部遺跡の北西端標高280m地点に位置し、現状周辺は平坦な住宅地である。過去には調査区西側の県立甲府工業高校地点や県道愛宕町下条線の調査では、住居跡や方形周溝墓など古墳時代から平安時代にかけての遺構・遺物が多数確認されている。

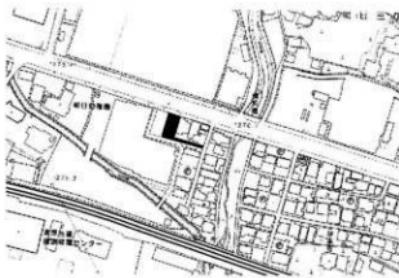
調査の概要

建物予定地中央に東西5m、幅2mのトレーナーを設定し、深さ約1.3mまで重機で掘削し、A・B 2地点で堆積土層の確認を行った。A地点の地表下45cmに位置する第4層（黒褐色土層）からは、時期不明の土器が1点のみ出土した。遺構に関しては、確認されていない。



20-24 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部一丁目375-1他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 642.11m²
調査面積 12.0m²
調査期間 平成20年9月25日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

塩部遺跡範囲の東側、相川と湯川の合流地点に近い標高275m地点に位置し、現状周辺は平坦な住宅地である。周辺では開発に伴い多くの調査が実施され、該当地西側に隣接する店舗部分では、時期不明の溝と土器片が数点確認された。また、県立甲府工業高校校舎からは、平安期の集落跡が確認され、さらに県立甲府工業高校西側の県道部分からは、方形周溝墓等の遺構が集中して検出された。

調査の概要

旧建物撤去後建物予定地2箇所に東西3m、幅2mのトレンチを設定し、深さ約1.8mまで重機で掘削し、堆積層の状況と遺構・遺物の有無を確認した。両トレンチともほぼ同一の堆積層であるが、Aトレンチでは5層、Bトレンチでは4層が確認された。第2層の灰褐色粘質土層は旧水田層であるが、他の層からは遺構・遺物とともに確認されなかった。

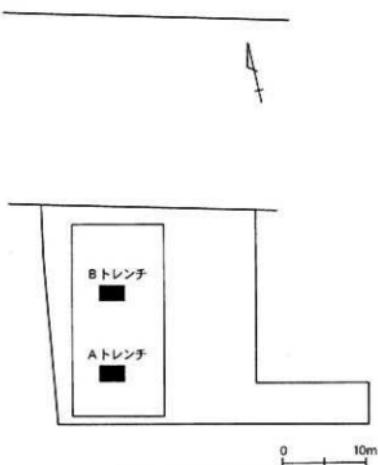


図1 調査区配置図

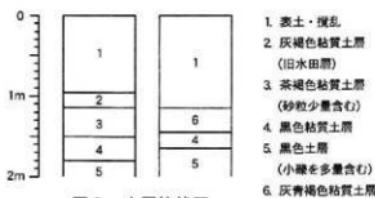


図2 土層柱状図

20-25 外河原デクヤ遺跡

調査位置 甲府市住吉本町字毛賀地1107他
 増坪町字デクヤ424-6他
調査原因 その他開発
対象面積 6,210.38m²
調査面積 188.0m²
調査期間 平成20年9月1日
調査担当 志村憲一

はじめに

外河原デクヤ遺跡は、甲府盆地中央部標高約254mに位置する古墳時代から平安時代にかけての散布地である。調査対象区の東側半分が遺跡範囲の西辺にあたる。調査区北東側では平成4年度に試掘調査が行われ、縄文・古墳・古代の遺物が確認されている。また濁川左岸では平成13年度に一般廃棄物最終処分場建設工事に伴う本調査が行われ、地表下1.7m地点から平安時代、地表下2mからは古墳時代の遺構・遺物が確認されている。

調査状況

調査対象地内の建物が建設される部分10か所にトレンチを設定し、重機で1.5~2.5m掘削後、人力で遺構・遺物の確認を行った。調査区西側のT-1・2は地表下1.7mで湧水が多く部分的に砂層が確認された。T-3~5部分は2.2~2.5m掘削を行うが、地表下1.5mまで搅乱を受け遺構・遺物とともに未確認である。T-6~10では地表下1.2~1.5m下層はコンクリート片等の廃棄物が検出され、搅乱を受けていた。

調査所見

今回の調査区は、ほぼ全域が1.5mほどの盛土が行われている。最深2.5mまで掘削を行ったが、遺構・遺物ともに確認されてはいない。住宅展示場の建物及び擁壁は深さ1mまでしか及ばないため、今回最深2.5m以下に遺構・遺物が存在したとしても影響はないものと考えられる。

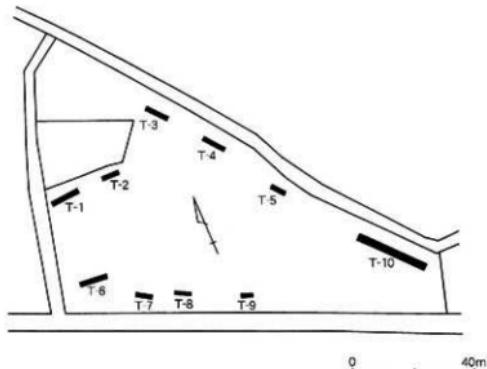


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

20-26 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目461
調査原因 個人住宅建設
対象面積 284.11m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年4月22日～24日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。武田氏居館を中心に南北五条の基幹街路が配され、城下は現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は遺跡範囲の中央、館跡から約1.2km南下した、標高約300mを測る宅地である。

調査の概要

対象地南隅に2m四方の試掘坑を設定し掘削した。地表下50cmまで整地・擾乱され、それ以下は地山(黄褐色土)となる。幅36～60cm、深さ20cmの溝を1条確認した。覆土中より磁器・土器片が出土している。記録写真撮影後、埋め戻し、調査を終了している。

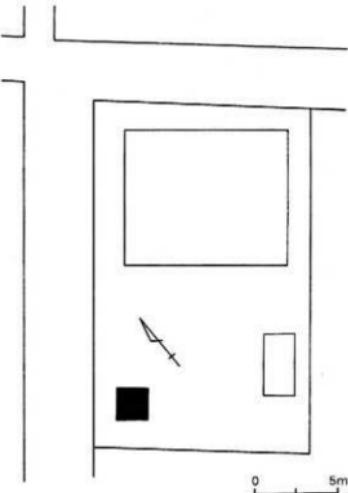


図1 調査区配置図

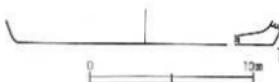


図2 出土遺物

20-27 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町894-1他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 994.12m²
調査面積 158.0m²
調査期間 平成20年4月22~25日
調査担当 志村憲一

はじめに

調査区は相川扇状地標高342m地点、武田氏館跡の西側約400mの16世紀からの通りである「御厩小路」沿いに位置する。甲府略志の絵図によると、「跡部大炊介」屋敷跡の伝承地である。北から南へかけ傾斜しているため、段差30~40cmの畦により区画された水田である。周辺の発掘調査では、調査区東側の相川小学校校庭部分、武田神社参拝者用駐車場等において、16世紀代の遺構・遺物が確認されている。

調査状況

調査対象地内において6か所にトレンチを設定し、重機で掘削後、人力で遺構・遺物の確認を行った。調査区西側のT-1・2は建物予定部分であり、現地表面から地山層まで0.3~0.4mである。敷地東側のT-3~6は駐車場部分であり、現地表下0.4~0.7mで地山層となる。遺構・遺物はT-4・5の2つのトレンチにおいて集中して確認された。調査は各トレンチの土層堆積状況の確認を行い、平面図・セクション図の作成を行った。

調査結果

T-1 南北20m×幅2m×深さ0.3~0.4m、部分的に東側に2m拡張し64m²掘削した。トレンチ中央部においてピット（径30~55cm）が3基と溝跡（幅55cm×長さ1.2m）1条が確認された。

ピット内からは遺物の出土はみられず、溝内からは炭化物と焼土が多く検出されたが、時期を特定しうる遺物は未確認である。

T-2 南北12m×幅2m×深さ約0.3mである。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T-3 南北9.5m×幅2m×深さ約0.4mである。遺構・遺物ともに確認されなかった。

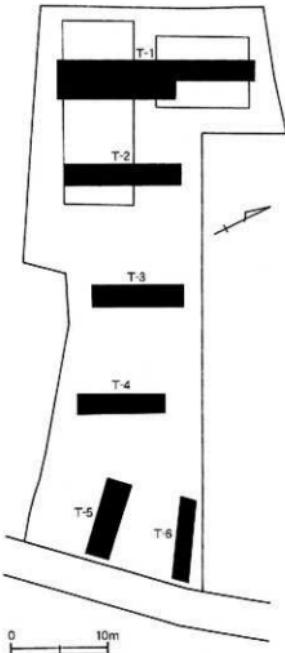
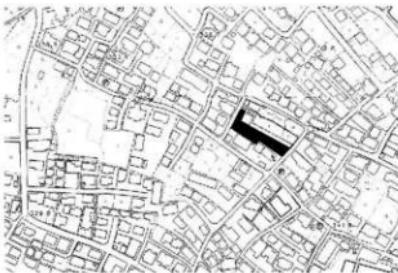


図1 調査区配置図

- T-4 南北9m×幅2m×深さ北側で0.4m、南側で0.7mである。遺構はピット（径20~55cm）が13基と扁平状の自然石（径30cm）が2基確認された。地表下0.3mに位置する暗黒褐色粘質土層内には、炭化物がやや多く見られ、かわらけ・青磁等16世紀代の遺物が出土した。
- T-5 東西8m×幅2.5m×深さ0.4~0.6m掘削である。トレーンチ中央部において、幅2m×深さ0.25mの南北方向の溝跡が1条確認された。溝内には礫をやや多く含む粘質土が多く堆積し土器が1点確認された。この溝跡の西側からは径10~20cmのピットが3基検出された。
- T-6 東西8.5m×幅1.5m×深さ0.5~0.7mである。遺構・遺物ともに確認されなかつた。

調査所見

調査区では、駐車場部分であるT-4から集中して遺構・遺物が検出された。トレーンチ調査のため全容は確認できなかったが、検出されたピットは建物の柱穴と考えられる。また扁平状の石は2m間隔あり、礎石の可能性が考えられる。いずれの遺構も出土遺物から16世紀代に比定される。

調査区西側の建物部分に関しては、地表下0.3mと極めて浅い部分から遺構が検出されてはいるが、掘削面積64m²に対してピット3基と溝1条と少なく、かつ時期等も特定できないため本調査の対象にすることは困難と判断した。

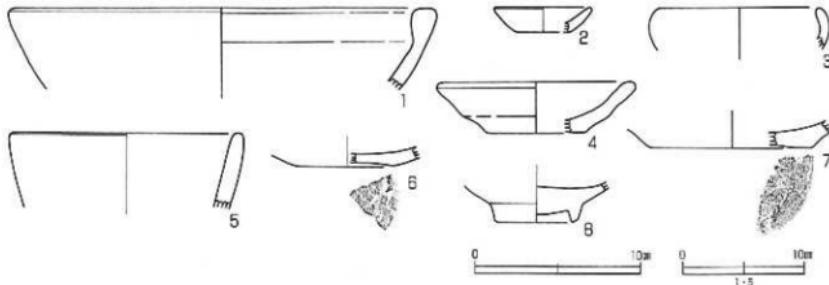


図2 出土遺物

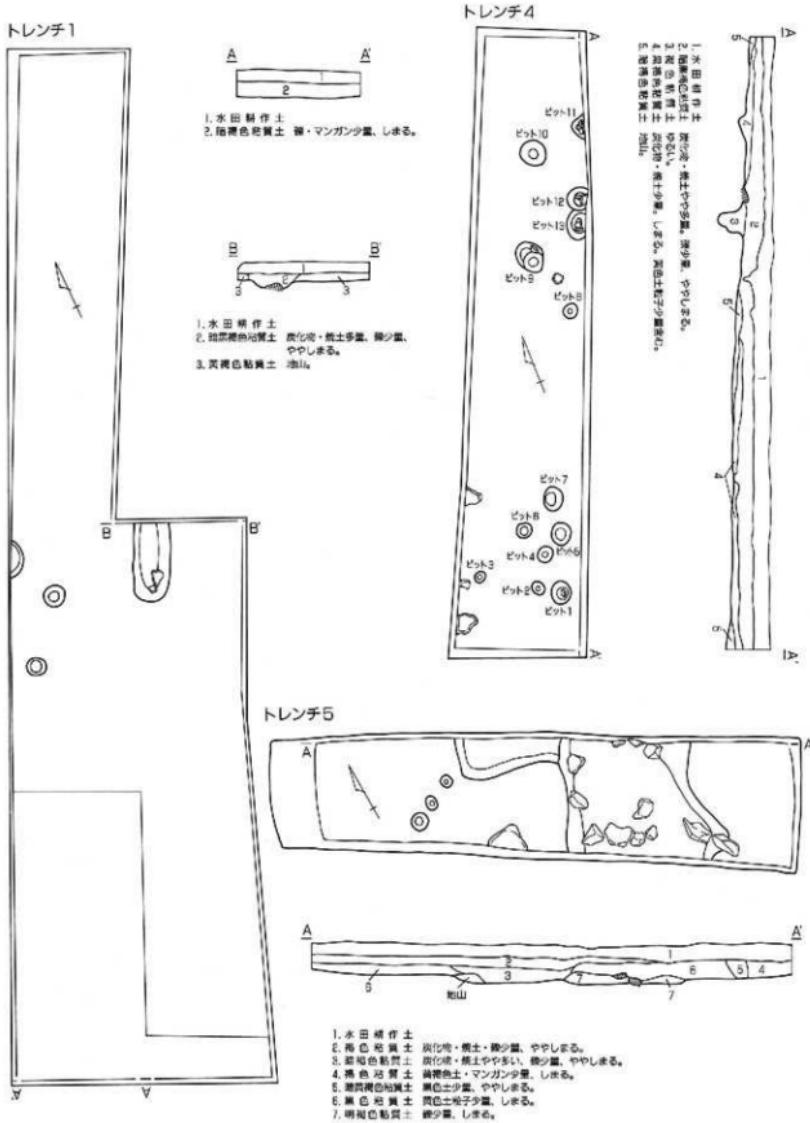


図3 平面・土層堆積図

20-28 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市下積翠寺町3040-1
調査原因 その他開発
対象面積 40.00m²
調査面積 36.0m²
調査期間 平成20年5月12日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田氏館跡北側に位置し、西側には武田信玄の次男竜宝の墓と伝わる宝篋印塔などが残る地城である。調査対象は、荒蕪地となっていた石積みの土手であり、神宮司氏屋敷の土塁、あるいは相川の堤防との伝承が残っていた。最近になって石積みの一部が崩落したため、所有者が撤去を決めたことから造成前に試掘調査を行った。

現状で表面に残る石積みは、積み方などから考えて新しいものと判断されるが、内部には土塁が存在する可能性があった。そのため、構造と断面の確認を行うことを目的として重機によって掘削し、断面を確認した。

ま と め

県道側から掘削を行ったが、石積みの間は礫石が充填されており、表面の石積み構築に伴うものと考えられた。その後掘削を進めたが、内部で土塁の存在は確認されなかつた。北側の敷地境までが掘削対象であったが、最終的にすべて同じ状況であり、変化はなかつたことから、神宮司氏屋敷の土塁は伝承にすぎなかつたことが確認された。相川の堤防についても、通常の堤防構造から考えてすべて石材で構築することは考え難く、こちらも否定的に捉えなければならない。



調査対象範囲



解体前石垣状況

20-29 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目2083他

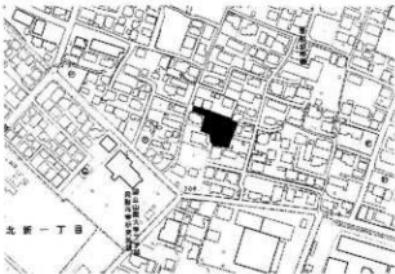
調査原因 宅地造成

対象面積 762.0m²

調査面積 91.8m²

調査期間 平成20年7月1・2日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下は南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は遺跡範囲の西端に位置し、標高約310mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に幅1.8mの試掘坑を南北方向に3本、延べ51m設定し、地表下約60~70cmまで掘削した。すべての試掘坑とも地表下20cmまで表土が堆積し、それ以下が地山（黄褐色土）となる。試掘坑3より磁器・土器片が出土したのみで、遺構等は検出できなかった。遺跡の存在は確認できず、記録写真撮影後、埋め戻し、調査を終了している。

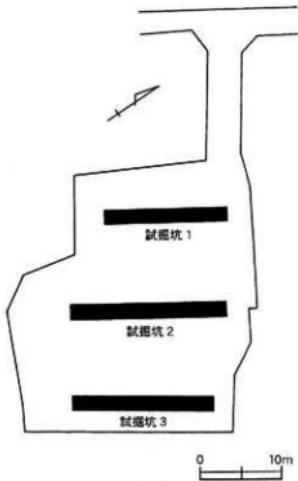


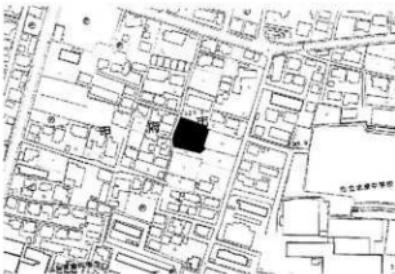
図1 調査区配置図



図2 出土遺物

20-30 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目4431-1他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 473.92m²
調査面積 8.0m²
調査期間 平成20年7月3日～7日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。武田氏居館を中心に南北五条の基幹街路が配され、城下は南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は遺跡範囲の中央、館跡から約450m南下した、標高約320mを測る宅地である。

調査の概要

対象地に2m四方の試掘坑を二箇所設定し、地表下約45cmまで掘削した。二箇所とも地表下20cmまで表土(旧水田耕作土)・旧水田床土(厚10cm)が堆積し、それ以下に混礫黄褐色土(地山)が堆積していた。遺構・遺物とも検出できず、遺跡の存在は確認できなかった。記録写真撮影後、埋め戻し、調査を終了した。

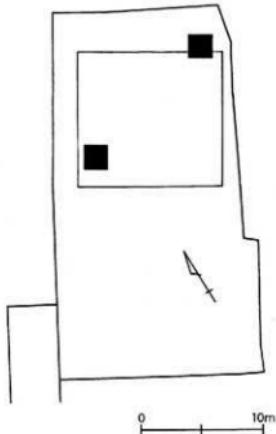


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

20-31 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目261
調査原因 個人住宅建設
対象面積 259.11m²
調査面積 180.0m²
調査期間 平成20年7月30日～8月13日
調査担当 志村憲一

はじめに

調査区は武田城下町遺跡の南辺部、相川扇状地標高294m地点に位置する。中世末までは南西側には尊駄寺が位置していたとされる。周辺の発掘調査では、調査区西側周辺の数地点で中世から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。



調査状況

当初調査対象地の3か所にトレンチを設定し、重機及び人力で確認を行った。北側のトレンチ部分では、深さ0.5mで地山層になるが遺構・遺物は確認されなかった。南側の2地点は遺物が出土したため拡張して調査を行い、遺構は北側で地表下0.4m、南側で0.7mの地山層に掘り込まれた状況で確認された。検出された遺構は暗渠2条、溝7条、ピット6基である。遺物は主にかわらけが出土した。

検出遺構

暗渠 東西1m、南北は中央部分が搅乱を受けているが南北約18m×幅0.4mの暗渠である。拳大以上の自然石で構築され、近代に構築されたものと考えられる。

1号溝 東西7.4m×幅0.4m×深さ約0.1mである。16世紀代のかわらけが確認された。

2・6号溝 搅乱を受けているが、同一の溝と考えられる。東西5.4m×南北3.6m×幅0.2～0.4m×深さ約0.05～0.3mである。溝底には細砂粒子がやや多く堆積していた。

溝内からはかわらけ片が多数出土した。

3・5号溝 搅乱を受けているが、同一の溝と考えられる。東西4.0m×南北1.4m×幅0.2

～0.6m×深さ約0.1～0.3mである。溝底部には細かい砂粒子が少量堆積している。

溝内からはかわらけが少量出土した。

4号溝 南北2m×幅0.2m×深さ0.1mである。北側で5号溝と繋がる、重複関係は

不明である。かわらけが少量確認された。

7号溝 南北1.2m×幅0.2m×深さ0.2である。かわらけが少量出土した。

他の遺構 ピット6基検出され、径0.2～0.6m×深さ0.1～0.2mであり規則性等はみ

られない。また南側で扁平の自然石が2基確認されている。

検出遺物

遺物は16世紀代のかわらけである。調査区北側部分と1号溝を境として南側からの検出が多く、特に1・6号溝内と、調査区南西側から集中して確認された。

調査所見

今回の調査区は、北側部分は削平され南側からの検出が多かった。遺構は、出土した遺物から16世紀代のものと考えられる。ピット2基の石は規則性が見られないことから建物に関連することは考えられないが、検出された溝は二重に囲繞するように検出され、この周辺からかわらけの出土が最も多く検出されたことから建物に伴う雨落ち溝であった可能性も考えられる。『甲斐国志』によると、調査区周辺には一丁四方の寺域をもつ尊駄寺が位置していた場所であるが、検出された遺構等が関連するものかどうかは不明である。

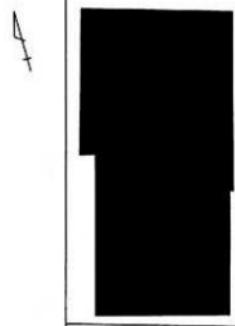


図1 調査区配置図

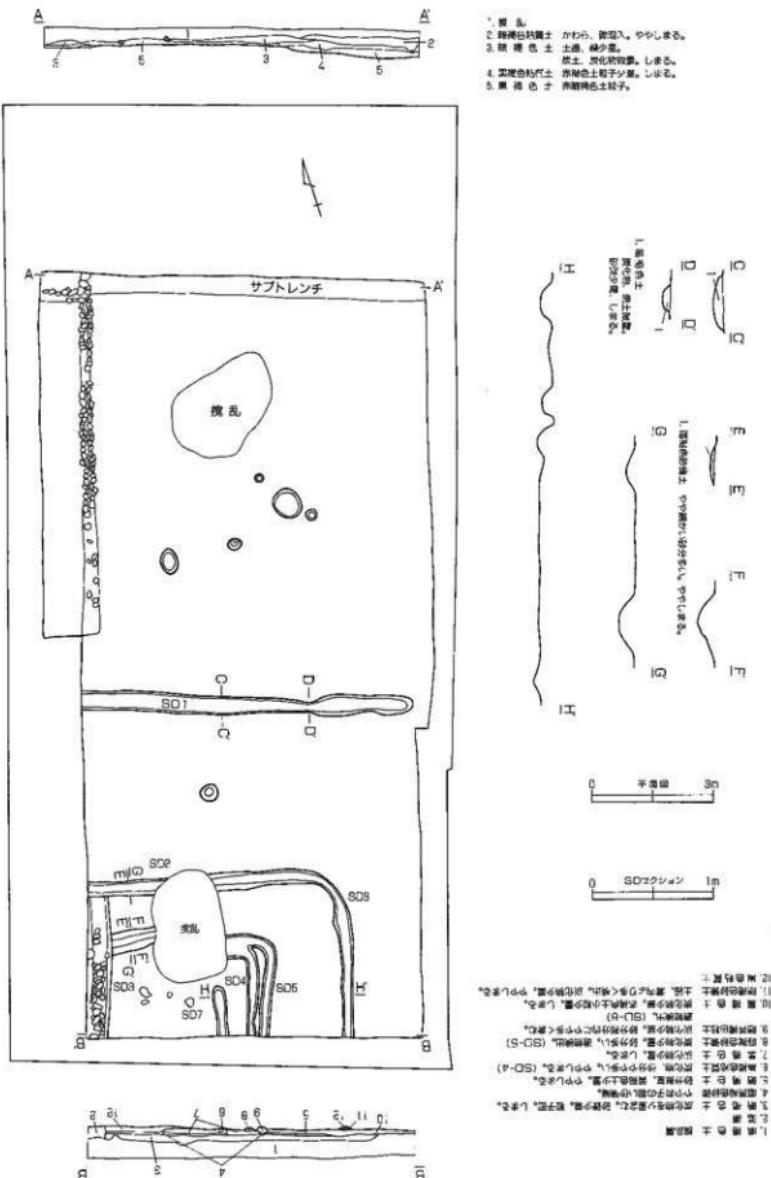


图 1 平面・土層堆積・断面図

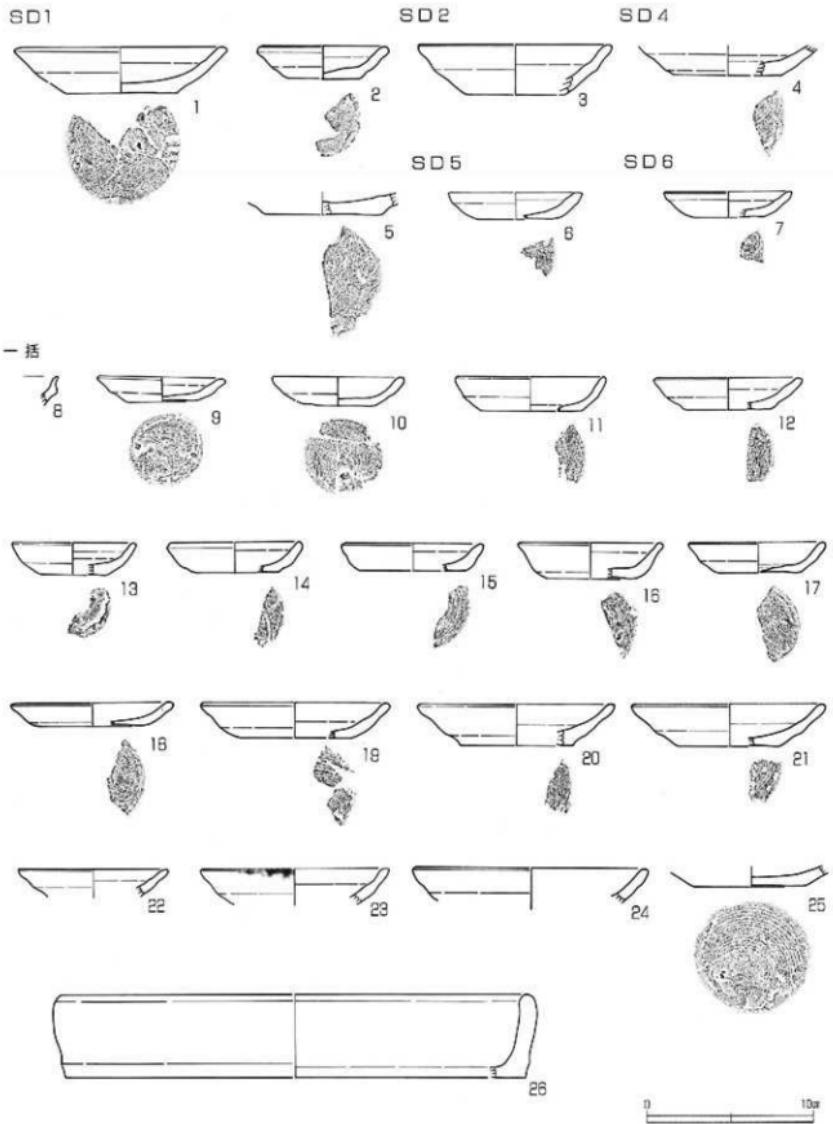


図3 出土遺物

20-32 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手二丁目4207他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1,448m²
調査面積 81.0m²
調査期間 平成20年10月2・3日
調査担当 志村憲一

はじめに

調査区は武田氏館跡の南東側標高約317m地点に位置する。16世紀代からの通りである「鍛冶小路」と「大泉寺小路」の間であり、『甲府略志』の絵図によると、調査区北側には武田氏重臣の「小幡氏」屋敷跡の伝承地であるが、調査区一帯に関しては無記名である。平成17年ごろまで水田であり、調査区中央部には南北方向の水路が通じている。また扇状地であるため、0.3~1mの段差により3区画となっている。

調査状況

調査区に3か所トレンチを設定し重機で掘削後、人力で遺構・遺物の確認が行われた。T-A（東西18m×幅2m×深さ0.3~0.8m）・T-B（東西18m×幅2m×深さ0.2~0.5m）は建物予定地であり、地山層まで0.2~0.5mと浅く、遺構・遺物ともに確認されなかった。

敷地南側のT-C（南北9m×幅1m×深さ0.3~0.45m）掘削が行われ、北側で径0.9mの土坑と考えられる円形プランが確認されたが、遺物等が検出されていないことから時期・性格等は不明である。また南隅の第2層（黒色粘質土層）は炭化物の混入が確認されている。

なお、T-Cの区画に関しては盛土が行われて駐車場になるため、遺構は保護が図られた。

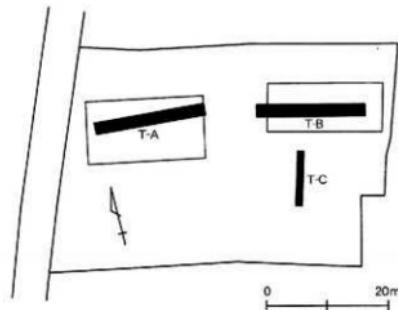
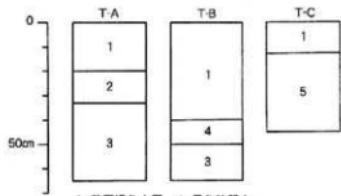


図1 調査区配置図



1. 茶灰褐色土層
(水田層)
2. 黑色粘質土層
(小礫・黄褐色土含む)
3. 地山
4. 黑色粘質土
(小礫・黃褐色土含む)
5. 紫褐色土層
(小礫含む)

図2 土層柱状図

20-33 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目2073-1の一部他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 55.70m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成20年11月11日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査地点は武田城下町遺跡のうち、「古府之図」によると秋山伯耆守の屋敷とされている位置にあたる。

調査は、既存の住宅を解体後試掘調査に着手した。

地表から30cmまで砕石と搅乱となり、これを除去すると暗褐色の粘土層が確認できた。この粘土層は相川扇状地における自然堆積層である。そのため、この地点の埋蔵文化財は既存の住宅建築の際に削られて消滅したのか、もしくは当初から密度の薄い地点だったと判断できる。

埋蔵文化財が存在しないため、調査を終了とした。

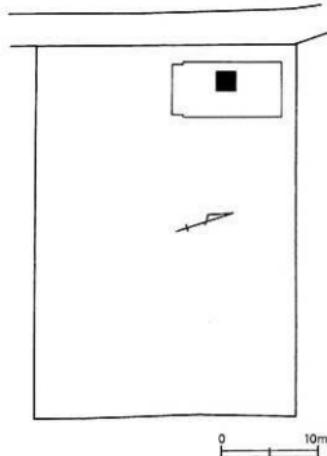


図1 調査区配置図

20-34 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目375
調査原因 個人住宅建設
対象面積 170.24m²
調査面積 3.0m²
調査期間 平成20年11月27日～28日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」から現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は包蔵地の南端、標高約290mを測り、南北基幹街路に接した住宅地である。

調査の概要

対象地に2m×1.5mの試掘坑を設定し、地表下約50cmまで掘削した。地表下20cmまで1層表土(整地層)が堆積し、それ以下に2層茶褐色土(厚20cm)、3層混礫黄褐色土(地山)が堆積していた。1・2層中より近代磁器が出土するが、旧建物解体にともなう整地により紛れ込んだものであろう。遺構は検出できず、遺跡の存在は確認できなかった。記録写真撮影後、埋め戻し、調査を終了した。

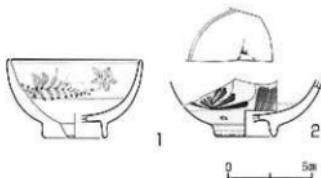
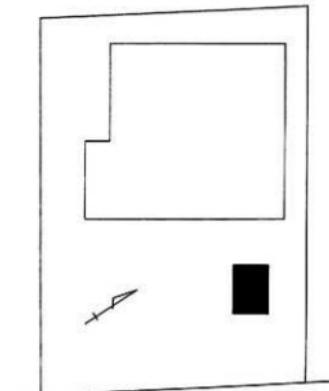


図3 出土遺物



図2 土層柱状図

20-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町244

調査原因 宅地造成

対象面積 1,014.00m²

調査面積 63.75m²

調査期間 平成21年3月16・17日

調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。武田氏の居館を中心に南北五条の基幹街路が配され、城下は南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は、基幹街路に接した標高約300mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に2.5m×25.5mの試掘坑を設定し、地表下約60~120cmまで掘削した。層序は地表下30cmまで1層碎石(整地層)、それ以下に2層黄褐色土(厚30cm:旧水田床土)、3層褐色土(厚40cm)、4層灰黒色粘質土が堆積していた。1.2層中より近代磁器が、3層中より江戸期の磁器が出土した。3層は、江戸時代後半~明治頃にかけて実施された水田造成にともなう盛土と考えられる。中世遺構は検出できず、遺跡の存在は確認できなかった。記録写真撮影後、埋め戻して調査を終了した。

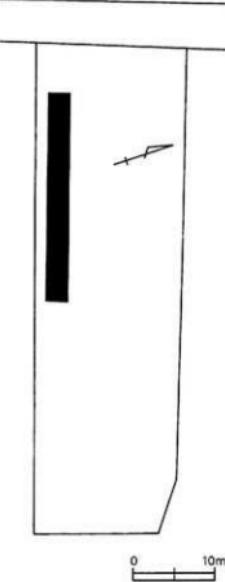
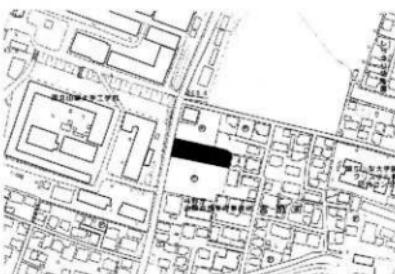


図1 調査区配置図

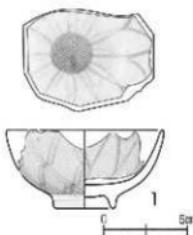


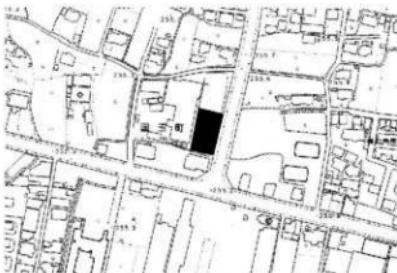
図3 出土遺物



図2 土層柱状図

20-36 塚腰遺跡

調査位置 甲府市国玉町字塚腰907-1
調査原因 その他開発
対象面積 258.85m²
調査面積 6.0m²
調査期間 平成21年3月17日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は盆地北縁に位置し、笛吹川の支流、渦川と平等川に挟まれた低平地に占地する。弥生～古墳時代の遺跡として周知され、調査地点は標高260mを測る宅地造成地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、地表下約1.0mまで掘削し、遺構の有無・土層堆積状況などを確認した。地表下45cmまで1層耕作土が堆積し、それ以下に2層黒色土(厚25cm)、3層腐植土(厚15cm)、4層灰黒色土(厚15cm)が堆積していた。2層中より湧水がみられ、3層は草の根の堆積層であった。遺物・遺構は検出できず、遺跡の存在は確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了している。

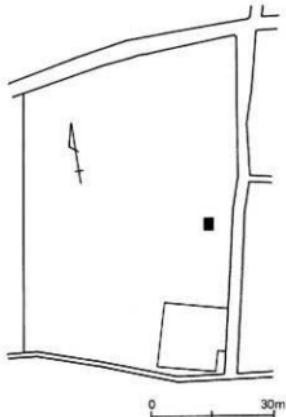


図1 調査区配置図

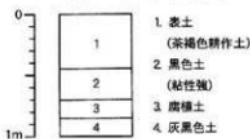


図2 土層柱状図

20-37 塚本遺跡

調査位置 甲府市千塚一丁目47-1

調査原因 その他開発

対象面積 196.43m²

調査面積 10.0m²

調査期間 平成20年8月8日

調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査地点は塚本遺跡として括られた範囲の中で西端に位置する。

調査の結果、地表から約30cmでやや結まりのある赤褐色の砂質土が確認できた。この地層で精査したところ、長径100cm短径30cmの範囲で焼土がやまとまって出土する部分があった。土師器の細片も伴うことから平安期の遺構の可能性も考えられた。これについて半裁し確認したところ焼土も非常に薄い堆積で、掘り込みも伴わないと遺構ではないと判断した。

さらに地表から50cmまで掘り下げ精査したところ、全面が砂の堆積となった。これについては荒川の氾濫と判断し、これ以上掘り下げ調査しても川砂の堆積が続くことが予想されたため、調査を終了した。

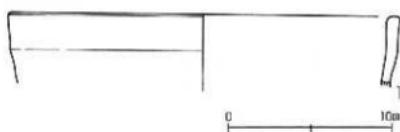


図3 出土遺物

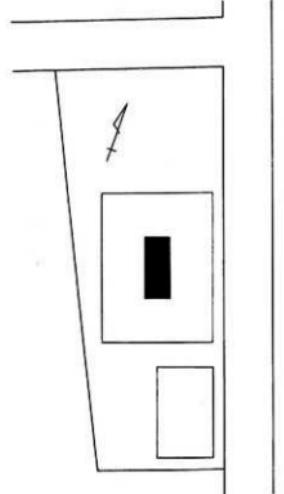


図1 調査区配置図

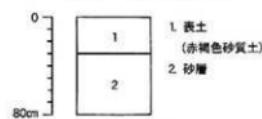


図2 土層柱状図

20-38 藤塚古墳

調査位置 甲府市上阿原町733-10他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 42.90m²
 調査面積 7.0m²
 調査期間 平成20年6月16日
 調査担当 幸塚洋一

調査の概要

調査地は藤塚古墳として知られる盛土部分から南西に約10mに位置する。小字にも「塚腰」の名称が残り、古墳だったことが予想される。また地籍調査が行われる以前の公図(以下「旧地籍図」と省略)には南側に先端をむけたひしゃく形の地形が描かれて、前方後円墳だったことが示唆される。

現状では後円部の東半分(もしくは2/3程度)が甲府市所有地として残されるものの、周辺は宅地として開発されている。

試掘調査を実施した地点は、旧公図から判断すると、前方後円墳のクビレ部に位置し、周溝や埋葬に伴うなんらかの施設が検出される可能性があった。

調査の結果

調査は東西方向に、1m×7mのトレントを設定して行った。調査の結果、現地表から約60cmの深さからトレントの中ほどで黒褐色の硬化した地盤が土器片とともに確認できた。過去の調査事例から考えて竪穴住居の床面だと判断した。また、トレントの西隅付近に偏つて黒色のやや軟弱な地盤が検出された。黒色土だけ除去した結果、最大で確認面から40cmの深さを持つ溝跡が検出された。溝跡は南東→北西に方向軸をもち、周辺の地形から考えると藤塚古墳の周溝の可能性が高いといえる。

竪穴住居跡と溝跡の前後関係はトレント壁面における切り合ひ関係から、溝跡が埋まつた後に床面を作ったことがわかった。また、出土遺物も溝跡からは古墳時代前期初頭の甕、竪穴住居跡からは小破片だが奈良時代の霧圓氣を持つ土師器坏が出土している。

建物基礎は、地表下40cmの深さであり、遺構確認面とは20cmの間層が保つことができることから、埋蔵文化財の保護ができると判断し、調査を終了した。

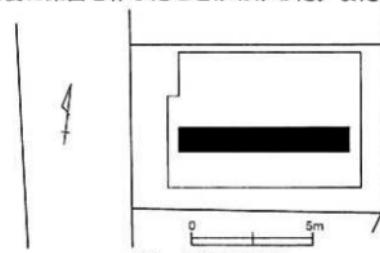


図1 調査区配置図

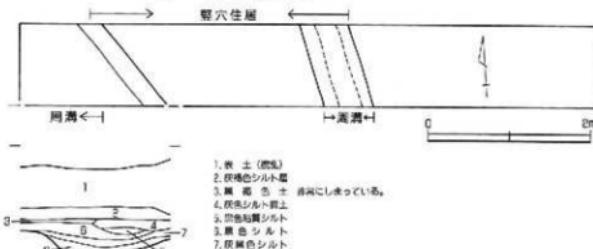


図2 調査区平面図・土層断面図

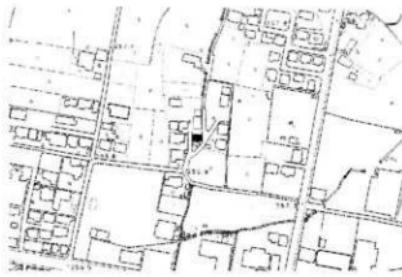


図3 出土遺物

20-39 藤塚古墳

調査位置 甲府市上阿原町732-1他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 92.00m²
調査面積 12.0m²
調査期間 平成20年6月16日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査地は藤塚古墳として知られる盛土部分から南西に約10mに位置する。小字にも「塚腰」の名称が残り、古墳だったことが予想される。また地籍調査が行われる以前の公図には南側に先端をむけたひしゃく形の地形が描かれ、前方後円墳だったことが示唆される。

現状では後円部の東半分（もしくは2/3程度）が甲府市所有地として残されるものの、周辺は宅地として開発されている。

試掘調査を実施した地点は、旧公図から判断すると、前方後円墳のうち後円部に位置することが予想され、周溝が検出される可能性があった。

調査の結果

調査は北西-南東方向に、1m×12mのトレンチを設定し行った。調査の結果、現地表から約30cmの深さから溝状や方形の人工的な掘り込みのようなものが確認できた。出土量はそれほど多くはないものの、古墳時代から平安時代にかけての土器片が出土した。

古墳の周溝が確認されるものと想定していたが、古墳につながるものは出土していない。しかし、出土状況から考えて、竪穴住居等が存在した可能性が高いものと思われる。

現況の設計のままであれば、造構確認面と同じレベルまで掘削がおよぶため、建築の担当と協議のうえ、設計を5cmあげることで文化財の保護を図ることで了解を得て調査を終了した。

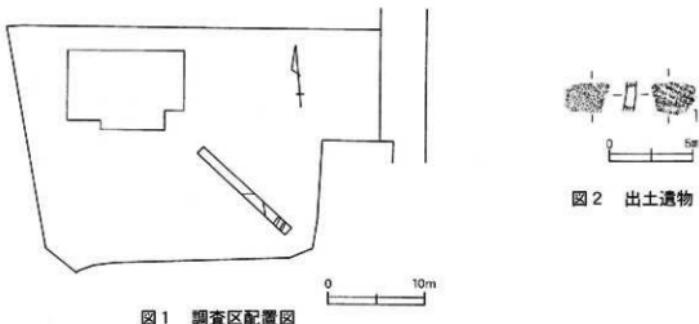
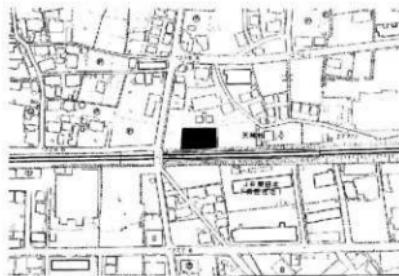


図1 調査区配置図

図2 出土遺物

20-40 前田遺跡

調査位置 甲府市池田一丁目1553-5他
調査原因 その他建物建設
対象面積 1,495.00m²
調査面積 60.0m²
調査期間 平成21年3月17・18日
調査担当 伊藤正幸



調査地概要

今回の調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが、開発面積が500m²以上に及ぶ規模のものであり、また前田遺跡の詳細な範囲確認のためにも、埋蔵文化財の確認調査を行ったものである。

調査地は、甲府市を南北に貫流する荒川により開析された扇状地の扇端部、標高276mに位置する。周辺には居村村上遺跡（縄文時代・平安時代）や平安時代の前田遺跡等が周知されている。

調査の概要

調査は敷地内における建物建設予定箇所に幅1.5mの調査区を設定し、建物の形状に合わせて東西25.4m、南北14.5mの試掘坑を重機で荒掘りを行い、精査後、埋蔵文化財及び土層の堆積状況を記録した。

耕作土を除去した層序は基本的に、粗粒砂層（2層）、細粒砂層（3・4層）、植物遺体が混入する黒色土層（5層）、粗粒砂及び細粒砂の互層（6層）に分層が可能である。この層序は、南北の調査区において白色粗粒砂層（8層）が5層の下部に確認できる以外は全体に共通している。各試掘坑の両端部分で深掘りをしたが、砂の堆積が続いている。

遺構・遺物等埋蔵文化財は何ら確認されなかった。

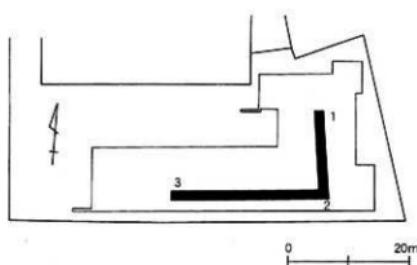


図1 調査区配置図

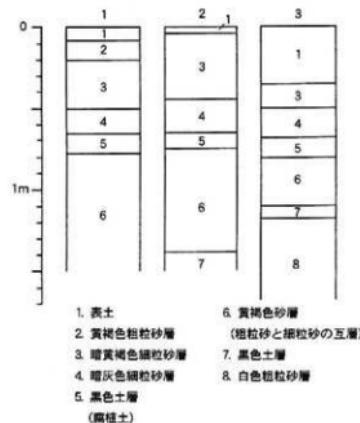


図2 土層柱状図

20-41 緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目1152-5
調査原因 個人住宅建設
対象面積 200.24m²
調査面積 3.0m²
調査期間 平成20年7月17日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は甲府盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇尖部に位置する。度重なる相川・荒川の流路変更により一帯には後背湿地・旧河道の他、自然堤防・扇状地等が埋没しており複雑な地形を形成していることが微地形分析から判明している。縄文から平安時代の遺跡として周知され、調査地は相川右岸、緑が丘球技場に近接した標高約290mを測る宅地である。

調査の概要

旧建物建設に際し盛土されたらしく地表下約50cmまで、表土・盛土層が堆積し、それ以下は水田床土が堆積していた。遺構・遺物とも検出できず、遺跡の存在は確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了している。

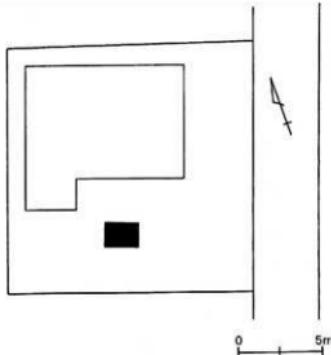
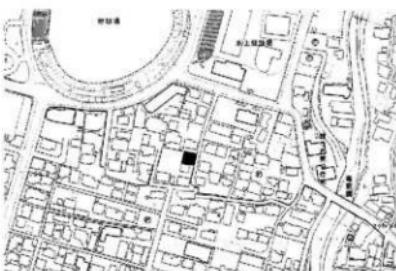


図1 調査区配置図

20-42 緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目1152-6
調査原因 個人住宅建設
対象面積 229.93m²
調査面積 5.0m²
調査期間 平成20年12月8日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

甲府盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇尖部、相川右岸に位置する。調査区は遺跡範囲の北辺標高290.5mに位置し、近接して北側には古墳時代から平安時代にかけての緑ヶ丘二丁目遺跡が位置する。

調査の概要

対象地に2箇所に東西1m、南北2.5mのトレンチを設定し、両トレンチとも地表下約1m地点まで掘削した。両トレンチとも同様の6層の堆積層が確認され、両トレンチの第4・7層からは少量の炭化物が検出されるとともに、古墳時代後期の土師器及び須恵器が出土した。Bトレンチでは南側への落ち込みが確認されたが、造構であるかどうかは不明である。なお、当初の建物基礎掘削は地表下35cm地点が基底部となり、遺物包含層に影響が及ぶため、事業者側に協力をしてもらい約10cm盛土を行い、遺物包含層の保護を図った。

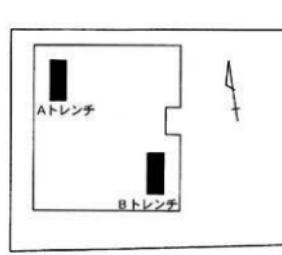
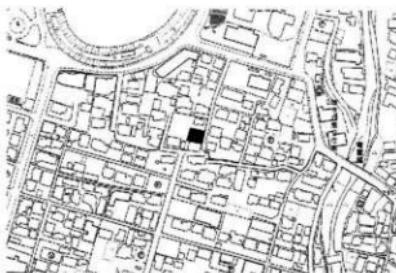


図1 調査区配置図

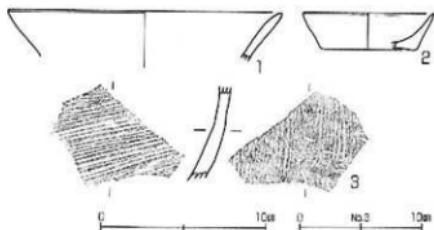


図3 出土遺物

20-43 緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目138-8
調査原因 個人住宅建設
対象面積 71.14m²
調査面積 4.0m²
調査期間 平成21年3月26日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地は緑が丘一丁目遺跡として括られた範囲のうち北端に位置する。周辺の調査では、東側約90mの地点における宅地造成に先立って実施した試掘調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡が検出され、本發掘調査になった事例がある。また、南東120mの地点では個人住宅の建設に先立って実施した試掘調査では古墳時代の土器が多量に出土した。

のことより、緑が丘一丁目遺跡の中心は今回の調査地点より東に約100m付近にあるものと推測される。

調査の結果

柱状に地盤改良計画があることから、調査の結果によっては本調査の可能性もあった。

2m四方の試掘調査グリッドを設定し、重機と人力により調査をおこなった。

相川扇状地に立地し、周囲が南に向かって傾斜する地形にもかかわらず、調査地点は南側が北側に比べ約40cm高いことから、調査の前から客土による造成が予想された。

調査の結果、地表から40cmまでは客土による碎石層が検出できた。地表下40cm下層で暗褐色砂質土層となり、土師質土器の小片が1点出土した。

地表下65cmで黒褐色粘土層となり、地表下100cmで暗褐色シルト質土層となる。この土層は自然堆積層と判断した。

出土遺物はわずかに土師質土器の小片が1点であり、遺構も確認できないことから、この地点における埋蔵文化財はないものと判断し調査を終了した。

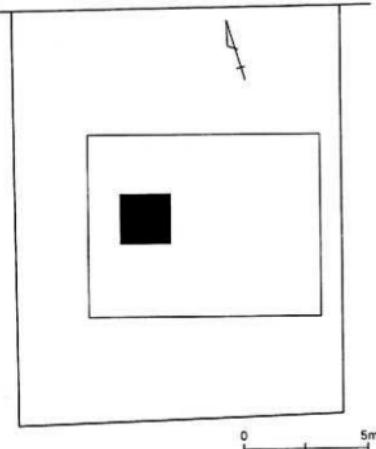
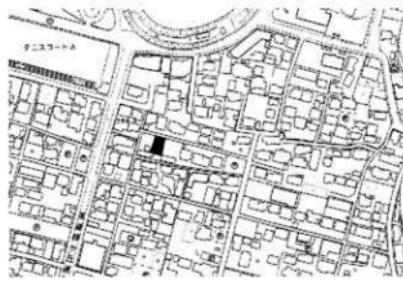


図1 調査区配図

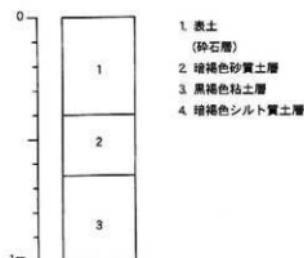


図2 土層柱状図

20-44 緑ヶ丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市緑ヶ丘二丁目1107-5他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 366.32m²
調査面積 9.0m²
調査期間 平成20年11月17日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

甲府盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇央部、相川右岸に位置する。調査区は遺跡範囲の南辺標高290.5mに位置し、近接して南側には縄文時代から平安時代にかけての緑ヶ丘一丁目遺跡が位置する。

調査の概要

対象地に2箇所に東西3m、幅1.5mのトレンチを設定し、両トレンチとも地表下約1.2m地点まで掘削した。両トレンチとも同様の堆積層であり、Aトレンチでは5層の堆積層が確認された。BトレンチではAトレンチ第3層と4層の間に厚さ11cmの黒色粘質土層がみられた。いずれの堆積層からも遺構・遺物は確認されてはいない。

調査所見

調査区は明治24年（1891）以前まで水田であったが、明治24年から昭和20年までは歩兵49連隊の練兵場であった。水田として使用される以前は河川又は氾濫原であったものと考えられる。

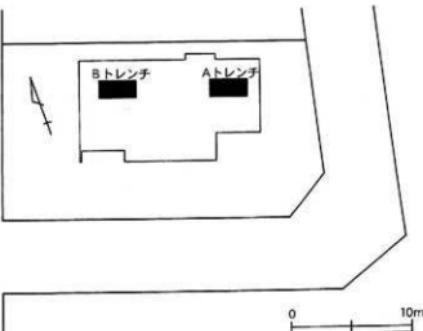


図1 調査区配置図



図2 土層柱状図

20-45 宮の前遺跡

調査位置 甲府市善光寺二丁目2191-7他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 163.23m²
調査面積 5.25m²
調査期間 平成20年5月14日
調査担当 志村憲一

はじめに

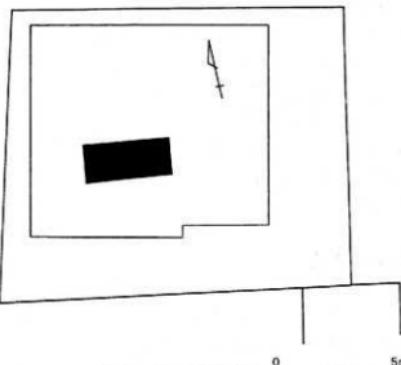
宮の前遺跡は甲府盆地北縁部、高倉川により形成された北原扇状地の扇端部に位置する、縄文時代の散布地である。調査区は遺跡範囲の中央部標高258.8mに位置し、現状周辺は平坦な住宅地である。調査区北側周辺には東光寺遺跡、銀杏之木遺跡、上郷遺跡など平安時代の遺跡が多くみられる。

調査状況

既存建物撤去後に建物予定地中央部に、東西3.5m、幅1.5m、深さ約2m重機で掘削を行い、人力で遺構・遺物の有無と北西隅の北壁において基本堆積層の確認を行つたが、遺構遺物ともに確認されなかつた。

基本土層

第1層 厚さ約30cmある近代の搅乱層である。
(近代の堆積層)
第2層 暗茶褐色粘質土層(厚さ約15cm)
(耕作土層)
第3層 暗褐色粘質土層(厚さ約14cm)
第4層 暗黄褐色粘質土層(厚さ1m以上)
(地山層)



0 5m

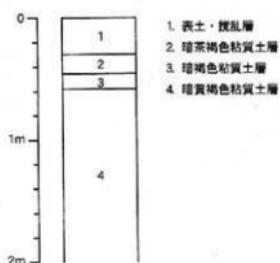


図2 土層柱状図

20-46 村内遺跡

調査位置 甲府市横根町830-2他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 880.26m²
調査面積 31.5m²
調査期間 平成21年2月25日～27日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

当遺跡は市内東部の盆地北縁に位置する。八人山・大藏經寺山間を流下する大山沢川により小扇状地が形成され、本遺跡もこの小扇状地上に位置し、縄文・古墳時代の遺跡として周知されている。調査地点は大山沢川右岸の標高約270mを測る畠地である。

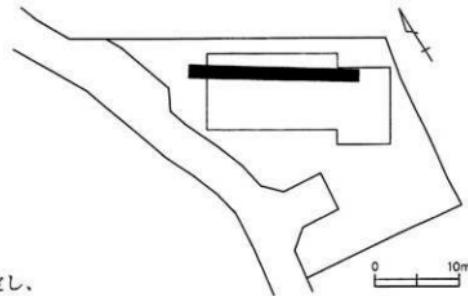


図1 調査区配置図

対象地に1.5m×21mの試掘坑を設定し、地表下約40～70cmまで掘削し、遺構の有無・土層堆積状況などを確認した。地表下20cmまで表土(耕作土)が、それ以下に黄色土が堆積していた。対象地からは土器が表探できるものの、調査では1点の土器も確認できなかった。表土以下は地山と判明し、部分的に小礫が混入する箇所が確認できたが、遺構は検出できず、遺跡の存在は確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了している。

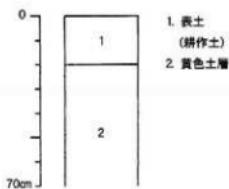


図2 土層柱状図

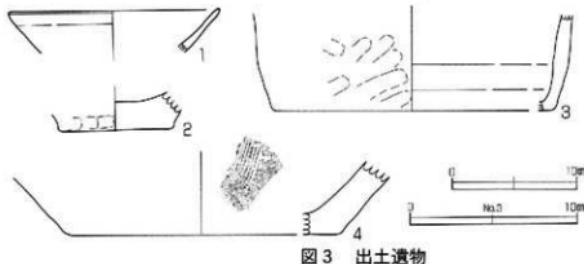


図3 出土遺物

20-47 峰本南B遺跡 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市尾形三丁目2499-1他
調査原因 農業基盤整備事業
対象面積 1,144.0m²
調査面積 - m²
調査期間 平成21年1月27日～3月18日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田氏館跡梅翁曲輪南側に位置し、現在は比較的大きな2段の畠地となってい。届出内容は、畠地の水はけが悪いことから暗渠管を敷設するものであったため、掘削幅が狭いことから立会で対応することとした。埋設箇所は、当初は上下段ともに埋設予定であったが、上段の排水処理の状況をみて判断することとされた。

上段部は、隣接する私道との境界壁が劣化していたため、同時に修理することとなっていた。周辺を掘削したが、井戸跡がコンクリートで埋め立てられていた。この井戸跡の時期は不明である。暗渠埋設溝は、西側と中央の2箇所に南北方向の埋設溝を掘り、敷地中央で東西方向の埋設溝を1箇所掘削した。

全体的に耕作土下には水田床土層が存在しており、かつて水田であったことが窺えた。床土層下には斑鉄層が形成されており、その直下で地山が確認された。敷地南側では斑鉄層を含む暗褐色土層が比較的堆積層が残されていた。反対に北側は水田造成段階で削平されていたと考えられ、現地表から約20cmで地山が検出される場所も存在した。

遺構は、南北方向中央の掘削箇所では幅約50cmの溝跡が確認され、掘り下げたところ地山面から深さ約20cmで完掘した。溝跡からはかわらけや瀬戸美濃大窯段階の灰釉陶器が出土したことから、時代的に16世紀中葉と考えられ、武田期の城下町に関連する遺構であることが確認された。



掘削状況



溝跡断面

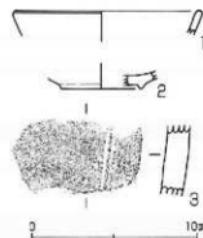


図1 出土遺物

20-48 向山遺跡

調査位置 甲府市中畠町792付近他
調査原因 下水道工事
対象面積 47.7m²
調査面積 - m²
調査期間 平成20年12月8日～12日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

向山遺跡は、米倉山に連なる台地が滝戸川、宮沢川など小河川の浸食を受けて削り出された東西方向に伸びる舌状台地の標高310m付近に立地する。『山梨県の考古学』(1968年刊行)によると、縄文時代早期の押型文土器や子母口式土器、茅山式土器が出土し、縄文時代早期の集落跡が形成されていたことが想定される遺跡である。

調査の結果

調査は、下水管敷設工事に伴う掘削工事に対して立会調査を実施した。幅0.6m、地表から1.2mの掘削であった。掘削土の断面観察によると、北向きの斜面から台地上の平坦面へと傾斜が変化する地点から、遺物包含層と思われる黒褐色の粘土層が堆積することが確認できた。特に前述の変化地点では約1mの深さまで黒褐色粘土が堆積していることから、竪穴住居等の人工的な構造物があったことが想定できる。場所によっては1.2m以上も黒褐色の粘土が堆積し、中から縄文土器片や炭化物が出土している。

出土した遺物は、縄文時代早期末から前期初頭に位置づけられるものである。

今回の工事は下水道工事に伴うもので、幅0.6mと狭小なため山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項にしたがって、事前の発掘調査は実施しなかったが、今後は周辺の開発工事については慎重に対処する必要がある。

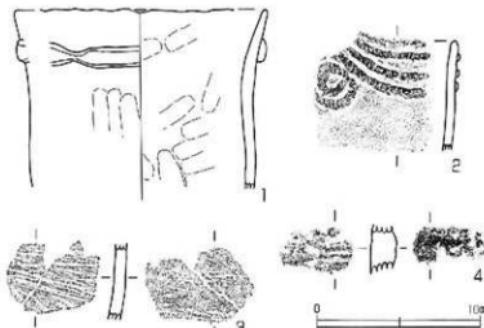


図1 出土遺物

出土遺物観察表(1)

単位: cm 重さg

団体 番号	遺物 番号	出土遺跡	出土地点	種別	器種	法 量			胎 土	色 調	備 考	
						口径	高さ	底径				
1				土器	鉢	(11.0)			黒	SYR に近い黄褐色5/4	外因タル付属	
2	19-2 朝氣遺跡			土器	高杯				やや密	7.5YR 褐6/8		
3				土器	壺				やや粗	10YR に近い黄褐色7/3		
1	19-3 朝氣遺跡			土器	かわらけ	(2.0)	2.5	4.0	黒	SYR 黒6/6		
2				土器	壺	(15.2)			黒	2.5YR 黑6/8	内面黑色施塗	
1	19-5 居村村上遺跡			土器	かわらけ	(11.0)	2.5	(4.2)	黒	SYR 明褐色5/6		
2				土器	かわらけ		(6.0)		黒	SYR 黑6/6		
3				磁器	皿	(9.4)	2.5	(5.0)	黒	SGY 反白8/1		
1	SD1 上層			土器	瓶				黒	7.5YR に近い褐5/3	内面スス付属	
2	SD1			陶器	豆皿	9.4	1.6		やや密	10YR に近い黄褐色7/2	内外面被施	
3	SD1			鐵鉄陶器	漆刷				黒	2.5YR 暗赤褐色5/4		
4	SD1 上層			鐵鉄陶器	灯明皿	7.8	1.6	3.5	黒	SYR 緑赤褐色3/4		
5	SD1 上層			陶器	壺?			(4.0)	黒	10YR 明褐色6/6		
6	SD1 上層			陶器	皿	9.5	1.6	9.7	黒	7.5YR 反オーリーブ6/2	黄入りあり	
7	SD1 上層			陶器	皿	8.4	3.3	外径4.0	黒	2.5Y 黄7/2		
8	SD1 上層			陶器	灯明皿	(9.7)	2.0	(3.0)	黒	7.5YR 橙4/4		
9	SD1 上層			磁器	壺	(8.0)			黒	-		
10	SD1 上層			磁器	碗	(9.2)	4.85	(4.0)	黒	7.5Y 明緑灰8/1		
11	SD1 上層			磁器	碗	(11.1)			黒	5GY 反白8/1		
12	SD1 上層			磁器	碗	(8.3)			黒	7.5Y 明緑灰8/1		
13	19-11 平府城下町遺跡			磁器	皿	(9.3)	1.85	(5.2)	黒	-		
14				SD1	磁器	(8.5)	3.2	3.7	黒	-	供給品	
15				SD1	磁器		1.95	3.25	黒	-		
16	SD1 上層			SD1	磁器	(10.3)	2.4	(5.2)	黒	10GY 明緑反7/1	供給品	
17				SD1	陶器	土瓶	7.4	11.1	8.4	黒	2.5YR 極端赤褐色2/2	
18				SD1	陶器	土瓶	9.6			黒	7.5YR 暗褐色3/3	
19				SD1	陶器	土瓶	8.7			黒	5G 反白8/1	
20	SD1 上層			SD1	陶器	土瓶			黒	10BG 明青反7/1		
21				SD1	陶器				黒	-		
22				SD1 上層	石製品	研	長さ0.3			-	-	
23				SD1	石製品	研	長さ0.6	幅1.0	重さ6.4g	-	-	
24				SD1 上層	石製品	引き手	長さ4.9	幅0.3	重さ2.4g	-	-	
25				一括	磁器	土瓶	(7.2)	9.25	(7.6)	-	-	
26				一括	白陶質	吉鉢	外径2.05	厚さ0.2	重さ4.4g	-	-	
1				SK1	土器	かわらけ	(9.4)	2.5	(5.4)	やや密	SYR 黒6/6	明治二十四年五號
2	19-12 平府城下町遺跡			SK1	磁器	皿	(26.0)			黒	SY オリーブ5/4	
3				一括	陶器	破			黒	-		
4				一括	石製品	硯石	長さ10.0	幅4.0	厚さ1.9	重さ13.7g		
1				T/r5	磁器	碗			黒	5G 反白8/1		
2				T/r5	ガラス製品	化粧瓶	3.3	5.4	3.8	白色不透明		
3				T/r5	磁器	蓋	4.0			黒	-	
4				T/r5	磁器	破	(10.2)	5.2	(4.0)	黒	-	
5				T/r5	磁器	破	(11.4)	5.4	4.0	黒	-	
6				T/r5	磁器	破		3.8		黒	-	供給品
7				T/r5	磁器	破			黒	7.5GY 錫灰8/1		
8				T/r5	磁器	破			黒	2.5GY 明オーリーブ皮7/1		
9	19-15 平府城下町遺跡			T/r5	磁器	鉢	(11.4)	5.55	5.2	黒	-	
10				T/r5	磁器	皿	(18.0)	3.76	10.0	黒	10Y 黄白8/1	
11				T/r5	磁器	皿	12.9	2.3	7.6	黒	5GY 黄白8/1	
12				T/r5	磁器	皿	(11.1)	2.7	6.4	黒	-	
13				T/r5	磁器	皿	10.8	2.0	5.5	黒	-	
14				T/r5	磁器	皿	10.8	2.05	6.5	黒	-	
15				T/r5	磁器	鉢	12.4	5.3	11.1	黒	7.5Y 反白8/1	
16				T/r5	磁器	水溜?			黒	N 反白8/1		
17				T/r5	磁器	漆刷			黒	7.5GY 明緑灰8/1		
18				T/r5	陶器	壺	(7.0)	5.7	(4.0)	黒	-	

出土遺物観察表(2)

単位:cm 重さg

回版 番号	遺物 番号	出土遺跡	出土地点	種別	器種	法 量			土 色	調 色	備 考
						口径	高さ	底径			
19		Tr5		陶器	仏像		43		黒	10YR 灰白7/1	
20	19-15 甲府城下町遺跡	Tr6		ガラス製品	瓶蓋	6.2	3.7		一	透明	
21		表記		磁器	皿			(14.0)	黒密	10YR 灰白8/1	
1	19-16 塩船遺跡			銅製品	環管	長さ7.52	重さ5.9g				
1				土器	S字型	(17.4)			やや密	7.5YR にぶい緑6/4	
2				土器	甌	(14.0)			やや密	7.5YR 緑7/6	
3				土器	甌	(21.5)			黒	10YR にぶい青緑5/3	
4				土器	甌	(16.0)			やや密	10YR 黄4/6	
5				土器	甌	(15.0)			やや密	10YR にぶい黄緑6/3	
6				土器	甌				やや密	7.5YR にぶい緑6/4	
7				土器	高环			(14.2)	やや密	10YR 黄度5/8	
8				土器	高环			12.2	黒	7.5YR にぶい緑6/4	
9	19-19 十丁遺跡			土器	高环				やや密	10YR にぶい黄緑6/4	
10				土器	高环			(6.4)	黒	10YR にぶい黄緑6/3	
11				土器	高环				やや密	SYR にぶい赤緑5/4	穿孔あり
12				土器	高环			(20.0)	黒	10YR にぶい黄緑7/2	
13				土器	台付甌			(8.8)	やや密	7.5YR にぶい緑6/4	
14				土器	S字型				やや密	10YR にぶい黄緑7/2	
15				土器	甌				黒	7.5YR にぶい赤緑5/3	
16				土器	甌			(5.0)	黒	SYR にぶい赤赤5/4	
17				土器	甌?			(6.6)	黒	SYR 橙6/6	
1	19-20 武田城下町遺跡			土器	かわらけ				やや密	10YR 淡黄橙8/4	
2				磁器	白磁			(7.4)	無	—	
1	19-21 武田城下町遺跡			磁器	青花瓶	(11.1)			無	N 灰白8/	
2				陶器	灰陶皿	(11.9)			無	2.5Y にぶい緑6/3	瀬戸美濃大窯
1				陶器	鉢	(16.2)	(0.5)	(7.9)	黒	2.5Y 青緑5/6	
2	19-27 武田城下町遺跡			磁器	青花花瓶	(9.3)			無	10YR 明暦灰7/1	
3				陶器	馬の目皿	(28.2)			黒	2.5Y 反緑8/2	
1	19-32 武田城下町遺跡	T4		土器	かわらけ	(9.0)	(2.0)	(8.0)	やや密	7.5YR 緑6/6	
1				土器	かわらけ	(6.7)			やや密	2.5Y 反緑5/1	溶融物付着
2	19-34 武田城下町遺跡			土器	内瓦鍋			(22.7)	やや密	10YR 淡灰4/1	外腹スス付着
1	19-36 武田城下町遺跡			磁器	灯明皿	(9.4)	2.3		無	SGY 切手リープ灰3/1	
2				磁器	吉鉢	外径2.3	厚さ0.15	重さ2.8g			真永通販
1			pH12	陶文土器	甌			(8.7)	黒	2.5Y 棕褐4/6	
2			pH12	陶文土器	甌			(7.7)	黒	2.5Y 棕赤褐5/6	
3	19-37 武田城下町遺跡			陶文土器	甌?				黒	7.5YR 明暦5/6	
4			pH13	陶文土器	甌				無	SYR 明暦褐5/6	
5			pH2	陶文土器	甌				無	SYR 棕赤褐5/6	
1			T5	土器	かわらけ			(6.7)	黒	SYR 棕6/6	
2			T5 P3	土器	かわらけ			(5.7)	黒	SYR 棕6/6	内腹スス付着
3			T5	土器	甌?				黒	SYR 棕6/6	
4			T5	調査器	甌				黒	10YR 棕反6/1	
5			T5	陶器	鉢				やや密	10YR にぶい青緑7/2	
6	19-41 万寿森古墳	T5 P2		調査器	甌				無	10YR 棕反6/1	
7			T5	陶器	碗				黒	10YR 棕反6/1	
8			T5 P1	石製品	扇形石鏡	厚さ2.05	幅2.0	重さ40g	無	SYR にぶい赤褐5/6	
9			T7 pH8	陶製品	吉鉢	外径2.65	厚さ0.11	重さ3.4g			文久永興
10			T7 pH8	陶器	青磁碗				無	10YR にぶい黄緑5/3	
11			T6 P1	陶製品	不明	厚さ0.4	幅2.2	重さ26.7g			
1			T1 P5	土器	かわらけ	(9.0)			黒	7.5YR 淡黄褐6/6	
2			T1 P7	土器	かわらけ	(11.0)			やや密	5YR 棕5/6	
3			T1 P4	土器	鉢?			(10.0)	やや密	10YR にぶい青緑5/3	
4	19-44 武田氏船跡	T1 P10		磁器	青磁釉花皿	(11.7)			無	10YR 緑6/1	買入あり
5			T1 P15	調製品	鍍錫小金具	径1.2	厚さ0.39	重さ1.0g			金落付
6			T2 P3	土器	かわらけ				5.3	やや密	7.5YR にぶい緑6/4
7			T2 P4	土器	かわらけ	(9.2)	2.5	(4.6)	やや密	7.5YR にぶい緑7/3	外腹スス付着
8			T2 P6	陶器	天板皿	(10.0)			黒密	7.5Y 灰白8/1	瀬戸美濃大窯

出土遺物観察表(3)

単位:cm 重さg

段階 番号	遺物 番号	出土遺跡	出土地点	種別	法 量			施 土	色 調	備 考
					面積	最高	底深			
9		T2 P18	磁器	青花皿				織密	BY 灰白7/2	買入あり
10		T2 P1	陶器	灰釉碗	(11.0)			織密	7.5Y 反白7/2	戸田美濃大窯
11		T2 P11	石製品	砥石	厚さ1.0	重さ19.8g				
12		T3 P16	土器	かわらけ	7.4	1.75	4.1	密	2.5YR 橙8/8	
13		T3 P15	土器	かわらけ	(8.4)	(2.4)	5.1	やや密	2.5Y 黒褐3/1	
14		T3 P16	土器	かわらけ	(8.0)	(1.9)	(5.6)	やや密	2.5Y 黒褐3/1	
15	19-44 武田氏館跡	T3 P10	土器	かわらけ			(5.4)	やや密	10YR にぶい黄橙7/4	
16		T3 P14	土器	内耳鍋	(22.0)			やや密	10YR 反黄褐5/2	武田型
17		T3 P17	土器	内耳鍋			(16.0)	やや密	2.5Y 黄褐8/1	
18		T3 P21	土器	火鉢?				やや密	10YR 反黄褐5/2	
19		T3 P27	陶器	白磁皿	(11.0)			密	7.5Y 反白8/1	
20		T3 P31	陶器	灰釉皿			(7.0)	織密	7.5Y 反白7/2	戸田美濃大窯
21		T3 P13	石製品	一	長さ8.6	幅3.5	厚さ1.8	重さ12g		
1			土器	坪			(4.0)	密	2.5YR 橙6/6	
2			土器	高台杯				密	7.5YR 橙6/6	
3	20-1 磁気道路		土器	要			(5.0)	粗	BYR にぶい赤褐5/4	
4			縫織物器	坪	(5.0)			織密	7.5Y 暗オーブ4/3	
5			灰織物器	破	(10.0)			密	SY 灰白5/1	
6			織物器	要				密	N 反6/	
1			土器	坪?			(5.0)	やや密	2.5Y 橙6/6	
2	20-5 磁気道路		土器	要			(6.0)	粗	2.5YR にぶい暗6/4	
3			土器	要			(8.0)	粗	SYR にぶい赤褐4/3	
1	20-8 字前日遺跡		土器	高台坪				やや密	SYR 明赤褐5/8	
1	20-11 甲連小学校遺跡	東西トレンチ	土器	かわらけ	(12.0)			密	7.5YR にぶい橙7/4	
2		SD1	磁器	碗	(11.0)	5.9	(4.7)	織密	N 反白8/	
3		SD2	陶器	灯明受皿	(7.4)	1.2	(3.5)	密	10YR 橙4/1	
4		SD2	陶器	灯明受皿	10.4	2.0	4.5	密	N 反白7/	
5		SD2	陶器	瓶?			(4.5)	粗	SYR 橙灰5/1	
6		SD2	陶器	碗	(9.3)	5.3	(4.0)	密	SY 反白8/1	
7		SD2	陶器	壺利	2.8			密	SY 反白5/2	
8		SD2	陶器	壺利			7.0	密	10YR 橙6/1	
9		SD2	陶器	壺利	(11.2)			やや密	N 反白8/	二次被熱
10		SD2	陶器	壺利	(34.0)			やや密	SY 反白8/2	壺自16本
11		SD2	磁器	碗				密	7.5Y 明緑反8/1	壺底被底
12		SD2	磁器	碗			(5.5)	密	10Y 反白8/1	玄葉柄・錐形底
13		SD2	磁器	碗	(10.0)			密	5GY 反白8/1	
14		SD2	磁器	碗	(7.0)	4.7	3.4	密	7.5Y 明緑反8/1	
15		SD2	磁器	皿	(14.0)	3.7	(5.6)	密	7.5Y 明緑反8/1	
16		SD2	磁器	壺利	3.5			密	2.5Y 反白8/1	
17	20-12 甲前城下町遺跡		土器	地添			(25.0)	やや粗	7.5YR 産6/6	錐形付
18		SD2	土器	壺利	長さ8.5	厚さ1.4		やや粗	7.5YR 明緑5/6	
19		SD2	土器	壺利	厚さ1.8			やや粗	7.5YR 明緑5/8	一部被熱
20		SD2	石製品	碗	浅長6.0	横幅4.3	重さ27.8g			
21		SK	陶器	灯明受皿	(11.0)	2.0	(5.2)	密	2.5Y 反白8/2	
22		SK	陶器	碗	(10.0)	(5.0)	(4.0)	密	2.5Y 反白8/2	小杉碗
23		SK	陶器	碗	(13.0)			密	5Y 反白7/1	
24		SK	陶器	盤				密	N 反白8/	二二次被熱
25		SK	陶器	土瓶	(6.0)			密	2.5Y 反黄7/2	
26		SK	陶器	壺利	(29.0)			やや粗	2.5YR 橙6/8	壺自7本
27		SK	陶器	壺利				やや粗	2.5YR 橙6/3	
28		SK	磁器	灰おとし	(5.0)			密	N 反白8/	降剥
29		SK	磁器	坪?			2.0	密		
30		SK1)レンチ一括	磁器	碗	(8.0)	5.7	(3.4)	密	5GY 明緑灰8/1	
31		SK	磁器	壺利			(5.2)	密	5GY 反白8/1	
32		SK	磁器	碗			4.5	密	2.5GY 反白8/1	
33		SK	磁器	皿			(7.0)	密	2.5GY 明緑リーフ8/1	
		SK	土器	壺利?			(17.0)	やや粗	SYR 橙6/6	底部砂付

出土遺物観察表(4)

単位:cm 重さg

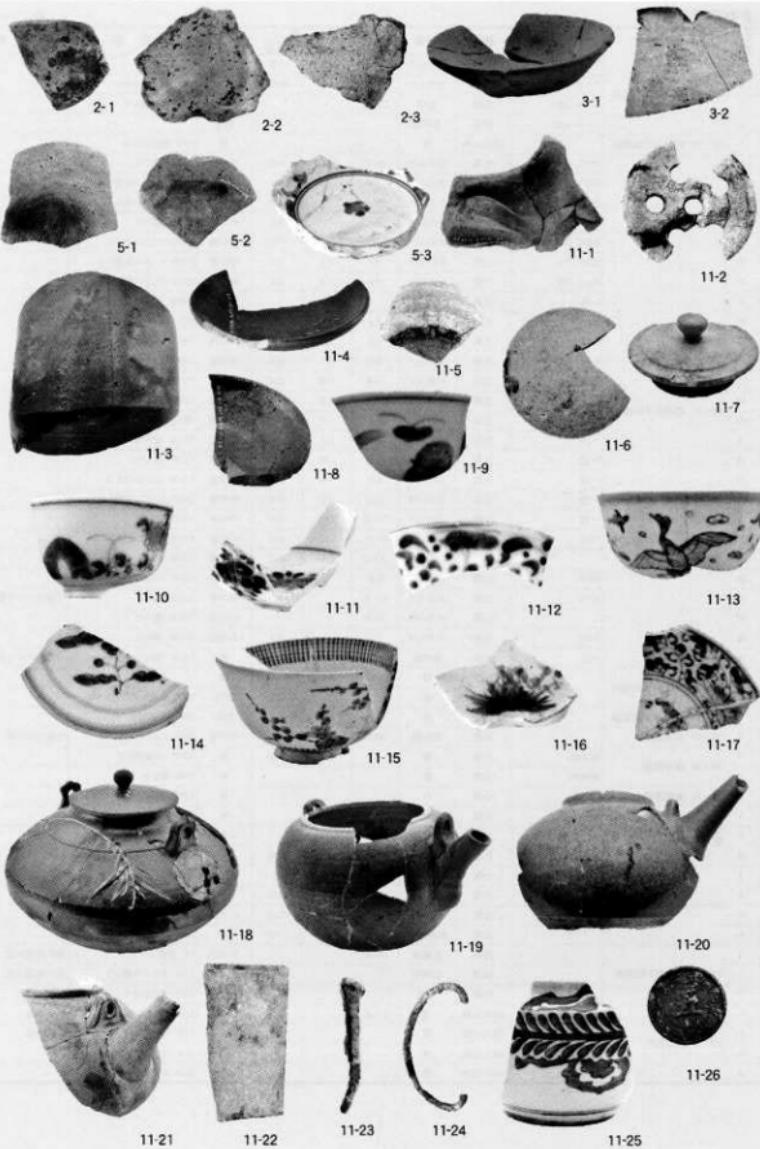
回数 番号	遺物 番号	出土遺跡	出土地点	種別	器種	法 器			胎 土	色 調	備 考	
						口径	器高	底径				
34			SK	土器	縦底直筒	幅1.7	幅3.4	厚さ2.7	やや密	SYR 稲6/6		
35			SK	鉄製品	釘	幅3.2	幅0.8	重さ2.3g				
36			SK	陶器	釘	幅4.1	幅0.8	重さ4.2g				
37		トレンチ牛糞付近	陶器	破				5.5	やや密	7.5Y 灰白8/1		
38		トレンチ牛糞付近	陶器	鉢	(17.4)	8.7	(8.0)	密	N 灰白8/	二次被熱 煙突付近		
39		トレンチ牛糞付近	陶器	鉢	(25.0)			やや密	10YR 褐赤5/1	見込みトレンチ		
40		トレンチ牛糞付近	陶器	破				4.8	SY 灰白8/2			
41		トレンチ一括	陶器	破				4.8	密	2.5Y 灰白7/1		
42		トレンチ一括	磁器	皿	6.5	1.4	5.0	密	N 灰白8/			
43		トレンチ中央付近	磁器	碗				3.4	能密	SGY 灰白8/1		
44		トレンチ一括	磁器	筒型碗	(8.0)				能密	2.5GY 灰白8/1		
45	20-12 平府城下町下道跡	トレンチ一括	磁器	碗	(9.8)			3.2	能密	SGY 灰白8/1		
46		トレンチ中央付近	磁器	碗	(9.8)	5.1	(3.0)	能密	10Y 灰白8/1			
47		トレンチ一括	磁器	碗	(10.4)	6.1	(4.2)	能密	10Y 灰白7/1			
48		トレンチ一括	土器	壺?	(18.0)			やや粗	SYR 稲6/8			
49		トレンチ一括	土器	瓦質盤	(18.0)	3.3	(14.0)	密	10YR にぶい黄褐色5/3	内外面黑色處理		
50		トレンチ中央付近	土器	壺?		(21.0)		やや粗	SYR 稲6/6			
51		トレンチ一括	土器	甕炉?				やや粗	10YR にぶい黄褐色5/4			
52		トレンチ中央付近	土器	壺炉?				やや粗	7.5YR 稲6/6	スヌ付蓋		
53		トレンチ中央付近	土器	長持	幅2.8	幅2.3		やや密	SYR 明赤褐5/8	二次被熱		
54		トレンチ中央付近	陶製品	灰質	外径2.2	厚さ0.1	重さ1.6g			■■■通寶		
55		トレンチ一括	木製品	楕?	残長13.5	残幅7.3	厚さ1.0					
56		トレンチ一括	木製品	板?	残長29.6	幅13.7	厚さ1.9			穿孔4ヶ		
1		SD1 P18	土器	かわらけ	(7.2)	(1.8)	(5.0)	やや粗	SYR 稲6/8			
2		SD1 P20	土器	火鉢?	(9.6)	(2.6)	(3.0)	能密	10YR 赤褐色4/3			
3		SD1 P13	陶器	灯明皿				能密	2.5GY オリバー灰8/1	底部に文字		
4		SD1 一括	土器	人形				密	10YR にぶい黄褐色7/4			
5			陶器?	壺?				10.0	密	7.5YR 稲赤褐3/3		
6		P15	陶器	皿				(5.0)	密	10YR にぶい黄褐色6/4	志士呂大窓	
7		P25	陶器	天目茶碗	(11.0)				能密	2.5YR 緑縞赤褐2/2	瀬戸美濃大窓	
8		トレンチ一括	陶器	天目茶碗				(6.0)	密	2.5YR 緑縞赤褐2/3	瀬戸美濃大窓	
9			磁器	氣泡器	1.9	0.7	外径1.8	能密	N 灰白8/			
10			磁器	青花皿	(21.0)			やや粗	SYR にぶい緑褐色8/4			
11			磁器	壺	3.6			能密	SGY 灰白8/1			
12			磁器	湯呑	(7.4)	7.55	(3.8)	能密	N 灰白8/			
13			瓦	薪火瓦				重さ7.1g				
14			石製品	砾石	外径2.4	厚さ0.14	重さ2.7g					
15			陶製品	古鏡				重さ13.3g			皇宋通寶	
16			鐵製品	釘	幅2.8	厚さ0.13	重さ52.0g					
17			鐵製品	釘の一部	幅2.4	厚さ0.13	重さ12.6g					
1		SD1	陶器	壺				5.3	密	2.5Y 透黃7/4		
2		SD1	磁器	破	(2.0)			3.4	能密	10GY 明暦灰8/1		
3		SD1	磁器	皿				11.4	能密	SGY 灰白8/1		
4		SD1	土解品	鳥形土人形					能密	2.5YR 明赤褐5/6		
5			陶器	鉢	(30.0)				能密	2.5YR 赤褐色5/2		
6			磁器	壺				4.0	能密	SGY 灰白8/1		
7			真珠製品	不明	長さ7.5	重さ1.2g						
8			真珠製品	古鏡	外径2.4	重さ2.8g					■■■通寶	
1	20-19 平府城下町下道跡		磁器	壺	(12.0)				能密	N 灰白8/		
2	20-20 武田城下町下道跡		陶器	馬の目皿	(21.0)	(4.0)	(10.0)	能密	SY 灰白7/1	トレンチ底あり		
3			磁器	壺				(4.0)	能密	SY 灰白7/1		
1	20-22 塩野道跡	SD	陶器	馬の目皿				(8.0)	やや密	SY 灰白8/1		
1	20-26 武田城下町下道跡		土器	内耳瓶				16.0	やや粗	SYR 稲6/8		
2	20-27 武田城下町下道跡	T-5 pit1	土器	鉢	(35.0)				粗	2.5YR 赤褐色4/8		
3		T-4 pit9	土器	かわらけ	(6.0)	(1.5)	(3.4)	やや密	2.5YR 明赤褐5/6			
4		T-4	土器	鉢	(16.0)			粗	SYR 稲6/8			
			土器	かわらけ	(12.0)	(3.1)	(6.0)	やや粗	SYR 稲6/8			

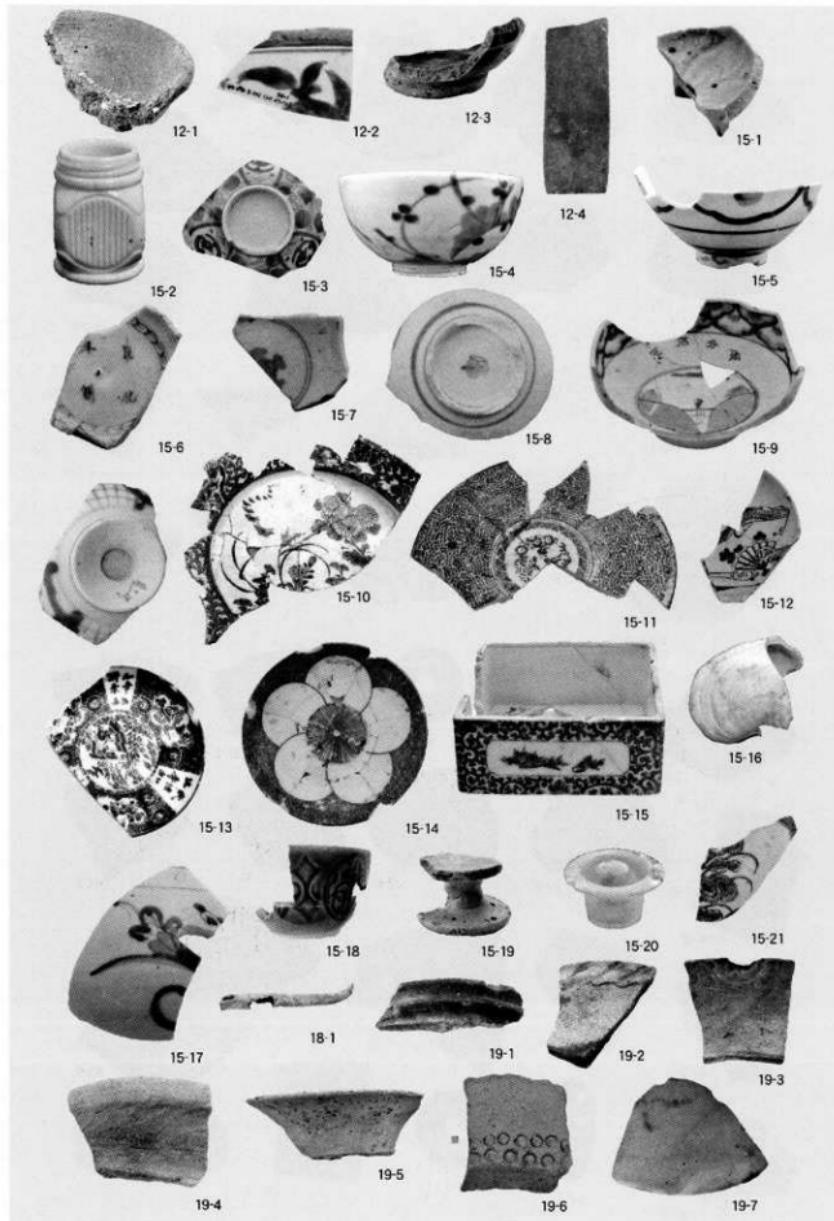
出土遺物観察表(5)

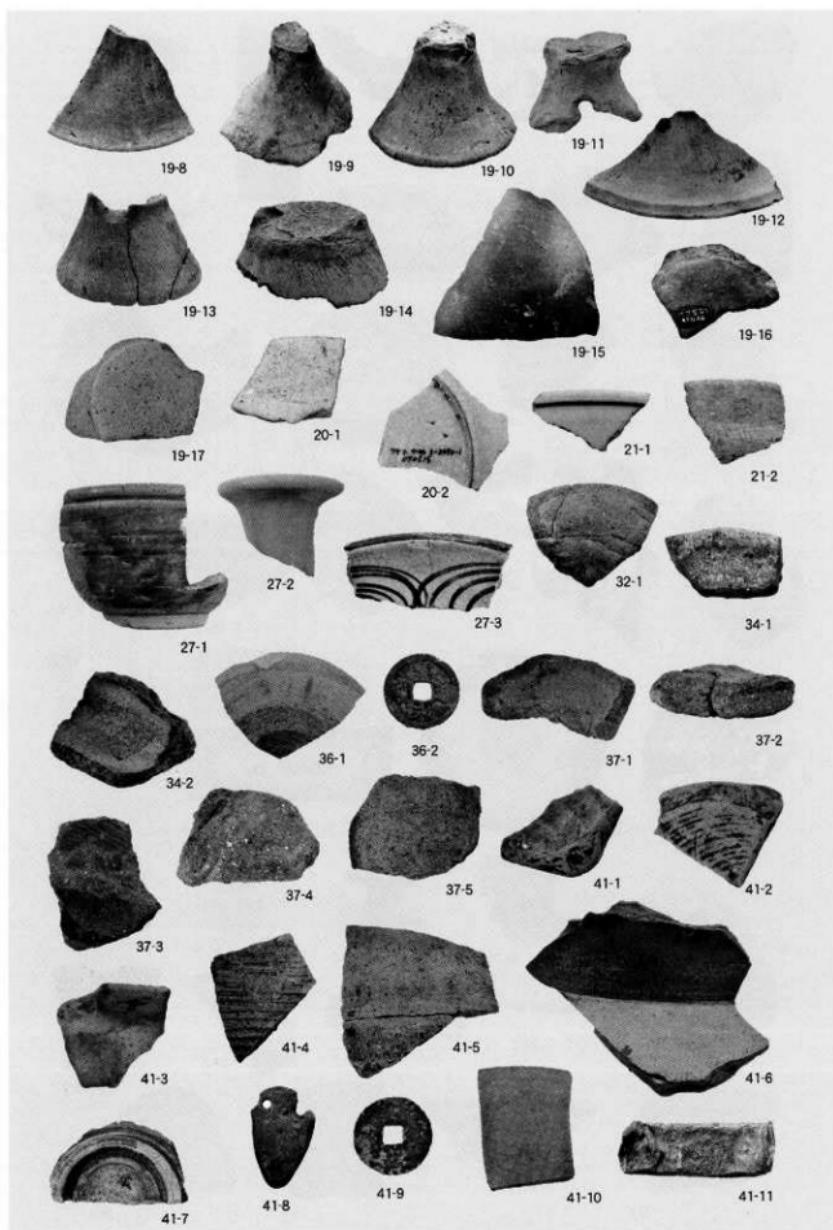
単位: cm 重さ

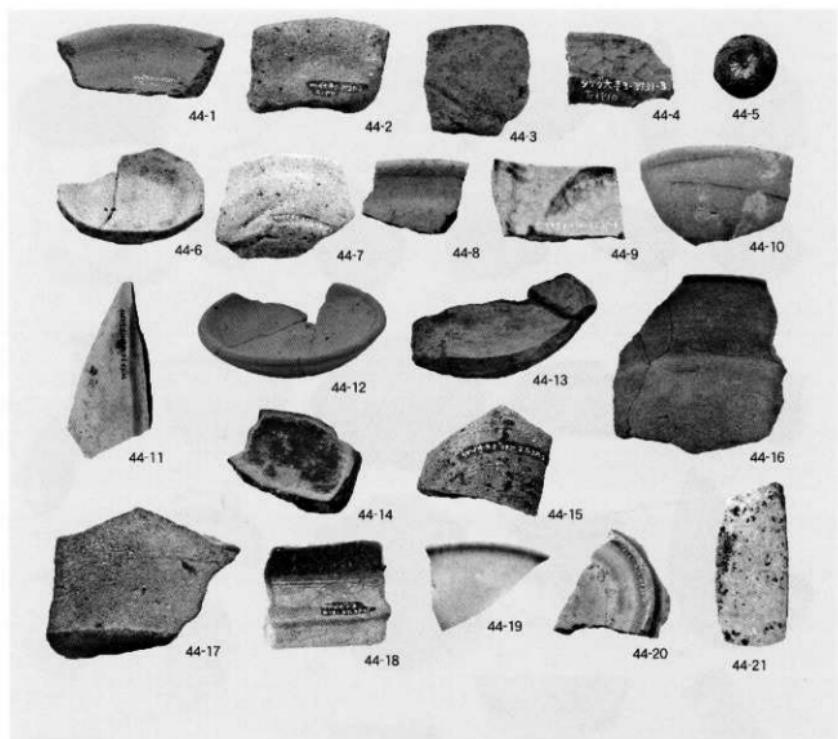
区分	遺物 番号	出土跡	出土地点	種別	器種	法 量			施 土	色 調	備 考
						口径	高さ	底径			
	5	T-4 一括	土器	かわらけ			(6.0)		やや密	7.SYR 棕7/6	
6	20-27 武田城下町遺跡	T-4 一括	土器	かわらけ			(9.0)		やや密	SYR 明赤褐5/6	
7	T-4 pit1	土器	壺	(10.0)					やや密	SYR 明赤褐5/6	
8	T-4 pit1	器種	青磁罐				(5.0)		密		
1	20-28 武田城下町遺跡	縄文土器 要							粗	SYR 明赤褐5/6	
1	SD1 P3	土器	かわらけ	(12.0)	2.9	(4.6)			やや密	7.SYR 棕7/6	
2	SD1 P2	土器	かわらけ	7.2	2.0	4.4			やや密	10VR にぶい黄緑7/4	
3	SD2 P1	土器	かわらけ	(11.6)	3.1	(6.0)			やや密	7.SYR にぶい緑7/4	
4	SD4 P1	土器	かわらけ			6.4			やや密	7.SYR 棕7/4	
5	SD6 P1	土器	かわらけ			(7.0)			やや密	7.SYR にぶい黄緑7/4	
6	SD6 P1	土器	かわらけ	8.2	1.7	4.8			やや密	10VR にぶい黄緑7/4	
7	SD6 P9	土器	かわらけ	8.8	1.6	2.0			やや密	10VR にぶい黄緑7/4	
8	一括	土器	白斐甌						密	7.SYR 棕7/4	
9	P1	土器	かわらけ	7.3	1.5	4.1			やや密	SYR 明赤褐5/6	
10	P27	土器	かわらけ	8.8	1.8	4.2			やや密	7.SYR 棕7/6	
11	P10	土器	かわらけ	(8.6)	2.1	(6.0)			やや密	7.SYR 棕7/6	
12	P28	土器	かわらけ	(8.4)	1.95	(5.0)			やや密	7.SYR 棕7/6	
13	P29	土器	かわらけ	(7.2)	2.0	(4.0)			やや密	7.SYR 棕7/6	
14	一括	土器	かわらけ	(8.0)	1.9	(5.0)			やや密	10VR にぶい黄緑7/4	
15	一括	土器	かわらけ	(8.1)	1.7	(6.3)			やや密	7.SYR 棕7/6	
16	一括	土器	かわらけ	(8.6)	2.25	(5.3)			やや密	7.SYR 棕7/6	
17	一括	土器	かわらけ	(8.0)	1.9	(5.0)			やや密	7.SYR にぶい緑6/4	
18	一括	土器	かわらけ	(8.2)	1.45	(6.4)			やや密	10VR にぶい黄緑7/4	
19	一括	土器	かわらけ	(11.0)	2.15	(6.6)			やや密	7.SYR 棕6/6	
20	P42	土器	かわらけ	(11.6)	2.55	(7.0)			やや密	7.SYR にぶい緑6/4	
21		土器	かわらけ	(11.2)	2.6	(6.0)			やや密	7.SYR 棕6/6	
22	P44	土器	かわらけ	(8.0)					やや密	10VR にぶい黄緑7/4	
23	P31	土器	かわらけ	(11.6)					やや密	7.SYR 棕7/6	口縁部又付着
24		土器	かわらけ	(14.0)					やや密	7.SYR 棕7/6	
25	P44	土器	かわらけ			6.5			やや密	7.SYR 棕6/6	
26	一括	土器	青磁罐	(28.0)	51	(28.0)			密	7.SYR 棕6/4	外表面又付着
1	20-34 武田城下町遺跡	陶器	壺	(8.0)	4.8	(3.6)			密		
2		磁器	壺			(3.5)			密	SGY 灰白8/1	
1	20-35 武田城下町遺跡	磁器	壺	(8.0)	4.8	(3.4)			密	SGY 灰白8/1	
1	20-37 塩木遺跡	土器	燒結罐	(32.0)					密	SGY 灰白8/1	
1	20-38 鹿塚遺跡	面渦内	土器	要					やや密	SYR にぶい青緑5/4	外表面又付着
2		面渦内	土器	要					粗	SYR 棕6/6	
1	20-39 鹿塚遺跡	土器	一						粗	7.SYR 棕4/3	
1	20-42 緋が丘一丁目遺跡	Aレンチ	土器	足?	(16.6)				密	SYR 棕6/6	
2		Aレンチ	土器	足?					やや密	7.SYR にぶい緑7/4	
3		Bレンチ	土器	坏	(8.0)	(2.3)	(7.0)		密	SYR にぶい緑6/4	
1			土器	かわらけ	(12.8)				密	SYR 明赤褐5/6	内面又付着
2	20-46 村内遺跡		土器	5字彙					粗	7.SYR 棕7/6	
3			土器	内瓦瓶					やや密	SYR 反掩4/2	
4			土器	瓦質植株					粗	2.5V 反白7/1	
1			陶器	灰陶碗	(12.0)				やや密	SYR 反白7/2	福井県大東
2	20-47 武田城下町遺跡	陶器	灰陶皿			(5.0)			粗	7.5V オーリーブ黄6/3	福井県大東
3		磁器	雷鉢						やや密	SYR 明赤褐5/6	
1			磁器	縄文土器	要	(15.4)			やや密	7.SYR にぶい赤褐5/4	縄文付着
2			磁器	縄文土器	要				粗	SYR 褐赤褐3/3	縄文付着
3			磁器	縄文土器	要				粗	SYR にぶい赤褐5/4	
4			磁器	縄文土器	要				粗	SYR 褐褐4/6	

平成 19 年度

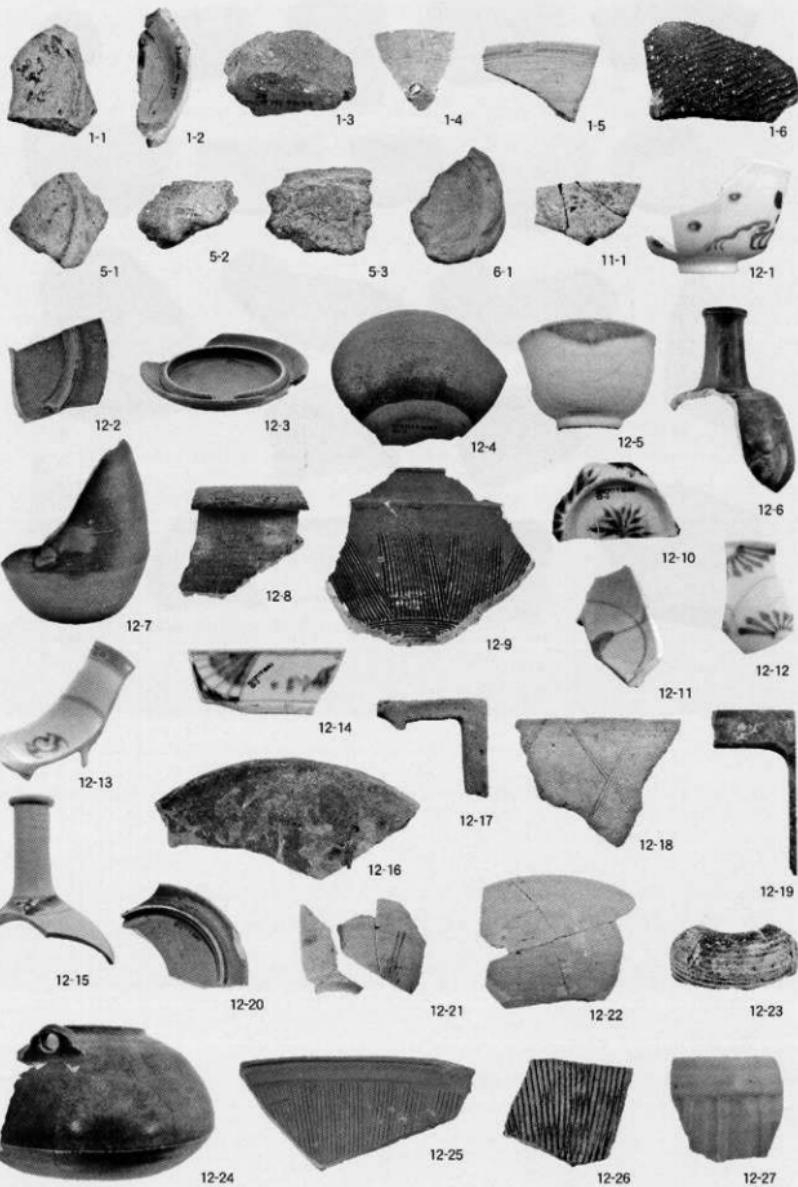


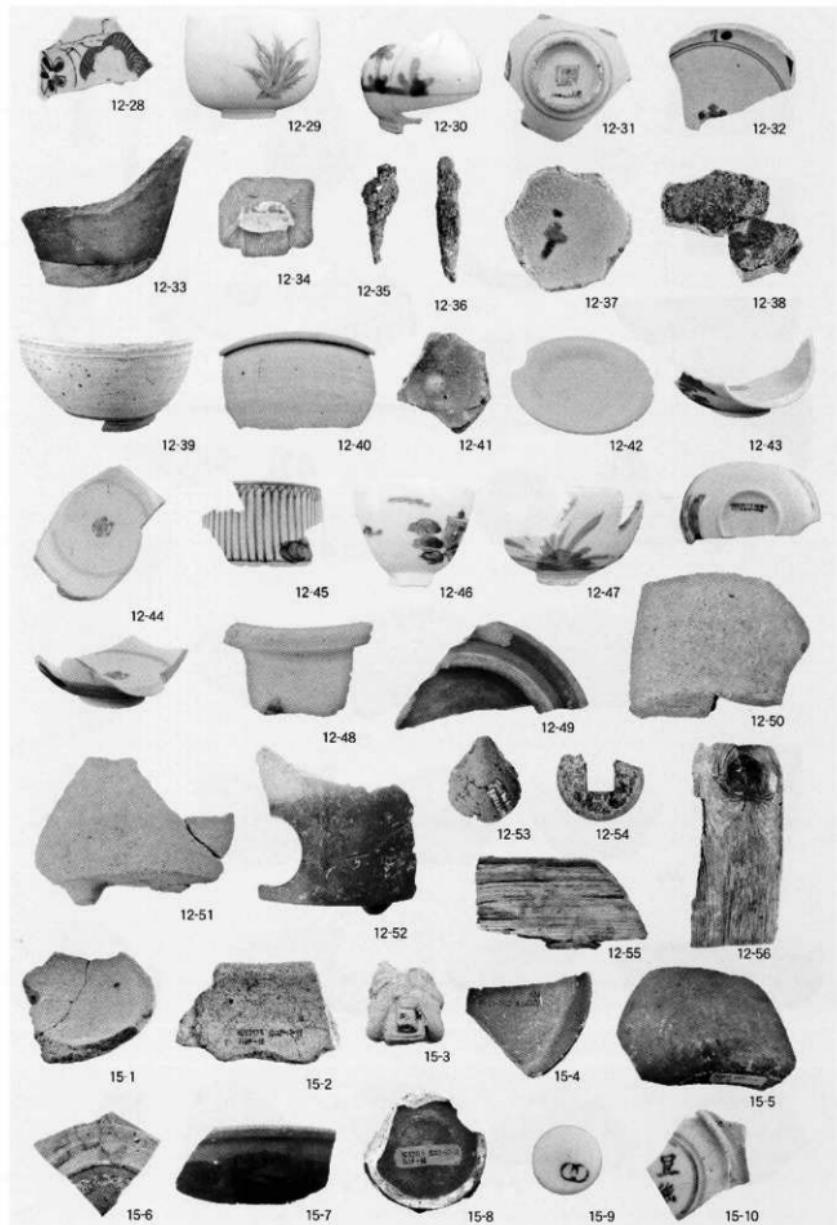


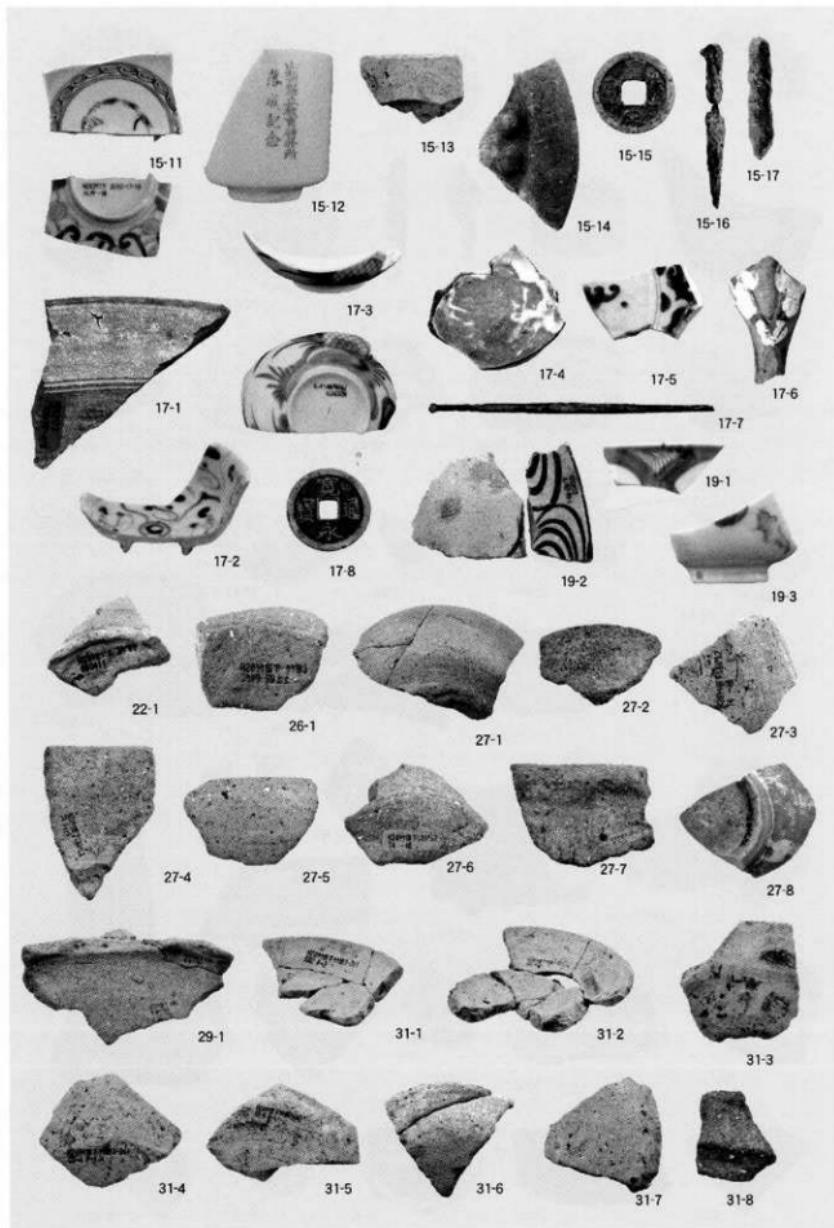


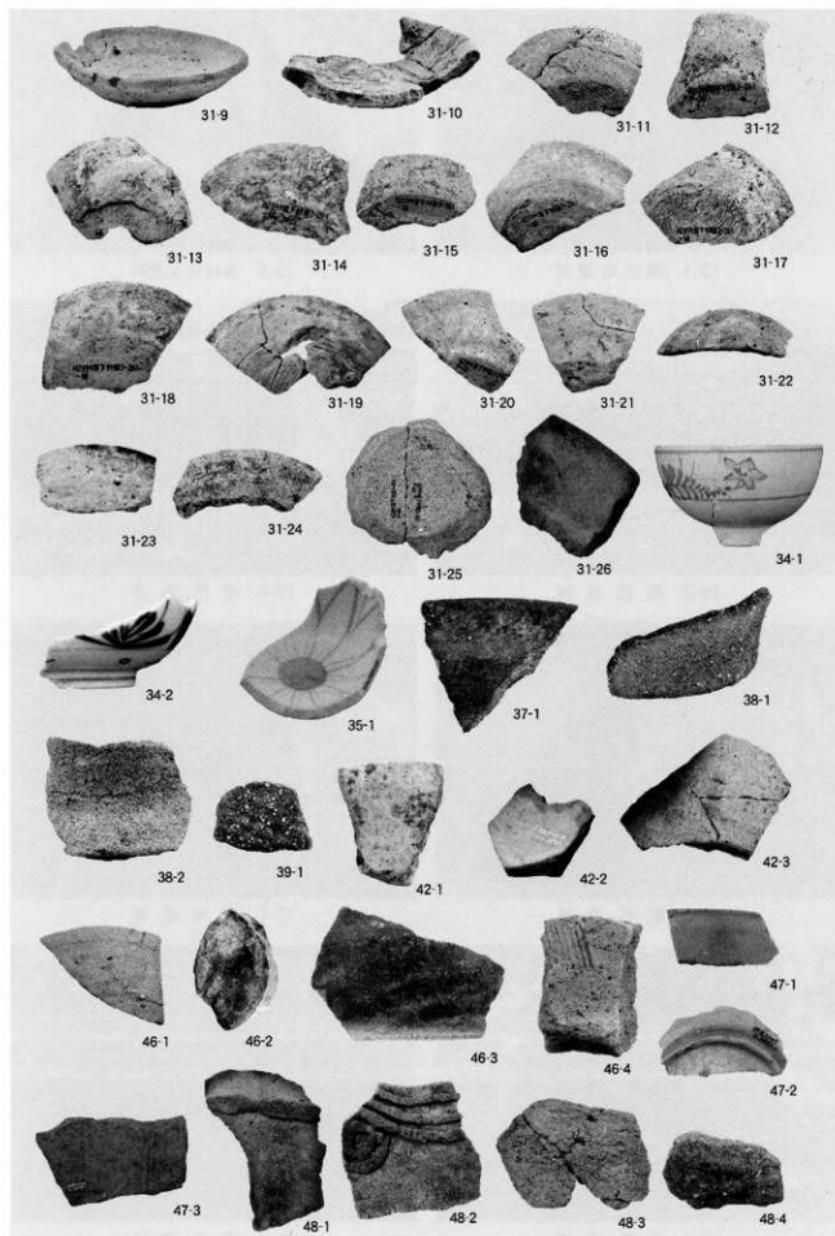


平成 20 年度







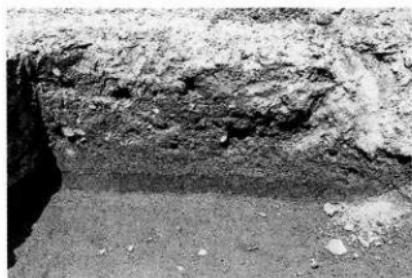




19-1 青葉町遺跡



19-5 居村村上遺跡



19-2 朝氣遺跡



19-6 横田遺跡



19-3 朝氣遺跡



19-7 横田遺跡



19-4 朝氣遺跡



19-8 横田遺跡



19-9 音羽遺跡



19-11 甲府城下町遺跡



19-10 甲府城下町遺跡



19-12 甲府城下町遺跡



19-12 甲府城下町遺跡



19-13 甲府城下町遺跡



19-14 甲府城下町遺跡



19-15 甲府城下町遺跡



19-19 十丁遺跡



19-16 塩部遺跡



19-20 武田城下町遺跡



19-17 塩部遺跡



19-21 武田城下町遺跡



19-18 塩部遺跡



19-22 武田城下町遺跡



19-23 武田城下町遺跡



19-27 武田城下町遺跡



19-24 武田城下町遺跡



19-28 武田城下町遺跡



19-25 武田城下町遺跡



19-29 武田城下町遺跡



19-26 武田城下町遺跡



19-30 武田城下町遺跡



19-31 武田城下町遺跡



19-35 武田城下町遺跡



19-32 武田城下町遺跡



19-36 武田城下町遺跡



19-33 武田城下町遺跡



19-37 武田城下町・大手下遺跡



19-34 武田城下町遺跡



19-38 中坪遺跡



19-38 中坪遺跡



19-41 万寿森古墳



19-39 西耕地C遺跡



19-41 万寿森古墳



19-39 西耕地C遺跡



19-41 万寿森古墳



19-40 平石遺跡



19-42 緑が丘二丁目遺跡



20-1 朝氣遺跡



19-43 蔵ノ内遺跡



20-2 朝氣遺跡



19-44 武田氏館跡



20-3 朝氣遺跡



19-44 武田氏館跡



20-4 朝氣遺跡



20-5 朝氣遺跡



20-9 大坪遺跡



20-6 字前B遺跡



20-10 神田遺跡



20-7 橋田遺跡



20-8 大坪遺跡



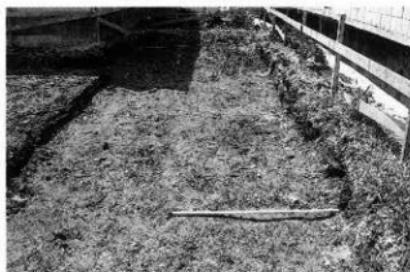
20-11 甲運小学校遺跡



20-12 甲府城下町遺跡



20-15 甲府城下町遺跡



20-13 甲府城下町遺跡



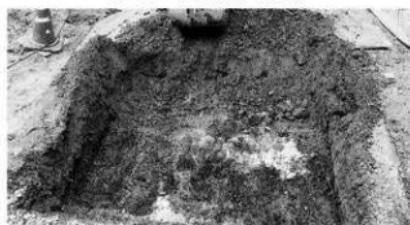
20-15 甲府城下町遺跡



20-13 甲府城下町遺跡



20-16 甲府城下町遺跡



20-14 甲府城下町遺跡



20-17 甲府城下町遺跡



20-18 甲府城下町遺跡



20-22 塩部遺跡



20-19 甲府城下町遺跡



20-23 塩部遺跡



20-20 甲府城下町遺跡



20-24 塩部遺跡



20-21 甲府城下町遺跡



20-25 外河原デクヤ遺跡



20-25 外河原デクヤ遺跡



20-27 武田城下町遺跡
2008.04.23



20-26 武田城下町遺跡



20-28 武田城下町遺跡



20-27 武田城下町遺跡



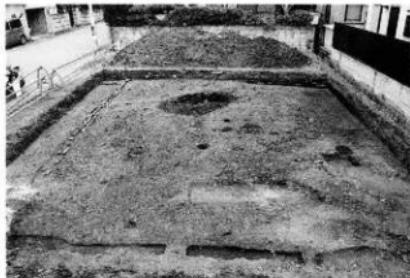
20-29 武田城下町遺跡



20-27 武田城下町遺跡
2008.04.23



20-30 武田城下町遺跡



20-31 武田城下町遺跡



20-34 武田城下町遺跡



20-31 武田城下町遺跡



20-35 武田城下町遺跡



20-32 武田城下町遺跡



20-36 塚腰遺跡



20-33 武田城下町遺跡



20-37 塚本遺跡



20-38 藤塚古墳



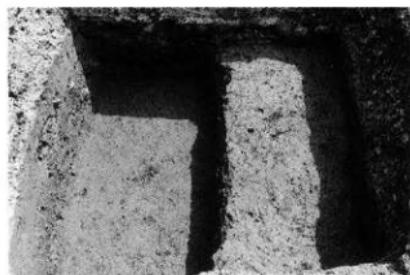
20-41 緑が丘一丁目遺跡



20-39 藤塚古墳



20-42 緑が丘一丁目遺跡



20-43 緑が丘一丁目遺跡



20-40 前田遺跡



20-44 緑が丘二丁目遺跡



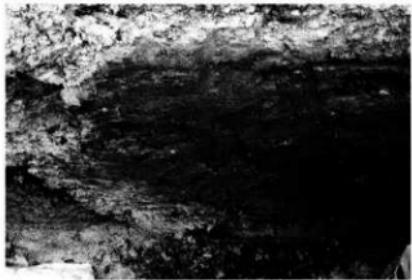
20-45 宮の前遺跡



20-47 武田城下町遺跡



20-46 村内遺跡



20-48 向山遺跡



20-47 武田城下町遺跡

報告書抄録

ふりがな	なこふしないいせき	9		
重複書	甲府市内遺跡 区			
調査年月	平成19・20年度試掘調査報告書	卷次		
シリズ	甲府市文化財調査報告書	シリズ番号	83	
場所	甲府市教育委員会			
在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号	電話	055(223)7324	
発行年月	平成25年3月29日			

掲載番号	フリガナ 所在地	コード 市町村番号:道跡番号 東経(°'")	北緯(°'")	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡名	種類 主な時代		主な遺物			
19-1	アツカツ 青葉町遺跡 散布地	青葉町1375-3 敷布地	19201 199	35° 38' 37" 138° 35' 13"	H. 20. 3. 8 3m ²	個人住宅建設
19-2	アツカツ 朝氣遺跡 集落跡	朝氣二丁目700-1他 集落跡	19201 121	35° 39' 4" 138° 35' 2"	H. 19. 8. 21 4m ²	集合住宅建設
19-3	アツカツ 朝氣遺跡 集落跡	朝氣三丁目45 集落跡	19201 121	35° 39' 4" 138° 34' 51"	H. 19. 10. 10 12m ²	集合住宅建設
19-4	アツカツ 朝氣遺跡 集落跡	朝氣二丁目521-7 集落跡	19201 121	35° 39' 2" 138° 35' 8"	H. 19. 10. 13 1. 5m ²	個人住宅建設
19-5	アツカツ 居村上遺跡 散布地	居村上五丁目250-1 敷布地	19201 69	35° 40' 19" 138° 32' 23"	H. 19. 8. 16 18. 5m ²	その他建物
19-6	アツカツ 桜田遺跡 散布地	平塚五丁目3055 敷布地	19201 17	35° 41' 8" 138° 32' 16"	H. 19. 11. 21-22, 12. 3 14m ²	集合住宅建設
19-7	アツカツ 桜田遺跡 散布地	平塚五丁目3448-5他 敷布地	19201 17	35° 41' 16" 138° 32' 15"	H. 19. 11. 26 3m ²	個人住宅建設
19-8	アツカツ 桜田遺跡 散布地	平塚五丁目3063 敷布地	19201 17	35° 41' 9" 138° 32' 17"	H. 20. 2. 28 8m ²	集合住宅建設
19-9	アツカツ 音羽遺跡 敷布地	音羽町377-1 敷布地	19201 28	35° 40' 42" 138° 32' 37"	H. 19. 5. 31 25m ²	個人住宅建設
19-10	アツカツ 甲府城下町遺跡 城下町	北口三丁目5-1他 近世	19201 253	35° 40' 3" 138° 34' 17"	H. 19. 4. 5 7. 6m ²	個人住宅建設
19-11	アツカツ 甲府城下町遺跡 城下町	武田一丁目16-1他 近世	19201 253	35° 40' 19" 138° 34' 7"	H. 19. 6. 21~22 5. 6m ²	個人住宅兼店舗
19-12	アツカツ 甲府城下町遺跡 城下町	中央五丁目302他 近世	19201 253	35° 39' 26" 138° 34' 36"	H. 19. 7. 5 1m ²	個人住宅建設
19-13	アツカツ 甲府城下町遺跡 城下町	丸の内一丁目262 近世	19201 253	35° 39' 49" 138° 34' 14"	H. 19. 8. 22 10m ²	個人住宅建設
19-14	アツカツ 甲府城下町遺跡 城下町	北口二丁目18他 近世	19201 253	35° 40' 12" 138° 34' 13"	H. 19. 11. 13 27. 5m ²	集合住宅建設
19-15	アツカツ 甲府城下町遺跡 城下町	武田一丁目3他 近世	19201 253	35° 40' 17" 138° 34' 8"	H. 20. 1. 18~25 126. 4m ²	集合住宅建設
19-16	アツカツ 塙部遺跡 包蔵地	塙部三丁目677-2 包蔵地	19201 74	35° 40' 25" 138° 33' 27"	H. 19. 4. 19~21 140m ²	集合住宅建設
19-17	アツカツ 塙部遺跡 包蔵地	塙部三丁目556-3 包蔵地	19201 74	35° 40' 20" 138° 33' 27"	H. 19. 6. 19 4m ²	個人住宅建設
19-18	アツカツ 塙部遺跡 包蔵地	塙部一丁目441-1他 包蔵地	19201 74	35° 40' 14" 138° 33' 32"	H. 19. 12. 4 21m ²	店舗建設
19-19	アツカツ 十丁遺跡 敷布地	豊吉三丁目831-1他 古墳	19201 195	35° 38' 50" 138° 35' 2"	H. 19. 10. 19~11. 9 200m ²	宅地造成

19-20	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形三丁目2470-1 城下町 中世	19201 252	35° 41' 3" 138° 34' 32"	H. 19. 5. 15~16 4.6m 土器・陶磁器	個人住宅建設
19-21	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 大手一丁目4589-6他 城下町 中世	19201 252	35° 40' 48" 138° 34' 26"	H. 19. 5. 29 18. 5m 土器・陶磁器	個人住宅建設
19-22	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形二丁目2448-1 城下町 中世	19201 252	35° 41' 3" 138° 34' 26"	H. 19. 11. 8 6m 土器・陶磁器	個人住宅建設
19-23	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形一丁目1996-3 城下町 中世	19201 252	35° 40' 58" 138° 34' 12"	H. 19. 7. 17 4m 土器・木製品	個人住宅建設
19-24	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 吉府中町6062-8 城下町 中世	19201 252	35° 41' 24" 138° 34' 38"	H. 19. 8. 1 10. 5m ビット2基・渾1条 土器・木製品	個人住宅建設
19-25	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形三丁目234-1 城下町 中世	19201 252	35° 40' 30" 138° 34' 13"	H. 19. 9. 3~4 16m 土器・木製品	個人住宅建設
19-26	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 吉府中町2813 城下町 中世	19201 252	35° 41' 25" 138° 34' 48"	H. 19. 10. 3 1. 5m 土器・木製品	個人住宅建設
19-27	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形三丁目309他 城下町 中世	19201 252	35° 40' 28" 138° 34' 14"	H. 19. 10. 9 20m 陶磁器片	個人住宅建設
19-28	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 宮前町203-1他 城下町 中世	19201 252	35° 40' 32" 138° 34' 38"	H. 19. 10. 25 4m 土器・木製品	集合住宅建設
19-29	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 天神町241 城下町 中世	19201 252	35° 40' 37" 138° 34' 8"	H. 19. 10. 30 26m 土器・木製品	個人住宅建設
19-30	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 天神町241 城下町 中世	19201 252	35° 40' 37" 138° 34' 8"	H. 19. 11. 15~16 20. 6m 土器・木製品	個人住宅建設
19-31	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 天神町241 城下町 中世	19201 252	35° 40' 37" 138° 34' 8"	H. 19. 11. 15~16 19. 2m 土器・木製品	個人住宅建設
19-32	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 天神町241-5 城下町 中世	19201 252	35° 40' 37" 138° 34' 8"	H. 19. 11. 15~16 18. 6m 土器・木製品	個人住宅建設
19-33	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形一丁目1960-4他 城下町 中世	19201 252	35° 40' 54" 138° 34' 8"	H. 19. 12. 7 16m 土器・木製品	集合住宅建設
19-34	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形三丁目141-4他 城下町 中世	19201 252	35° 40' 32" 138° 34' 21"	H. 19. 12. 7 30m 土器・木製品	個人住宅建設
19-35	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 下後谷寺897-1他 城下町 中世	19201 252	35° 41' 32" 138° 34' 51"	H. 19. 12. 10 4m 土器・木製品	個人住宅建設
19-36	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡	タケダジウカマツ 尾形三丁目1570 城下町 中世	19201 252	35° 41' 10" 138° 34' 18"	H. 20. 3. 19 10m 陶磁器・銅質	個人住宅建設
19-37	タケダジウカマツ 武田城下町遺跡・大手下道跡	タケダジウカマツ 大手三丁目3767 城下町 敷地 廣場	19201 244	35° 41' 4" 138° 34' 42"	H. 19. 4. 9~27 36m 土器・石壁	個人住宅建設
19-38	ナガボ 中坪遺跡	ナガボ 里吉二丁目284-2 敷地 廣場	19201 136	35° 39' 9" 138° 35' 30"	H. 19. 10. 11~19 92m 土器・石壁	宅地造成
19-39	シシキウカ 西耕地C遺跡	シシキウカ 大里町4459-5 敷地 中世	19201 233	35° 37' 5" 138° 33' 40"	H. 19. 8. 21 16. 6m 土器・石壁	個人住宅建設
19-40	ヒラゴ 平石遺跡	ヒラゴ 荒川二丁目1014-1他 敷地 平安	19201 68	35° 40' 32" 138° 32' 12"	H. 19. 6. 18 75m 土器・石壁	店舗建設
19-41	アシカ 万葉森古墳	アシカ 津幡三丁目462-1他 古墳	19201 35	35° 40' 49" 138° 33' 8"	H. 19. 11. 5~12. 3 64m 土器・古墳	宅地造成
19-42	アシカ 葦が丘二丁目遺跡	アシカ 葦が丘二丁目2144-3 敷地 古墳~平安	19201 42	35° 40' 57" 138° 33' 36"	H. 19. 11. 16 6. 5m 土器・古墳	宅地造成
19-43	セイツ 數ノ内遺跡	セイツ 白井町198-1 敷地 古墳	19201 中-45	35° 36' 19" 138° 36' 8"	H. 20. 2. 29 18m 土器・古墳	個人住宅建設

19-44	オサ子 大手三丁目3731-1他 武田氏館跡	19201	1110	35° 41' 7" 138° 34' 37"	H. 20. 3. 14~4. 4 109m ^f	範囲確認
20-1	オサケ 朝氣遺跡 集落跡	19201	121	35° 39' 2" 138° 35' 4"	H. 20. 4. 18~25 20m ^f	個人住宅兼店舗
20-2	オサケ 朝氣遺跡 集落跡	19201	121	35° 39' 13" 138° 35' 5"	H. 20. 6. 12~17 4m ^f	個人住宅建設
20-3	オサケ 朝氣遺跡 集落跡	19201	121	35° 38' 56" 138° 34' 54"	H. 20. 6. 18~23 4m ^f	個人住宅建設
20-4	オサケ 朝氣遺跡 集落跡	19201	121	35° 38' 59" 138° 34' 54"	H. 20. 6. 23 4m ^f	個人住宅建設
20-5	オサケ 朝氣遺跡 集落跡	19201	121	35° 39' 2" 138° 35' 6"	H. 20. 7. 3 10m ^f	集合住宅建設
20-6	オサケ 朝氣遺跡 集落跡	19201	201	35° 38' 49" 138° 35' 23"	H. 21. 3. 18 35m ^f	宅地造成
20-7	オサケ 横木遺跡 敷布地	19201	17	35° 41' 16" 138° 32' 15"	H. 20. 11. 21 20m ^f	個人住宅建設
20-8	オサケ 大坪遺跡 生産遺跡	19201	149	35° 39' 15" 138° 36' 38"	H. 20. 5. 21 10m ^f	その他建物
20-9	オサケ 大坪遺跡 生産遺跡	19201	149	35° 38' 25" 138° 36' 37"	H. 20. 5. 22 2. 3m ^f	個人住宅建設
20-10	オサケ 神田遺跡 敷布地	19201	26	35° 40' 54" 138° 32' 34"	H. 20. 4. 23 4m ^f	個人住宅建設
20-11	オサケ 甲連小学校遺跡 コウジンクワガタ	19201	-	35° 39' 20" 138° 37' 20"	H. 20. 8. 4. 19 24m ^f	学校建設
20-12	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 39' 34" 138° 34' 40"	H. 20. 6. 25 31m ^f	その他建物
20-13	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 40' 15" 138° 34' 2"	H. 20. 7. 2 35m ^f	個人住宅建設
20-14	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 39' 24" 138° 34' 32"	H. 20. 7. 3 4m ^f	個人住宅建設
20-15	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 40' 12" 138° 34' 13"	H. 20. 8. 11~18 44m ^f	学校建設
20-16	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 39' 50" 138° 33' 55"	H. 20. 9. 3 4m ^f	店舗建設
20-17	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 40' 4" 138° 33' 55"	H. 20. 9. 8~9 150m ^f	土地区画整理
20-18	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 40' 4" 138° 34' 30"	H. 20. 10. 3 4m ^f	個人住宅建設
20-19	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 40' 0" 138° 33' 56"	H. 20. 10. 7 4m ^f	個人住宅建設
20-20	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 40' 15" 138° 33' 56"	H. 20. 12. 18 4. 8m ^f	個人住宅建設
20-21	オサケ 甲府城下町遺跡 コウジンクワガタ	19201	253	35° 40' 12" 138° 34' 5"	H. 21. 3. 23 7. 8m ^f	個人住宅建設
20-22	オサケ 塩部遺跡 シカベ	19201	74	35° 40' 12" 138° 33' 36"	H. 20. 4. 9~11 4m ^f	個人住宅建設
20-23	オサケ 塩部遺跡 シカベ	19201	74	35° 40' 28" 138° 33' 31"	H. 20. 4. 23 10m ^f	個人住宅建設
20-24	オサケ 塩部遺跡 シカベ	19201	74	35° 40' 13" 138° 33' 38"	H. 20. 9. 25 12m ^f	集合住宅建設

20-25 ソトガワラ 外河原チカヤ遺跡	ミヤギノヒロタウ 住吉町1107他 敷地地 古墳～平安	19201	216	35° 38' 16" 138° 35' 34"	H. 20. 9. 1 188m ²	その他開発
20-26 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 武田三丁目461 城下町 中世	19201	252	35° 40' 32" 138° 34' 24"	H. 20. 4. 22～24 4m ²	個人住宅建設
20-27 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 古南町894-1他 城下町 中世	19201	252	35° 41' 19" 138° 34' 23"	H. 20. 4. 22～23. 25 158m ²	集合住宅建設
20-28 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 下根奈町3040-1 城下町 中世	19201	252	35° 41' 28" 138° 34' 52"	H. 20. 5. 12 36m ²	その他開発
20-29 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 屋形1丁目2083他 城下町 中世	19201	252	35° 40' 51" 138° 34' 13"	H. 20. 7. 1～2 91. 8m ²	宅地造成
20-30 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 大手一丁目4431-1他 城下町 中世	19201	252	35° 40' 56" 138° 34' 37"	H. 20. 7. 3～7 8m ²	集合住宅建設
20-31 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 武田3丁目261 城下町 中世	19201	252	35° 40' 34" 138° 34' 16"	H. 20. 7. 30～8. 13 180m ²	個人住宅建設
20-32 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 大手2丁目4207他 城下町 中世	19201	252	35° 40' 46" 138° 34' 40"	H. 20. 10. 2～3 81m ²	集合住宅建設
20-33 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 屋形一丁目2073-1の一部他 城下町 中世	19201	252	35° 40' 50" 138° 34' 17"	H. 20. 11. 11 4m ²	個人住宅建設
20-34 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ 武田3丁目375 城下町 中世	19201	252	35° 40' 25" 138° 34' 25"	H. 20. 11. 27～28 3m ²	個人住宅建設
20-35 タケダジウカツマ 武田城下町遺跡	タケダ ミヤエヌタウ 富岡町244 城下町 中世	19201	252	35° 40' 36" 138° 34' 31"	H. 21. 3. 16～17 63. 75m ²	宅地造成
20-36 ツガシ 塙遺跡	ツガシ 園玉町907-1 敷地地 共生～古墳	19201	214	35° 38' 53" 138° 35' 52"	H. 21. 3. 17 6m ²	その他開発
20-37 ツガシ 坂本遺跡	ツガシ 千塚一丁目47-1 敷地地 古墳	19201	19	35° 40' 49" 138° 32' 24"	H. 20. 8. 8 10m ²	その他建物
20-38 ツガシ 藤塙遺跡	ツガシ 上阿原町733-10他 古墳 古墳	19201	217	35° 38' 50" 138° 36' 22"	H. 20. 6. 16 7m ²	個人住宅建設
20-39 ツガシ 藤塙遺跡	ツガシ 上阿原町732-1他 古墳 古墳	19201	217	35° 38' 51" 138° 36' 22"	H. 20. 6. 16 12m ²	個人住宅建設
20-40 マニエ 前田遺跡	マニエ 池田一丁目1553-5他 敷地地 平安	19201	72	35° 40' 11" 138° 32' 36"	H. 21. 3. 17～18 60m ²	その他建物
20-41 ツカ 緑ヶ丘一丁目遺跡	ツカ 緑が丘二丁目1152-5 敷地地 古墳	19201	43	35° 40' 48" 138° 33' 42"	H. 20. 7. 17 3m ²	個人住宅建設
20-42 ツカ 緑ヶ丘一丁目遺跡	ツカ 緑が丘二丁目1152-6 敷地地 古墳	19201	43	35° 40' 48" 138° 33' 42"	H. 20. 12. 8 5m ²	個人住宅建設
20-43 ツカ 緑ヶ丘一丁目遺跡	ツカ 緑が丘二丁目138-8 敷地地 古墳	19201	43	35° 40' 48" 138° 33' 37"	H. 21. 3. 26 4m ²	個人住宅建設
20-44 ツカ 緑ヶ丘二丁目遺跡	ツカ 緑が丘二丁目1107-5他 敷地地 古墳～平安	19201	42	35° 40' 49" 138° 33' 36"	H. 20. 11. 17 9m ²	個人住宅建設
20-45 ミヤ 宮の前遺跡	ミヤ 善光寺二丁目2191-7他 敷地地 織文	19201	129	35° 39' 41" 138° 35' 25"	H. 20. 5. 14 5. 25m ²	個人住宅建設
20-46 ムツア 村内遺跡	ムツア 横根町830-2他 敷地地 織文・古墳	19201	143	35° 39' 39" 138° 36' 40"	H. 21. 2. 25～27 31. 5m ²	集合住宅建設
20-47 ツカ 峰本南B遺跡・武田城下町遺跡	ツカ 鹿形三丁目2495-1他 城下町 中世	19201	56	35° 41' 6" 138° 34' 27"	H. 21. 1. 27～3. 18	農業基盤整備
20-48 ムツア 岡山遺跡	ムツア 中野町792付近他 敷地地 織文～古墳	19201	中-19	35° 34' 41" 138° 35' 11"	H. 20. 12. 8～12 下水道工事	

甲府市文化財調査報告 63

甲府市内遺跡 IX

—平成19・20年度試掘確認調査報告書—

平成25年3月29日

発行 甲府市教育委員会

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

TEL 055(223)7324

FAX 055(235)5648

印刷 横内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号
